

豊見城市男女共同参画に関するアンケート調査
結果報告書

平成 30 年 3 月
豊見城市

目次

1	調査の概要	1
2	アンケート調査結果.....	2
	(1) 中学生アンケート.....	2
	問1 性別	2
	問2 「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」等と言われることがあるか	2
	問3 「男(女)だから〇〇しなさい」言われた時どんな気持ちでしたか	3
	問4 「男(女)だから〇〇しなさい」と言うのは誰か(複数回答)	4
	問5 次の言葉を聞いたことがあるか.....	5
	問6 家事は、誰がやるのが一番よいと思うか.....	8
	問7 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方について.....	9
	問8 女性が職業につくことについて.....	10
	問9 セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)について	11
	問10 セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)への偏見等をなくすために取り組み	12
	■アンケートに関する自由意見	13
	(2) 市民アンケート	15
	問1 性別	15
	問2 年代	15
	問3 家族構成.....	15
	問4 結婚の状況	16
	問5 職業	16
	問6 配偶者(パートナー)の職業	16
	問7 あなたは今後、働きたいか(女性で現在無職の方(学生除く))	17
	問8 現在働くことができない理由(複数回答)	17
	問9 女性が仕事を辞めずに働き続けるために必要なこと(複数回答)	19
	問10 仕事を辞めた女性が再就職しやすくするために必要なこと(複数回答)	22
	問11 家庭・職場・地域・社会全般で男女の不平等を感じること	24
	問12 家庭での男女の役割(夫婦のみ、夫婦と子ども、3世代世帯が対象)	29
	問13 家全体の重要事項(財産の処分など)を決めるときに誰の意見が尊重されるか.....	34
	問14 子どもの時に親から「女の子(男の子)らしく」ふるまうよう言われたか	35
	問15 教育のあり方で特に必要だと思うもの(複数回答)	37
	問16 現在の地域活動の参加状況.....	39
	問17 地域活動に参加しない理由(「該当しない」や「その他」を除く)	43
	問18 言葉の認知度.....	48
	問19 親しい関係にある人からDVを受けたことがあるか.....	52
	問20 DVを受けたことを誰かに相談したか(複数回答)	53

問 21	DV を相談できなかった理由（複数回答）	55
問 22	セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）を受けたことがあるか	57
問 23	どのようなセクハラを経験したか（複数回答）	58
問 24	セクハラを誰かに相談したか	60
問 25	セクハラを相談しなかった理由	61
問 26	LGBT を含む性の多様性について知っていたか	63
問 27	LGBT 等の当事者への偏見や差別をなくすための取り組みが必要だと思うか	64
問 28	自治体の首長や議員、管理職などに女性が少ない理由（複数回答）	65
問 29	男女共同参画社会づくりに向けて、取り入れるべき施策とは（複数回答）	67
問 30	男女共同参画への自由意見	69
参考資料	: 調査票	79

1 調査の概要

(1) 調査の目的

豊見城市では、男女が互いに人権を尊重し、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮し、かつ、ともにあらゆる領域において利益と責任を分かち合える、男女共同参画社会づくりにむけ取り組んでいます。今回、「第2次豊見城市男女共同参画プラン」の見直し時期を迎えており、男女共同参画に関する市民意識を把握し、計画づくりにいかしていくため、本調査を実施しました。

(2) 調査の実施状況

- ①調査の対象 市民アンケート：豊見城市に在住する18歳から74歳の市民
 中学生アンケート：豊見城中学校・長嶺中学校、伊良波中学校2年生全員
- ②調査地域 豊見城市全域
- ③抽出方法 無作為抽出
- ④調査の方法 郵送による配布回収
- ⑤調査時期 平成29年12月～平成30年1月

(3) 標本数及び回収状況

豊見城市男女共同参画に関するアンケートの実施状況

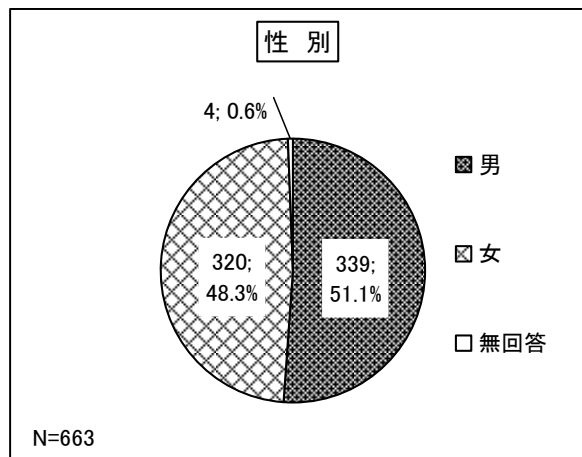
	配布数	回収数	回収率
市民アンケート	4,000件	887件	22.1%
中学生アンケート	703件	663件	94.3%

2 アンケート調査結果

(1) 中学生アンケート

問1 性別

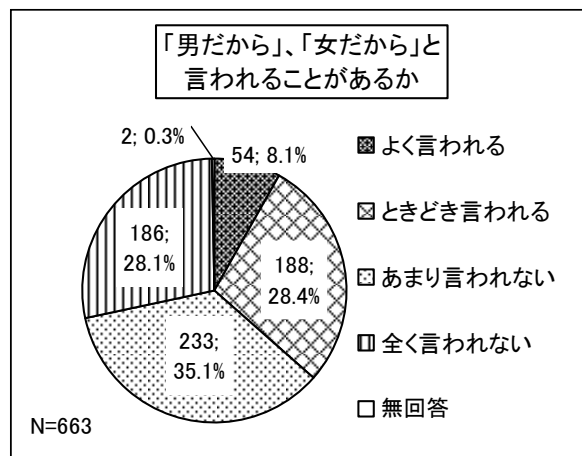
回答者の性別は「男」が51.1%、「女」が48.3%とほぼ半々となっています。



問2 「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」等と言われることがあるか

ジェンダーを外部から求められる割合は、「あまり言われたい」が35.1%と多く、次いで「ときどき言われる」28.4%と「全く言われたい」28.1%が同程度となっています。

また、「よく言われる」も8.1%見られます。



性別でみると女子は、「あまり言われたい」が34.7%と多く、次いで「ときどき言われる」32.8%、「全く言われたい」22.5%、「よく言われる」9.7%となっています。

男子は、「あまり言われたい」が36.0%と多く、次いで「全く言われたい」33.3%「ときどき言われる」23.6%、「よく言われる」6.8%となっています。

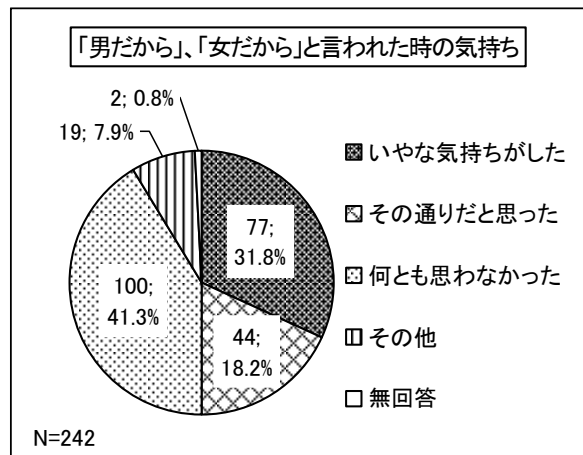
男女を比較すると、「よく言われる」と「ときどき言われる」の合計が女子で42.5%、男子が30.4%となっており、女子が12.1ポイント高くなっています。

問2 あなたは「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」、または「男のくせに、女のくせに」と言われることがありますか。

	よく言われる	ときどき言われる	あまり言われたい	全く言われたい	無回答	合計
女子	9.7%	32.8%	34.7%	22.5%	0.3%	100.0%
男子	6.8%	23.6%	36.0%	33.3%	0.3%	100.0%

問3 「男（女）だから〇〇しなさい」言われた時どんな気持ちでしたか

「男（女）だから〇〇しなさい」、または「男のくせに、女のくせに」と言われた時の気持ちとして、「何とも思わなかった」が41.3%と多く、次いで「いやな気持ちでした」31.8%、「その通りだと思った」18.2%となっています。



性別でみると女子は、「何とも思わなかった」が38.2%と多く、次いで「いやな気持ちでした」36.0%、「その通りだと思った」17.6%、「その他」7.4%となっています。

男子は、「何とも思わなかった」が45.6%と多く、次いで「いやな気持ちでした」25.2%、「その通りだと思った」19.4%、「その他」8.7%となっています。

男女を比較すると、「何とも思わなかった」は男子が女子より7.4ポイント高くなる一方で、「いやな気持ちでした」は女子が男子より10.8ポイント高くなっています。

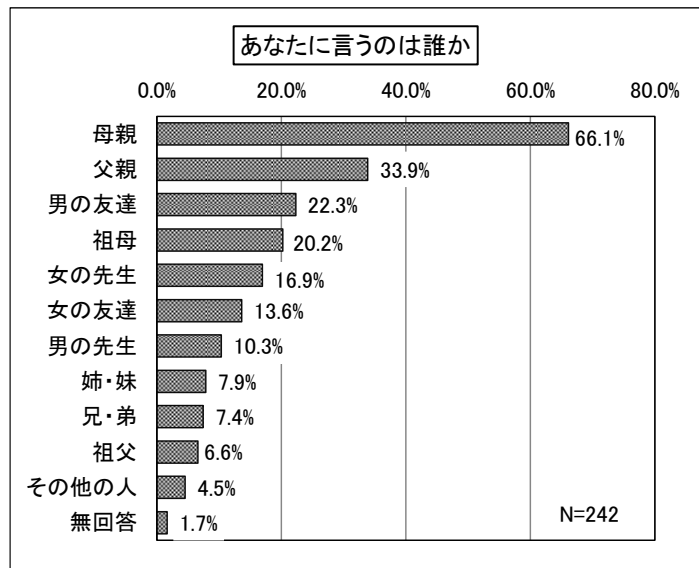
問3 問2で「1.よく言われる」または「2.ときどき言われる」と答えた方にお聞きします。あなたはその時どんな気持ちがしました。

	いやな気持ちでした	その通りだと思った	何とも思わなかった	その他	無回答	合計
女子	36.0%	17.6%	38.2%	7.4%	0.7%	100.0%
男子	25.2%	19.4%	45.6%	8.7%	1.0%	100.0%

問4 「男（女）だから〇〇しなさい」と言うのは誰か（複数回答）

ジェンダーを強制する発言を行う人は、「母親」が66.1%と突出して多く、次いで「父親」33.9%、「男の友達」22.3%、「祖母」20.2%、「女の先生」16.9%、「女の友達」13.6%、「男の先生」10.3%と続いています。

子どもたちは、家庭や学校など日常生活の主たる場面でジェンダーを強制をされる環境にいることが伺えます。



性別でみると、男女ともに「母親」が多く女子：72.1%、男子58.3%、次いで「父親」が女子：27.9%、男子：40.8%となっています。

「母親」や「父親」につづき、女子は「祖母」25.0%、「女の先生」19.1%、「男の友達」18.4%、「女の友達」16.8%、男子は、「男の友達」28.2%、「祖母」「男の先生」「女の先生」が同率の13.6%となっています。

男女を比較すると、女子では「母親」との回答割合が男子13.8ポイント高く、男子では「父親」との回答割合が女子より12.9ポイント高く、同性から言われる割合が高い状況にあります。

問4 問2で「1.よく言われる」または「2.ときどき言われる」と答えた方にお聞きします。あなたに言うのは誰ですか。(その1)

	父親	母親	祖父	祖母	兄・弟	姉・妹	男の友達
女子	27.9%	72.1%	2.9%	25.0%	8.8%	6.6%	18.4%
男子	40.8%	58.3%	11.7%	13.6%	4.9%	9.7%	28.2%

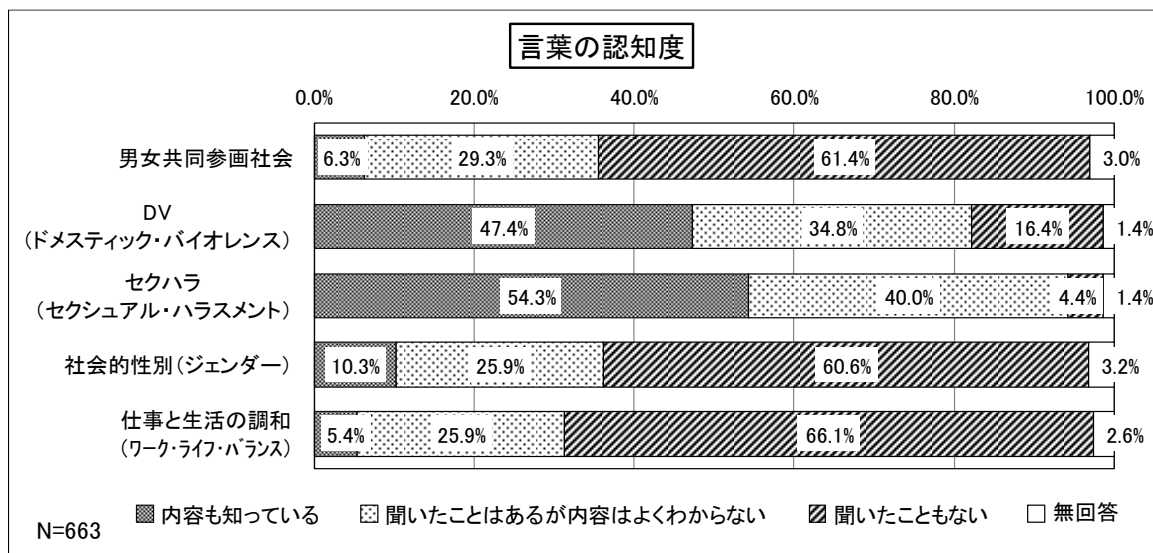
(その2)

	女の友達	男の先生	女の先生	その他の人	無回答	回答者計	回答計
女子	16.9%	8.1%	19.1%	3.7%	0.7%	100.0%	161.8%
男子	9.7%	13.6%	13.6%	4.9%	2.9%	100.0%	167.0%

問5 次の言葉を聞いたことがあるか

以下の言葉について、「内容も知っている」と答えたのは「セクハラ(セクシャル・ハラスメント)」54.3%、「DV(ドメスティック・バイオレンス)」47.4%と高くなっています。

「聞いたこともない」との答えが多いものには、「男女共同参画社会」61.4%、「社会的性別(ジェンダー)」60.6%、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」66.1%と6割を超えています。



①男女共同参画の理解度

性別でみると、男女ともに「聞いたこともない」が多く女子：55.0%、男子：68.1%、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が女子：35.0%、男子：23.0%、「内容も知っている」が女子：8.4%、男子：4.4%となっています。

男女を比較すると、「聞いたこともない」は男子が13.1ポイント高く、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は女子が12.0ポイント高くなっています。また、「内容も知っている」では女子が4.0ポイント高く、女子の理解度が男子より高いことが分かります。

問5 あなたは次の言葉を聞いたことがありますか。

男女共同参画社会

	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない	無回答	合計
女子	8.4%	35.0%	55.0%	1.6%	100.0%
男子	4.4%	23.0%	68.1%	4.4%	100.0%

②DV（ドメスティック・バイオレンス）

性別で見ると、男女ともに「内容も知っている」が多く女子：56.3%、男子：38.9%、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が女子：33.8%、男子：36.0%、「聞いたこともない」が女子：10.0%、男子：22.4%となっています。

男女を比較すると、「内容も知っている」は女子が17.4ポイント高く、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は男子が2.2ポイント高くなっています。また、「聞いたこともない」では男子が12.4ポイント高く、女子の理解度が男子より高いことが分かります。

DV(ドメスティック・バイオレンス)

	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない	無回答	合計
女子	56.3%	33.8%	10.0%	0.0%	100.0%
男子	38.9%	36.0%	22.4%	2.7%	100.0%

③セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）

性別で見ると女子は、「内容も知っている」が64.4%と多く、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」34.1%、「聞いたこともない」1.6%となっています。

男子は、「内容も知っている」が44.8%と多く、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」45.4%、「聞いたこともない」7.1%となっています。

男女を比較すると、「内容も知っている」は女子が19.6ポイント高く、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は男子が11.3ポイント高くなっています。また、「聞いたこともない」では男子が5.5ポイント高く、女子の理解度が男子より高いことが分かります。

セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)

	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない	無回答	合計
女子	64.4%	34.1%	1.6%	0.0%	100.0%
男子	44.8%	45.4%	7.1%	2.7%	100.0%

④社会的性別（ジェンダー）

性別でみる、男女ともに「聞いたこともない」が多く女子：57.2%、男子：64.3%、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が女子：26.6%、男子：25.1%、「内容も知っている」が女子：14.1%、男子：6.5%となっています。

男女を比較すると、「聞いたこともない」は男子が7.1ポイント高く、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は女子が1.5ポイント高くなっています。また、「内容も知っている」では女子が7.6ポイント高く、女子の理解度が男子より高いことが分かります。

社会的性別(ジェンダー)

	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない	無回答	合計
女子	14.1%	26.6%	57.2%	2.2%	100.0%
男子	6.5%	25.1%	64.3%	4.1%	100.0%

⑤仕事と生活の調和

性別でみると、男女ともに「聞いたこともない」が多く、女子：65.0%、男子：67.0%、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が女子：27.2%、男子：24.8%、「内容も知っている」が女子：6.3%、男子：4.7%となっています。

男女を比較すると、「聞いたこともない」は男子が2.0ポイント高く、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は女子が2.4ポイント高くなっています。また、「内容も知っている」では女子が1.6ポイント高くなっています。

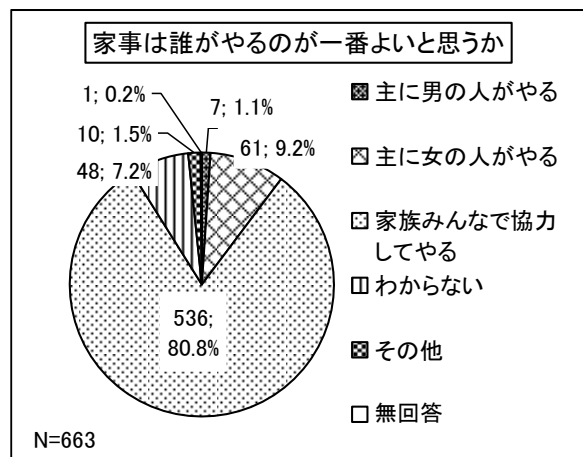
仕事と生活の調和

	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない	無回答	合計
女子	6.3%	27.2%	65.0%	1.6%	100.0%
男子	4.7%	24.8%	67.0%	3.5%	100.0%

問6 家事は、誰がやるのが一番よいと思うか

家事については、「家族みんなで協力してやる」が80.8%と突出して多く、次いで「主に女の人がやる」9.2%、「主に男の人がやる」1.1%となっています。

家事については、家族で分担して行うという意識が定着しているものと思われます。



性別でみると、男女ともに「家族みんなで協力してやる」が多く女子：87.5%、男子：74.6%、次いで「主に女の人がやる」が女子：6.6%、男子：11.8%、「わからない」が女子：4.1%、男子：10.0%と続いています。

男女を比較すると、「家族みんなで協力してやる」は女子が12.9ポイント高く、「主に女の人がやる」は男子が5.2ポイント高くなっています。また、「主に男の人がやる」は男子が2.1ポイント高くなっています。

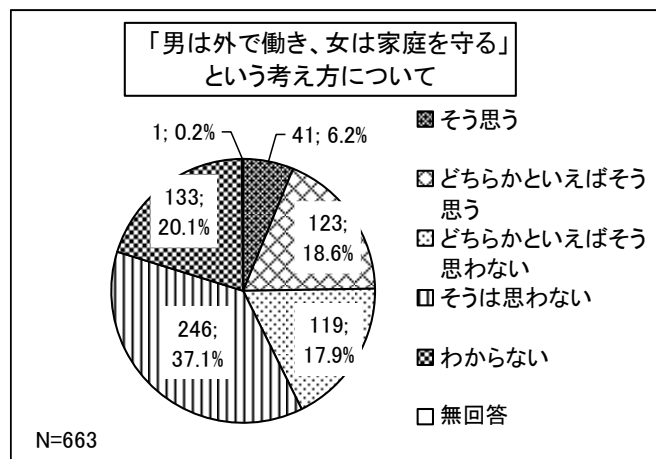
問6 あなたは家の中で、食事のしたく、あとかたづけ、そうじ、洗濯のような家事は、誰がやるのが一番よいと思いますか。

	主に男の人がやる	主に女の人がやる	家族みんなで協力してやる	わからない	その他	無回答	合計
女子	0.0%	6.6%	87.5%	4.1%	1.9%	0.0%	100.0%
男子	2.1%	11.8%	74.6%	10.0%	1.2%	0.3%	100.0%

問7 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方について

男は外で働き、女は家庭を守るという考えについては、「そうは思わない」が37.1%と多く、次いで「わからない」20.1%、「どちらかといえばそう思う」18.6%、「どちらかといえばそう思わない」17.9%、「そう思う」6.2%となっています。

そう思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」）の肯定的意見は24.8%、そう思わない（「そうは思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）の否定的意見は55.0%と、否定的意見が肯定的意見の2倍以上となっています。



性別でみると女子は、「そう思わない」が47.8%と多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」20.3%、「どちらかといえばそう思う」14.7%、「わからない」15.0%、「そう思う」2.2%となっています。

男子は、「そう思わない」が26.8%と多く、次いで「わからない」24.8%、「どちらかといえばそう思う」22.1%、「どちらかといえばそう思わない」15.9%、「そう思う」10.0%となっています。

男女を比較すると、「そう思わない」は女子が21.0ポイント高く、「そう思う」は男子が7.8ポイント高くなっています。また、「どちらかといえばそう思わない」や「そう思わない」は女子が高く、「どちらかといえばそう思う」や「そう思う」は男子が高くなっています。

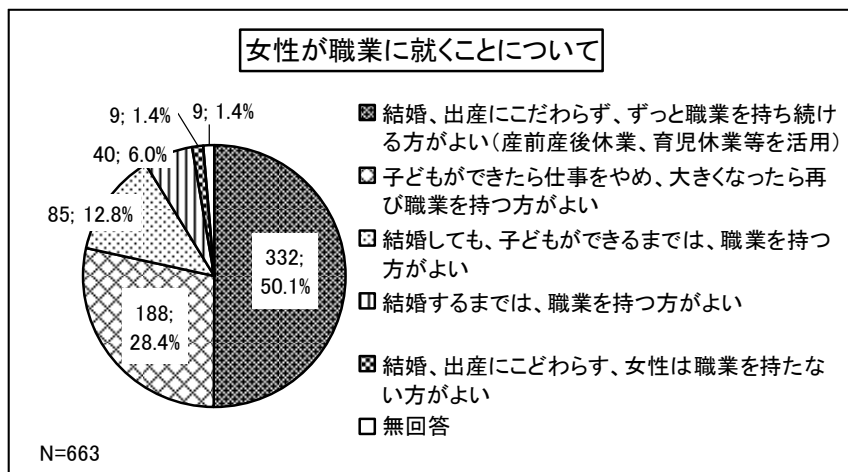
問7 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方もあります。あなたはこの考え方についてどう思いますか。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そうは思わない	わからない	無回答	合計
女子	2.2%	14.7%	20.3%	47.8%	15.0%	0.0%	100.0%
男子	10.0%	22.1%	15.9%	26.8%	24.8%	0.3%	100.0%

問8 女性が職業につくことについて

女性の就業については、「結婚、出産にこだわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が50.1%と多く、次いで「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」28.4%、「結婚しても、子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」12.8%、「結婚するまでは、職業を持つ方がよい」6.0%、「結婚、出産にこだわらず、女性は職業を持たない方がよい」1.4%となっています。

結婚や出産に関係なくずっと仕事を持つや子育てを終えたら再度仕事に就くなど、女性が働き続けることを肯定する意見が78.5%、結婚や出産を機に仕事をやめるや仕事をしないを合わせた20.2%を大きく上まわっています。



性別でみると、男女ともに「結婚、出産にこだわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい（産前産後休業、育児休業等を活用）」が多く女子：61.9%、男子：38.6%、次いで「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が女子：21.9%、男子：34.8%、「結婚しても、子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」が女子：10.9%、男子：14.5%、「結婚するまでは、職業を持つ方がよい」が女子：3.8%、男子：8.3%、「結婚、出産にこだわらず、女性は職業を持たない方がよい」が女子：0.0%、男子：2.7%となっています。

男女を比較すると、「結婚、出産にこだわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい（産前産後休業、育児休業等を活用）」は女子が男子より1.6倍高くなっています。

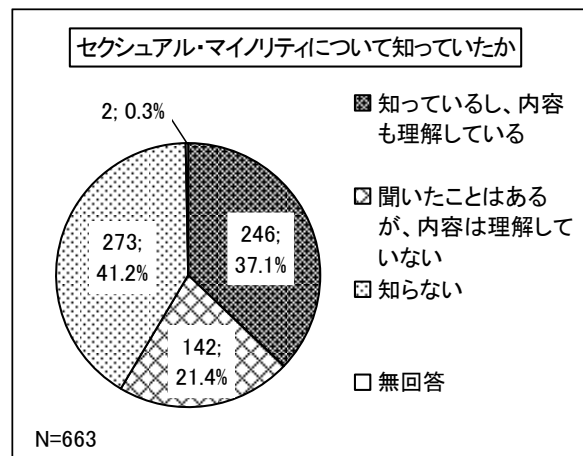
問8 女性が職業につくことについて、あなたはどのように考えますか

	結婚、出産にこだわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい(産前産後休業、育児休業等を活用)	子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	結婚しても、子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	結婚するまでは、職業を持つ方がよい	結婚、出産にこだわらず、女性は職業を持たない方がよい	無回答	合計
女子	61.9%	21.9%	10.9%	3.8%	0.0%	1.6%	100.0%
男子	38.6%	34.8%	14.5%	8.3%	2.7%	1.2%	100.0%

問9 セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）について

LGBTなどセクシュアル・マイノリティの認知度は、「知らない」が41.2%と多く、次いで「知っているし、内容も理解している」37.1%、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」21.4%となっています。

知っているや聞いたことはあるを合わせると58.5%と知らない(41.2%)を上まわります。



性別でみると女子は、「知っているし、内容も理解している」が50.9%と多く、次いで「聞いたことはあるが、内容は理解していない」23.1%、「知らない」25.3%となっています。

男子は、「知らない」が56.3%と多く、次いで「知っているし、内容も理解している」23.6%「聞いたことはあるが、内容は理解していない」20.1%となっています。

男女を比較すると、「知っているし、内容も理解している」は女子が27.3ポイント高く、「知らない」は男子が31.0ポイント高く、女子の理解度が男子より高いことが分かります。

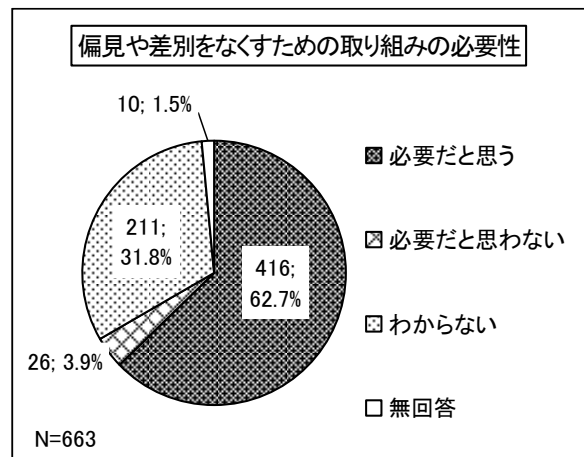
問9 あなたはLGBTをはじめとするセクシュアル・マイノリティ(性的少数者)について知っていましたか。

	知っているし、内容も理解している	聞いたことはあるが、内容は理解していない	知らない	無回答	合計
女子	50.9%	23.1%	25.3%	0.6%	100.0%
男子	23.6%	20.1%	56.3%	0.0%	100.0%

問10 セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）への偏見等をなくすために取り組み

LGBTなどセクシュアル・マイノリティへの偏見や差別をなくす取り組みについては、「必要だと思う」が62.7%と多く、「必要だと思わない」の3.9%を大きく上まわっています。

一方で、「わからない」と答えた方も31.8%も見られ、問9の認知度（「知らない」）と関係があるものと思われます。



性別で見ると、男女ともに「必要だと思う」が多く女子：76.6%、男子：49.6%、次いで「わからない」が女子：17.5%、男子：45.4%、「必要だと思わない」が女子：3.4%、男子：4.4%となっています。

男女を比較すると、「必要だと思う」は女子が27.0ポイント高く、「わからない」は男子が27.9ポイント高くなっています。

問10 LGBTをはじめとするセクシュアル・マイノリティ(性的少数者)への偏見や差別をなくすために取り組みが必要だと思いますか。

	必要だと思う	必要だと思わない	わからない	無回答	合計
女子	76.6%	3.4%	17.5%	2.5%	100.0%
男子	49.6%	4.4%	45.4%	0.6%	100.0%

■アンケートに関する自由意見

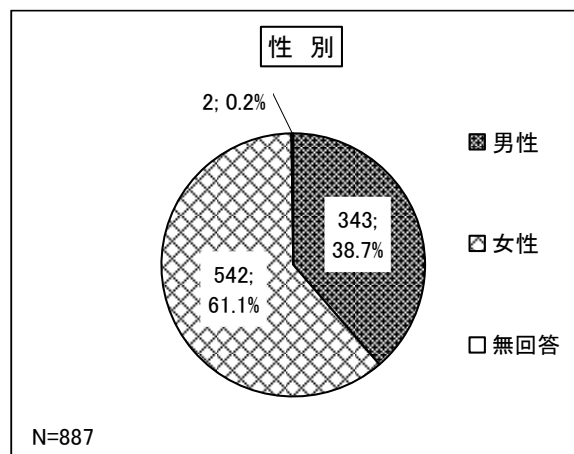
誰が誰を好きでも、どんな仕事をしていても、その人の自由だから「男だから、女だから」というのはどうかと思う
別に同性愛もクソもないと思う。その人なりに頑張ってる人だったら普通にどうも思わない。対象の性別が変わっただけで気持ちは同じだし、なぜそういう人たちを差別の目で見るとか、いまいちよく分からない。
特になし このようなことについて考えることは、とても大切だと思ったし、みんなで考える必要があると思った。
取り組みというより、1人1人の意識を変えるための講演などを市内ですべてやっていった方がいいと思う。
男女の仕事やセクシュアル・マイノリティについて、もっと知るべきだと思った。男の仕事、女の仕事での差別等はやったらだめだと思うけど、特にLGBTの差別は人の精神とかも傷つけたりするので、LGBTの差別は絶対にやってはいけない行いだと思った。
こういったアンケートするのは良いと思う！ みんなのためにも自分のためにも！！
豊見城市がかかっている目標はとても素晴らしいと思うが、その目標を達成するために市がバックアップしていけるようにしてほしい。すべての人を納得させるような動き方はないかもしれませんが、大半の人が「この町はいいね」といえるようにしてほしい。
LGBTの人たちは偏見や差別をなくすためのことは必要だと思う。
大人じゃなくてなぜ子供に聞くの？とゆう不思議な所があった。
LGBTは病気なのか、個性なのか分からない。
特になし。昔の人はLGBTをどう思っていたのだろう。
「絶対こうじゃないといけない」「そっちの方がいい」などはなく、ケースバイケースに対応した方がいいのではないかなあ
偏見や差別を心のどこかで思ってしまうのは仕方がないとしても、ある程度許すことが大切だし、あからさまな態度は良くないと思う。LGBTの方の本質を見て、自分で判断することが大切だと思う。
問1の内容は、このアンケートの主旨に反していると思う。（性同一性障害の人に対して）
LGBTの人に親切とかそんな事やってたら逆に差別しているってなると思う。自分はそうさせられたらなんか変な気持ちになるから嫌です。
私たち学生はまだ仕事に就いてなく、子供もいないので質問の内容に答える必要はないのでは？
私達は仕事もしてなくて子供もいないので、だいたい質問がよくわかりませんでした。
難しいアンケートでした。
LGBTなどの偏見や差別をなくすため、その人たち同士で共感し合える環境を作り広めていけばいいと思う。
よりよい社会にする為に、これを出た案などを採用し、誰もが何不自由なく生活出来るよう努力してほしい…。
性別が理由で自分の希望する職業に就けなくなる事が無くなれば良いと思った。

男同士、女同士で結婚して必ずしも、どちらも LGBT ではないと思う。その LGBT を受け入れた人はこの人と一生暮らしたいと思ったから結婚したんだと思う。それが誰とも変わらない愛の形だと思う。
LGBT 等の差別や偏見が無くなればいい。
今の社会がもっと良くなってほしい。
まず「LGBT」という言葉が性的少数者への偏見からできた言葉だと思うし、少なくともこのアンケートを受けた人の中に性的少数者がいたとすればこの言葉に傷つくと思います。
LGBT についての偏見や差別がなくなればいいなと思います。
とくになし。むずかしいことばがたくさんあった。
パワハラって何ですか？
なんか、ムズカシイのおおくない？ですか。
何で中学生にこのアンケートをしたんですか？
もうちょっと、ほかの学校の人とも関わりたい。
何のためのアンケートですか
【その他意見】
豊崎に電灯をつけてほしい。
豊見城に公園を増やして欲しい。ボール遊びできるようなところ。伊良波とかに

(2) 市民アンケート

問1 性別

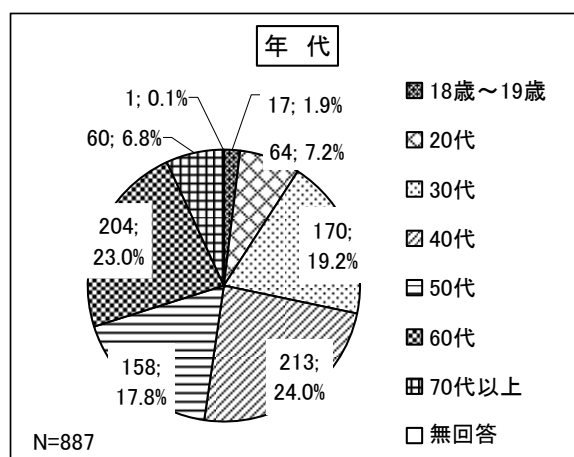
回答者の性別は「男性」が38.7%、「女性」が61.1%と女性が多くなっています。



問2 年代

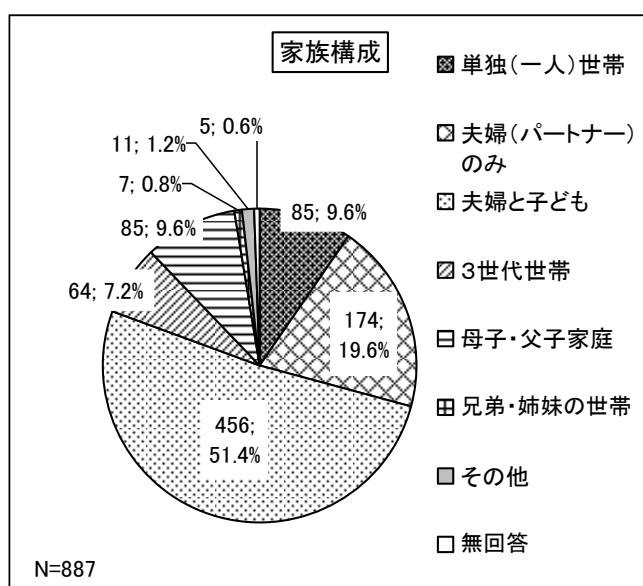
回答者の年齢は、「40代」が24.0%と多く、次いで「60代」23.0%、「30代」19.2%、「50代」17.8%、「20代」7.2%、「70代以上」6.8%、「18歳～19歳」1.9%となっています。

30代、40代、50代、60代がそれぞれ2割前後と多くなっています。



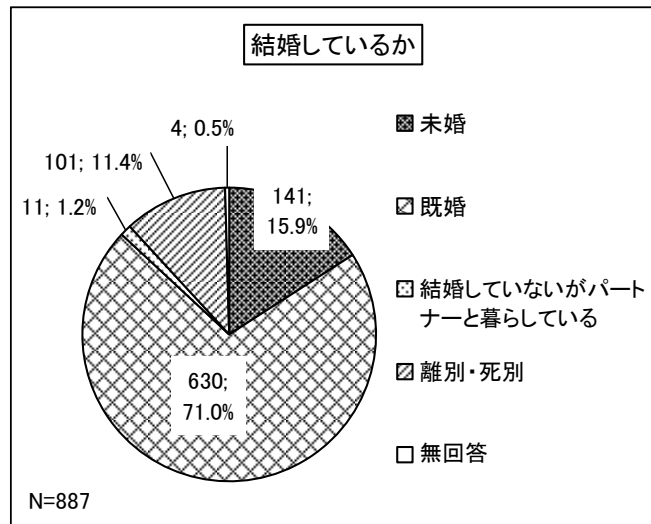
問3 家族構成

家族構成は、「夫婦と子ども」が51.4%と多く、次いで「夫婦のみ」19.6%、「単独世帯」と「母子・父子家庭」がともに9.6%、「3世代世帯」7.2%、「兄弟・姉妹の世帯」0.8%となっています。



問4 結婚の状況

結婚については、「既婚」71.0%と多く、次いで「未婚」15.9%、「離別・死別」11.4%、「結婚していないがパートナーと暮らしている」1.2%となっています。



問5 職業

職業は、「正社員(一般職)」が18.8%と多く、次いで「無職」12.9%、「主夫・主婦」12.3%、「常勤パートタイマー」11.3%、「公務員」9.7%、「契約社員、派遣社員」7.2%、「正社員(技術職)」7.1%、「臨時・アルバイト」6.3%、「商工業・サービス業」3.9%、「会社役員」3.4%、「学生」3.2%、「農業・林業・漁業」1.9%、自由業(開業医師・弁護士・芸術家など)1.6%、「内職」0.2%となっています。働いている方は71.4%になります。

あなたの職業

あなたの職業	件数	割合
正社員(一般職)	167	18.8%
無職	114	12.9%
主夫・主婦	109	12.3%
常勤パートタイマー	100	11.3%
公務員	86	9.7%
契約社員、派遣社員	64	7.2%
正社員(技術職)	63	7.1%
臨時・アルバイト	56	6.3%
商工業・サービス業(卸・小売店、飲食店等サービス)	35	3.9%
会社役員(管理職を含む)	30	3.4%
学生	28	3.2%
農業・林業・漁業	17	1.9%
自由業(開業医師、弁護士、芸術家など)	14	1.6%
内職	2	0.2%
無回答	2	0.2%
合計	887	100.0%

問6 配偶者(パートナー)の職業

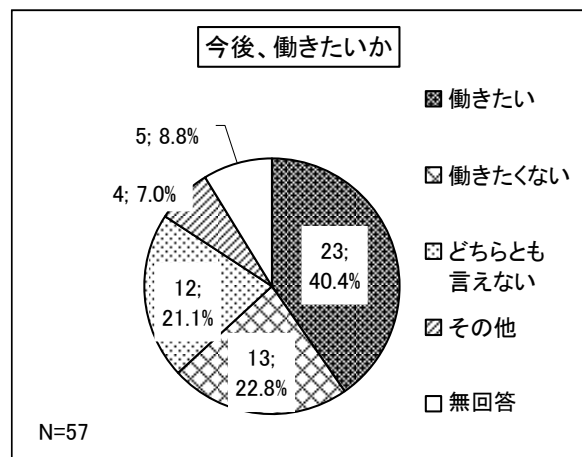
配偶者の職業は、「正社員(一般職)」が20.0%と多く、次いで「無職」12.9%、「公務員」11.2%、「正社員(技術職)」7.0%、「主夫・主婦」6.6%、「常勤パートタイマー」5.9%、「契約社員、派遣社員」5.6%、「臨時・アルバイト」4.5%、「商工業・サービス業」3.4%、「会社役員」3.3%、自由業(開業医師・弁護士・芸術家など)2.2%、「農業・林業・漁業」1.9%、「内職」0.3%、「学生」0.2%となっています。働いている方は65.3%になります。

あなたの配偶者の職業職業

あなたの配偶者の職業職業	件数	割合
正社員(一般職)	128	20.0%
無職	83	12.9%
公務員	72	11.2%
正社員(技術職)	45	7.0%
主夫・主婦	42	6.6%
常勤パートタイマー	38	5.9%
契約社員、派遣社員	36	5.6%
臨時・アルバイト	29	4.5%
商工業・サービス業(卸・小売店、飲食店等サービス)	22	3.4%
会社役員(管理職を含む)	21	3.3%
自由業(開業医師、弁護士、芸術家など)	14	2.2%
農業・林業・漁業	12	1.9%
内職	2	0.3%
学生	1	0.2%
無回答	96	15.0%
合計	641	100.0%

問7 あなたは今後、働きたいか（女性で現在無職の方（学生除く））

無職の女性の就業意欲については、「働きたい」が40.4%と多く、次いで「働きたくない」22.8%、「どちらとも言えない」21.1%となっています。



〈県調査との比較〉

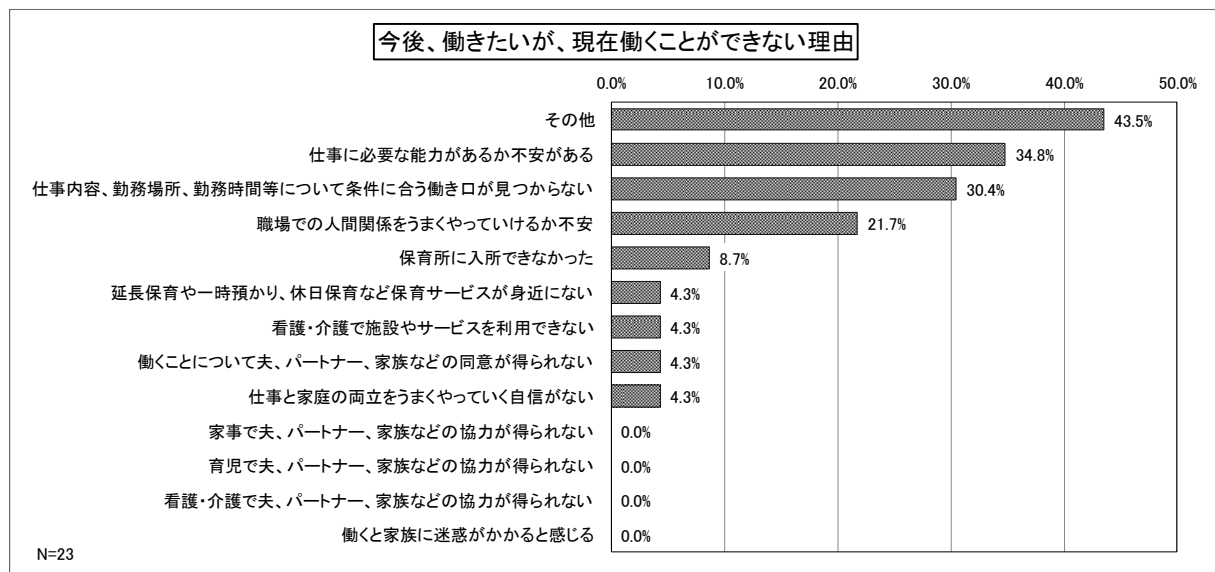
就労意欲について、県調査と比較すると「働きたい」と答えた方は5.1ポイント、「働きたくない」と答えた方は11.0ポイント、それぞれ市が県を上回っています。

問7 あなたは今後、働きたいとお考えですか。(○は1つ)

	市(H29)	県(H28)	市-県
働きたい	40.4%	35.3%	5.1
働きたくない	22.8%	11.8%	11.0
どちらとも言えない	21.1%	17.0%	4.1
その他	7.0%	1.0%	6.0
無回答	8.8%	34.8%	-26.0
合計	100.0%	99.9%	0.1

問8 現在働くことができない理由（複数回答）

今後働きたいが、現在働くことができない理由は、「その他」が43.5%と多く、次いで「仕事に必要な能力があるか不安がある」34.8%、「仕事内容、勤務場所、通勤時間等について条件に合う働き口が見つからない」30.4%、「職場での人間関係をうまくやっけていけるか不安」21.7%、「保育所に入所できなかった」8.7%となっています。



〈県調査との比較〉

現在働くことができない理由として、市調査及び県調査ともに上位1位と2位に「仕事に必要な能力があるか不安がある」、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからない」が上がっています。

3位には、市調査は「職場での人間関係をうまくやっけていけるか不安(21.7%)」、県調査は「仕事と家庭の両立をうまくやっけていく自信がない(23.0%)」、4位には市調査は「保育所に入所できなかった(8.7%)」、県調査は「職場での人間関係をうまくやっけていけるか不安(20.0%)」となっており、市調査では保育所の入所、県調査では仕事と家庭の両立が上位に入っています。

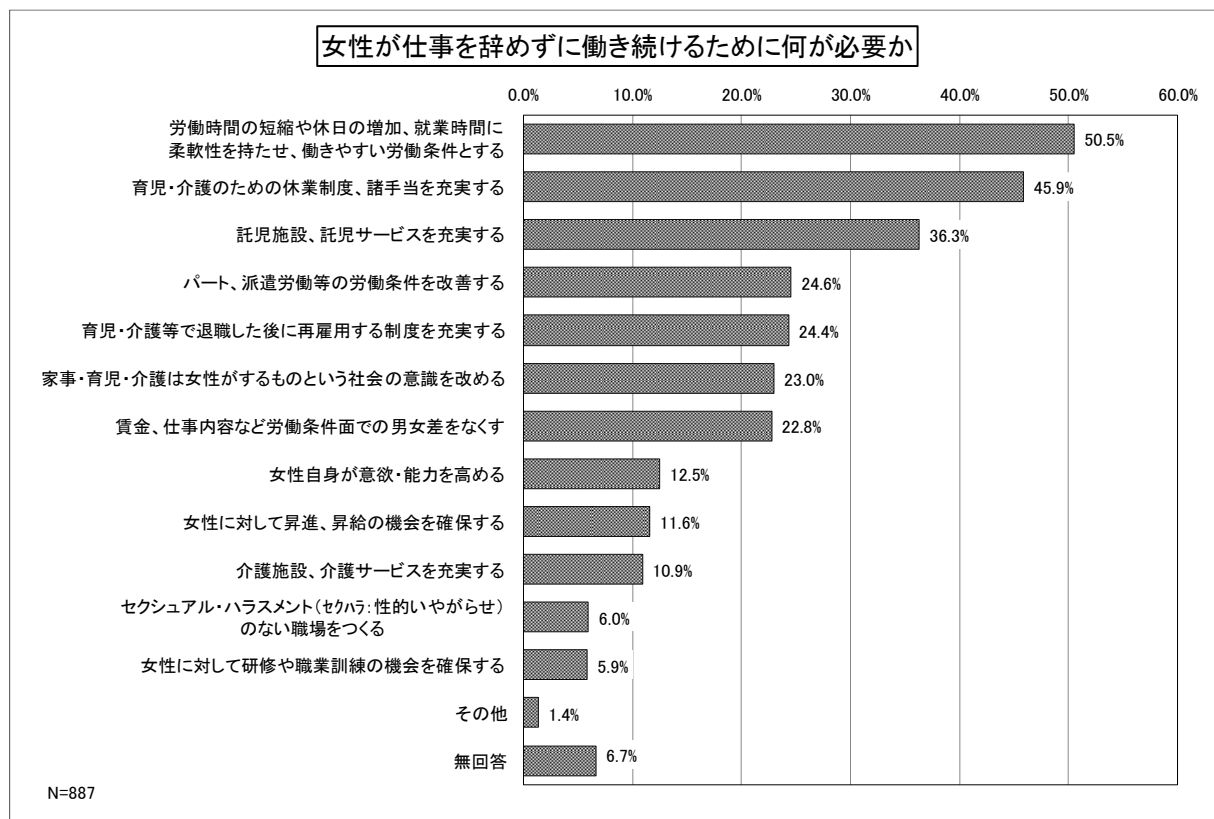
問8 今後、働きたいが、現在働くことができない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

	市(H29)	県(H28)	市-県
保育所に入所できなかった	8.7%	5.2%	3.5
延長保育や一時預かり、休日保育など保育サービスが身近にない	4.3%	2.2%	2.1
仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからない	30.4%	40.0%	-9.6
家事で夫、パートナー、家族などの協力が得られない	0.0%	6.7%	-6.7
育児で夫、パートナー、家族などの協力が得られない	0.0%	6.7%	-6.7
看護・介護で夫、パートナー、家族などの協力が得られない	0.0%	4.4%	-4.4
看護・介護で施設やサービスを利用できない	4.3%	0.7%	3.6
働くことについて夫、パートナー、家族などの同意が得られない	4.3%	4.4%	-0.1
働くことと家族に迷惑がかかると感じる	0.0%	12.6%	-12.6
仕事と家庭の両立をうまくやっけていく自信がない	4.3%	23.0%	-18.7
仕事に必要な能力があるか不安がある	34.8%	31.1%	3.7
職場での人間関係をうまくやっけていけるか不安	21.7%	20.0%	1.7
その他	43.5%	29.6%	13.9

問9 女性が仕事を辞めずに働き続けるために必要なこと（複数回答）

女性が働き続けるために必要なことは、「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせ、働きやすい労働条件とする」が50.5%と多く、次いで「育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する」45.9%、「託児施設、託児サービスを充実する」36.3%、「パート、派遣労働等の労働条件を改善する」24.6%、「育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する」24.4%、「家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める」23.0%、「賃金、仕事内容など労働条件面での男女差をなくす」22.8%、「女性自身が意欲・能力を高める」12.5%、「女性に対して昇進、昇給の機会を確保する」11.6%、「介護施設、介護サービスを充実する」10.9%、「セクシュアル・ハラスメント（セハラ：性的いやがらせ）のない職場をつくる」6.0%、「女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する」5.9%となっています。

全体の傾向では、柔軟で働きやすい労働条件及び再雇用に関する制度、育児や介護に関する休業制度や手当、関連サービス等の充実、ワーク・ライフ・バランスに関する意識に関するものが高く示されています。



性別で見ると、「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせ、働きやすい労働条件とする」では女性が56.3%、男性が41.7%と女性が14.6ポイント高くなっています。また「家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める」では女性が28.2%、男性が14.9%と女性が1.9倍高く、男女の意識の違いが顕著にみられます。

年齢別では「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせ、働きやすい労働条件とする」、「育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する」、「託児施設、託児サービスを充実する」の全てにおいて、女性は20代、30代、40代の順で支持が高くなっています。

男性は、「育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する」、「託児施設、託児サービスを充実する」は女性と同様に20代、30代、40代の順で支持が高く、「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせ、働きやすい労働条件とする」は50代、20代、40代の順で支持が高くなっています。

【※18歳～19歳は標本数が少ないため分析から除外しています。（以下すべて同じ）】

女性が仕事を辞めずに働き続けるために何が必要か(構成比)

	賞金、仕事内容など労働条件面で男女差をなくす	パート、派遣労働等の労働条件を改善する	労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせ、働きやすい労働条件とする	セクシュアル・ハラスメント(セクハラ:性的いやがらせ)のない職場をつくる	女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する	女性に対して昇進、昇給の機会を確保する	女性自身が意欲・能力を高める	育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する	託児施設、託児サービスを充実する	介護施設、介護サービスを充実する	育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する	家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める	その他	無回答
女性計	20.3%	24.7%	56.3%	5.2%	6.6%	13.3%	13.1%	47.0%	35.2%	11.4%	23.4%	28.2%	1.5%	3.5%
18歳～19歳	0.0%	0.0%	37.5%	12.5%	25.0%	12.5%	25.0%	50.0%	37.5%	0.0%	37.5%	37.5%	0.0%	0.0%
20代	15.8%	13.2%	71.1%	15.8%	2.6%	21.1%	15.8%	63.2%	52.6%	0.0%	21.1%	15.8%	0.0%	0.0%
30代	11.9%	17.8%	63.6%	3.4%	5.9%	16.9%	11.0%	60.2%	47.5%	5.1%	22.9%	26.3%	4.2%	4.2%
40代	22.8%	23.5%	56.6%	2.2%	5.9%	15.4%	10.3%	45.6%	36.0%	8.1%	22.1%	30.9%	0.7%	4.4%
50代	33.7%	42.7%	49.4%	7.9%	6.7%	11.2%	15.7%	31.5%	28.1%	19.1%	23.6%	29.2%	1.1%	2.2%
60代	19.3%	26.9%	53.8%	3.4%	8.4%	6.7%	13.4%	42.9%	26.9%	16.0%	21.8%	29.4%	0.8%	5.0%
70代以上	17.6%	17.6%	44.1%	8.8%	5.9%	11.8%	17.6%	44.1%	17.6%	26.5%	35.3%	29.4%	0.0%	0.0%
男性計	26.5%	24.5%	41.7%	7.0%	4.7%	9.0%	11.7%	44.0%	38.2%	10.2%	25.9%	14.9%	1.2%	11.4%
18歳～19歳	44.4%	33.3%	22.2%	11.1%	0.0%	11.1%	11.1%	44.4%	33.3%	22.2%	22.2%	11.1%	0.0%	11.1%
20代	19.2%	15.4%	46.2%	23.1%	3.8%	15.4%	11.5%	57.7%	53.8%	7.7%	38.5%	7.7%	0.0%	0.0%
30代	19.2%	19.2%	40.4%	7.7%	3.8%	7.7%	3.8%	53.8%	51.9%	13.5%	28.8%	15.4%	1.9%	11.5%
40代	22.1%	24.7%	45.5%	7.8%	3.9%	6.5%	14.3%	45.5%	44.2%	6.5%	29.9%	15.6%	2.6%	7.8%
50代	36.2%	29.0%	49.3%	7.2%	2.9%	5.8%	17.4%	42.0%	34.8%	8.7%	21.7%	20.3%	1.4%	5.8%
60代	29.8%	26.2%	34.5%	1.2%	6.0%	13.1%	9.5%	35.7%	28.6%	9.5%	25.0%	10.7%	0.0%	20.2%
70代以上	19.2%	23.1%	38.5%	3.8%	11.5%	7.7%	11.5%	38.5%	19.2%	19.2%	11.5%	19.2%	0.0%	19.2%

女性が仕事を辞めずに働き続けるために何が必要か(件数)

	賞金、仕事内容など労働条件面で男女差をなくす	パート、派遣労働等の労働条件を改善する	労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせ、働きやすい労働条件とする	セクシュアル・ハラスメント(セクハラ:性的いやがらせ)のない職場をつくる	女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する	女性に対して昇進、昇給の機会を確保する	女性自身が意欲・能力を高める	育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する	託児施設、託児サービスを充実する	介護施設、介護サービスを充実する	育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する	家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める	その他	無回答
女性計	110	134	305	28	36	72	71	255	191	62	127	153	8	19
18歳～19歳	0	0	3	1	2	1	2	4	3	0	3	3	0	0
20代	6	5	27	6	1	8	6	24	20	0	8	6	0	0
30代	14	21	75	4	7	20	13	71	56	6	27	31	5	5
40代	31	32	77	3	8	21	14	62	49	11	30	42	1	6
50代	30	38	44	7	6	10	14	28	25	17	21	26	1	2
60代	23	32	64	4	10	8	16	51	32	19	26	35	1	6
70代以上	6	6	15	3	2	4	6	15	6	9	12	10	0	0
男性計	91	84	143	24	16	31	40	151	131	35	89	51	4	39
18歳～19歳	4	3	2	1	0	1	1	4	3	2	2	1	0	1
20代	5	4	12	6	1	4	3	15	14	2	10	2	0	0
30代	10	10	21	4	2	4	2	28	27	7	15	8	1	6
40代	17	19	35	6	3	5	11	35	34	5	23	12	2	6
50代	25	20	34	5	2	4	12	29	24	6	15	14	1	4
60代	25	22	29	1	5	11	8	30	24	8	21	9	0	17
70代以上	5	6	10	1	3	2	3	10	5	5	3	5	0	5

〈県調査との比較〉

女性が働き続けるために必要なことでは、市調査及び県調査ともに上位3位に「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせ、働きやすい労働条件とする」、「育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する」、「託児施設、託児サービスを充実する」が上がっており、3割から5割と高くなっています。

4位には、市調査は「パート、派遣労働等の労働条件を改善する(24.6%)」、県調査は「賃金、仕事内容など労働条件面での男女差をなくす(27.6%)」、5位には市調査及び県調査ともに「育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する(市:24.2%、県:25.5%)」となっており、市調査はパート等の動労条件の改善、県調査は賃金や仕事内容など男女差をなくすが上位に入っています。

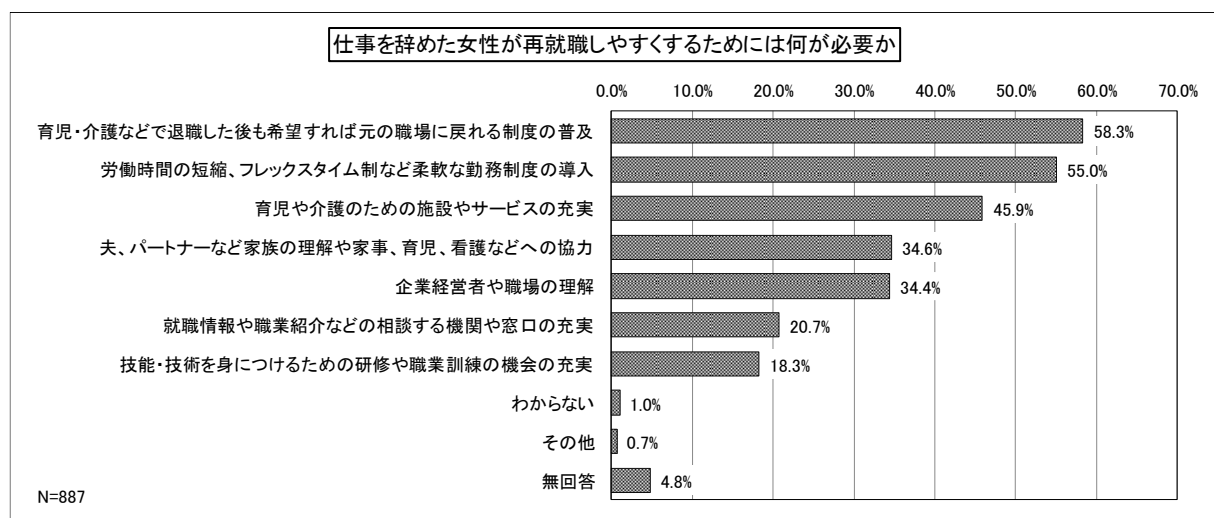
問9 女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

	市(H29)	県(H28)	市-県
賃金、仕事内容など労働条件面での男女差をなくす	22.8%	27.6%	-4.8
パート、派遣労働等の労働条件を改善する	24.6%	24.4%	0.2
労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせ、働きやすい労働条件とする	50.5%	46.0%	4.5
セクシュアル・ハラスメント(セクハラ:性的いやがらせ)のない職場をつくる	6.0%	8.9%	-2.9
女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する	5.9%	4.6%	1.3
女性に対して昇進、昇給の機会を確保する	11.6%	13.8%	-2.2
女性自身が意欲・能力を高める	12.5%	14.6%	-2.1
育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する	45.9%	38.2%	7.7
託児施設、託児サービスを充実する	36.3%	29.3%	7.0
介護施設、介護サービスを充実する	10.9%	9.2%	1.7
育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する	24.4%	25.5%	-1.1
家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める	23.0%	22.3%	0.7
その他	1.4%	1.1%	0.3
無回答	6.7%	5.3%	1.4

問 10 仕事を辞めた女性が再就職しやすくするために必要なこと（複数回答）

仕事を辞めた女性が再就職しやすくするために必要なことは、「育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻れる制度の普及」が58.3%と多く、次いで「労働時間の短縮、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」55.0%、「育児や介護のための施設やサービスの充実」45.9%、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力」34.6%、「企業経営者や職場の理解」34.4%、「就職情報や職業紹介などの相談する機関や窓口の充実」20.7%、「技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実」18.3%となっています。

全体の傾向としては、4～6割の方が再雇用の制度の充実や柔軟な勤務体制の導入、育児・介護サービスの充実をあげています。また、3割代の方が家族の協力や企業経及び職場の理解をあげています。



性別でみると、「労働時間の短縮、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」は女性が58.5%、男性が49.6%と女性が8.9ポイント高く、「育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻れる制度の普及」は女性が55.9%、男性が62.4%と男性が6.5ポイント高く、「育児や介護のための施設やサービスの充実」は女性が48.0%、男性が42.6%と女性が5.4ポイント高いなど、女性は再雇用制度や施設の充実を求める方が多くみられます。女性では「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力」が37.5%と男性（30.3%）より1.2倍高くなっています。

年齢別では、「労働時間の短縮、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」の割合が高い方は、女性の40代、30代、20代の順で6割台、男性の30代、20代、40代の順で5～7割となっています。「育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻れる制度の普及」の割合が高い方は、女性の20代、70代、60代の順で6割以上、男性の20代、40代、50代の順で6割以上となっています。「育児や介護のための施設やサービスの充実」の割合が高い方は、女性の20代、30代、40代の順で4～6割、男性の20代、40代、60代の順で4～5割となっています。

仕事を辞めた女性が再就職しやすくするためには何が必要か(構成比)

	就職情報や職業紹介などの相談する機関や窓口の充実	技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実	育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻れる制度の普及	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入	育児や介護のための施設やサービスの充実	夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力	わからない	その他	無回答
女性 計	21.8%	19.6%	55.9%	36.3%	58.5%	48.0%	37.5%	1.3%	0.4%	1.3%
18歳～19歳	12.5%	25.0%	87.5%	62.5%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	10.5%	18.4%	71.1%	31.6%	65.8%	60.5%	21.1%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	15.3%	21.2%	50.0%	38.1%	66.9%	55.9%	38.1%	0.0%	0.8%	0.0%
40代	16.2%	14.7%	49.3%	36.8%	69.1%	47.8%	44.9%	2.2%	0.7%	0.7%
50代	37.1%	21.3%	50.6%	47.2%	47.2%	41.6%	40.4%	0.0%	0.0%	1.1%
60代	26.1%	21.0%	62.2%	28.6%	52.9%	46.2%	32.8%	1.7%	0.0%	3.4%
70代以上	26.5%	23.5%	70.6%	26.5%	35.3%	35.3%	35.3%	5.9%	0.0%	2.9%
男性 計	19.2%	16.3%	62.4%	31.2%	49.6%	42.6%	30.3%	0.6%	1.2%	10.2%
18歳～19歳	44.4%	11.1%	77.8%	55.6%	22.2%	44.4%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	26.9%	15.4%	76.9%	30.8%	53.8%	50.0%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	9.6%	15.4%	55.8%	36.5%	71.2%	36.5%	38.5%	0.0%	1.9%	7.7%
40代	18.2%	15.6%	71.4%	26.0%	53.2%	48.1%	28.6%	0.0%	2.6%	5.2%
50代	20.3%	18.8%	63.8%	34.8%	49.3%	37.7%	36.2%	0.0%	1.4%	5.8%
60代	19.0%	17.9%	56.0%	23.8%	44.0%	42.9%	28.6%	2.4%	0.0%	17.9%
70代以上	23.1%	11.5%	46.2%	42.3%	19.2%	42.3%	7.7%	0.0%	0.0%	30.8%

〈県調査との比較〉

女性が再就職しやすくするために必要なことでは、市調査及び県調査ともに上位1位と2位は「育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻れる制度の普及」、「労働時間の短縮、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」となっており、5割から4割と高くなっています。

その他の上位(3位～5位)の項目をみると「育児や介護のための施設やサービスの充実」が市調査は3位(45.9%)で県調査は4位(36.1%)、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力」が市調査は4位(34.6%)で県調査は3位(39.4%)、「企業経営者や職場の理解」市調査は5位(34.4%)で県調査は5位(33.7%)と、市調査と県調査で順位は異なりますが共通する項目が上がっており、3割以上となっています。

問10 出産・子育て・介護などの理由で、仕事を辞めた女性が再就職しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

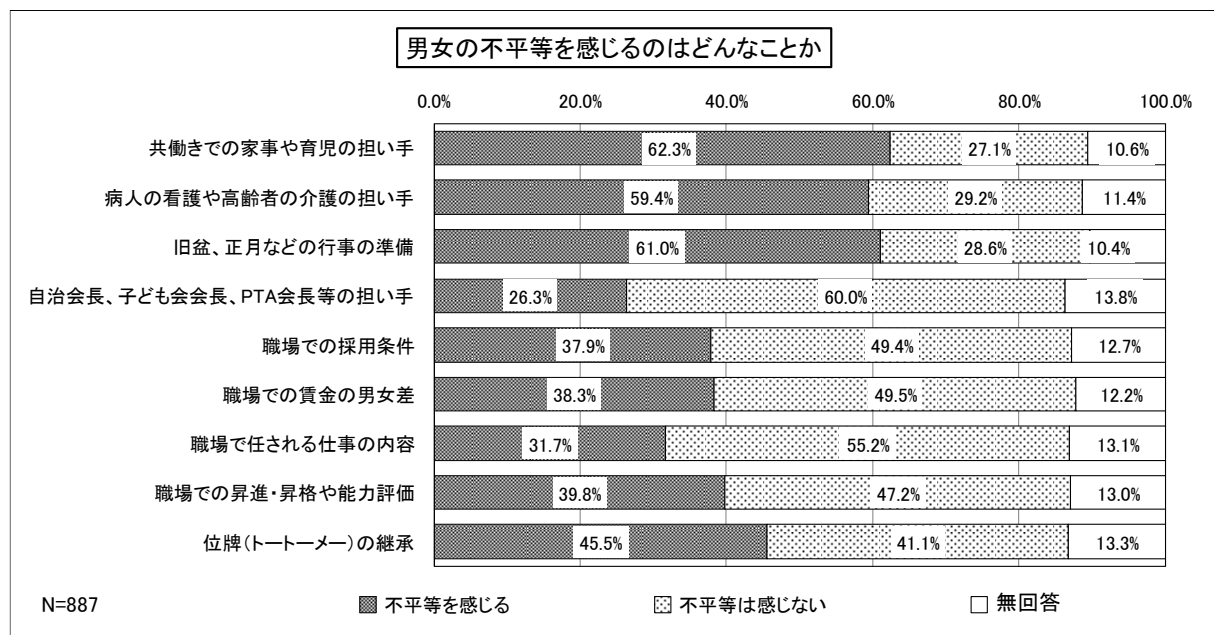
	市(H29)	県(H28)	市-県
就職情報や職業紹介などの相談する機関や窓口の充実	20.7%	25.5%	-4.8
技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実	18.3%	21.2%	-2.9
育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻れる制度の普及	58.3%	58.2%	0.1
企業経営者や職場の理解	34.4%	33.7%	0.7
労働時間の短縮、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入	55.0%	44.1%	10.9
育児や介護のための施設やサービスの充実	45.9%	36.1%	9.8
夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力	34.6%	39.4%	-4.8
その他	0.7%	1.2%	-0.5
わからない	1.0%	1.9%	-0.9
無回答	4.8%	4.4%	0.4

問 11 家庭・職場・地域・社会全般で男女の不平等を感じること

男女の不平等を感じる割合が5割を超えるものは、「共働きでの家事や育児の担い手」62.3%、「病人の看護や高齢者の介護の担い手」59.4%、「旧盆、正月などの行事の準備」61.0%となっています。

不平等を感じない割合が5割を超えるものは、「自治会長、子ども会会長、PTA会長等の担い手」60.0%、「職場で任される仕事の内容」55.2%となっています。また、「職場での採用条件」49.4%、「職場での賃金の男女差」49.5%は5割に近い値になっています。

職場での待遇や地域社会における役割については、「不平等を感じない」が多いですが、家庭内の役割分担については「不平等を感じる」が多くなっています。



① 共働きでの家事や育児の担い手

性別でみると、「不平等を感じる」は女性が68.8%、男性が52.5%と男女とも不平等と感じる方が半数を超え、女性が男性より16.3ポイント高くなっています。次いで「不平等は感じない」は女性が22.5%、男性が34.4%と男性が11.9ポイント高くなっています。

年齢別では、「不平等を感じる」の割合が高い方は、女性が30代、40代、50代の順で7割台、男性が50代、70代以上、60代の順で5割台となっています。不平等を感じている方は、女性の30～50代で高いことが分かります。

「不平等は感じない」の割合が高い方は、男性の20～40代で高く4～5割となっています。

共働きでの家事や育児の担い手

	不平等を感じる	不平等は感じない	無回答
女性 計	68.8%	22.5%	8.7%
18歳～19歳	62.5%	37.5%	0.0%
20代	65.8%	34.2%	0.0%
30代	72.9%	23.7%	3.4%
40代	72.1%	23.5%	4.4%
50代	71.9%	21.3%	6.7%
60代	63.9%	20.2%	16.0%
70代以上	55.9%	8.8%	35.3%
男性 計	52.5%	34.4%	13.1%
18歳～19歳	55.6%	33.3%	11.1%
20代	38.5%	57.7%	3.8%
30代	51.9%	46.2%	1.9%
40代	50.6%	42.9%	6.5%
50代	58.0%	34.8%	7.2%
60代	53.6%	19.0%	27.4%
70代以上	53.8%	11.5%	34.6%

② 病人の看護や高齢者の介護の担い手

性別でみると、「不平等を感じる」は女性が64.6%、男性が51.6%と男女とも不平等と感じる方が半数を超え、女性が男性より13.0ポイント高くなっています。次いで「不平等は感じない」は女性が25.8%、男性が34.7%と男性が8.9ポイント高くなっています。

年齢別では、「不平等を感じる」の割合が高い方は、女性が50代、40代、60代の順で6～7割、男性が40代、30代、50代の順で5割台となっています。不平等を感じている方は、女性の40～60代が高いことが分かります。

「不平等は感じない」の割合が高い方は、男性の20代が突出して高く約7割となっています。また、女性の20代も約5割が不平等は感じないとなっています。

病人の看護や高齢者の介護の担い手

	不平等を感じる	不平等は感じない	無回答
女性 計	64.6%	25.8%	9.6%
18歳～19歳	25.0%	75.0%	0.0%
20代	44.7%	52.6%	2.6%
30代	64.4%	28.8%	6.8%
40代	67.6%	27.2%	5.1%
50代	73.0%	19.1%	7.9%
60代	66.4%	19.3%	14.3%
70代以上	55.9%	8.8%	35.3%
男性 計	51.6%	34.7%	13.7%
18歳～19歳	44.4%	55.6%	0.0%
20代	26.9%	69.2%	3.8%
30代	59.6%	36.5%	3.8%
40代	59.7%	32.5%	7.8%
50代	52.2%	39.1%	8.7%
60代	48.8%	22.6%	28.6%
70代以上	46.2%	23.1%	30.8%

③ 旧盆、正月などの行事の準備

性別でみると、「不平等を感じる」は女性が66.6%、男性が52.2%と男女とも不平等と感じる方が半数を超え、女性が男性より14.4ポイント高くなっています。次いで「不平等は感じない」は女性が25.8%、男性が33.2%と男性が7.4ポイント高くなっています。

年齢別では、「不平等を感じる」の割合が高い方は、女性が20代、50代、40代の順で7割台、男性が40代、50代、30代の順で5割台となっています。不平等を感じている方は、女性の20代、40代、60代が高いことが分かります。

「不平等は感じない」の割合が高い方は、男性の20代、30代で4割台となっています。

旧盆、正月などの行事の準備

	不平等を感じる	不平等は感じない	無回答
女性 計	66.6%	25.8%	7.6%
18歳～19歳	50.0%	50.0%	0.0%
20代	73.7%	26.3%	0.0%
30代	59.3%	35.6%	5.1%
40代	72.1%	23.5%	4.4%
50代	73.0%	21.3%	5.6%
60代	63.0%	24.4%	12.6%
70代以上	61.8%	11.8%	26.5%
男性 計	52.2%	33.2%	14.6%
18歳～19歳	66.7%	22.2%	11.1%
20代	50.0%	46.2%	3.8%
30代	53.8%	40.4%	5.8%
40代	59.7%	33.8%	6.5%
50代	58.0%	31.9%	10.1%
60代	40.5%	31.0%	28.6%
70代以上	46.2%	19.2%	34.6%

④ 自治会長、子ども会会長、PTA 会長等の担い手

性別で見ると、「不平等を感じない」は女性が 60.9%、男性が 58.9%と男女とも不平等と感じない方が半数を超え、女性が男性より 2.0 ポイント高くなっています。次いで「不平等を感じる」は女性が 26.9%、男性が 25.4%と女性が 1.5 ポイント高くなっています

年齢別では、「不平等を感じない」の支持が高方は、女性の 20 代が 7 割、50 代と 40 代が 6 割、男性の 20 代が 8 割、30 代と 40 代が 6 割台となっています。不平等を感じないは 20 代の男女が高いことが分かります。

「不平等を感じる」の割合が高い方は、女性の 40 代、30 代、男性の 30 代が 3 割台となっています。

自治会長、子ども会会長、PTA 会長等の担い手

	不平等を感じる	不平等を感じない	無回答
女性 計	26.9%	60.9%	12.2%
18歳～19歳	12.5%	87.5%	0.0%
20代	21.1%	76.3%	2.6%
30代	31.4%	59.3%	9.3%
40代	31.6%	62.5%	5.9%
50代	27.0%	64.0%	9.0%
60代	21.0%	58.8%	20.2%
70代以上	23.5%	35.3%	41.2%
男性 計	25.4%	58.9%	15.7%
18歳～19歳	22.2%	55.6%	22.2%
20代	11.5%	80.8%	7.7%
30代	30.8%	65.4%	3.8%
40代	27.3%	64.9%	7.8%
50代	26.1%	62.3%	11.6%
60代	27.4%	42.9%	29.8%
70代以上	15.4%	50.0%	34.6%

⑤ 職場での採用条件

性別で見ると、「不平等を感じない」は女性が 49.3%、男性が 49.9%と男女ともに多く、女性が 0.6 ポイント高くなっています。次いで

「不平等を感じる」は女性が 40.0%、男性が 37.4%と女性が 5.3 ポイント高くなっています

年齢別では、「不平等を感じない」の割合が高い方は、女性が 20 代で 6 割、男性が 30 代で 6 割と比較的若い方に多く見られます。

「不平等を感じる」の割合が高い方は、女性が 30 代、40 代、60 代で 4 割、男性が 40 代で 4 割、20 代と 50 代で 3 割となっています。

職場での採用条件

	不平等を感じる	不平等を感じない	無回答
女性 計	40.0%	49.3%	10.7%
18歳～19歳	50.0%	50.0%	0.0%
20代	28.9%	68.4%	2.6%
30代	43.2%	51.7%	5.1%
40代	41.2%	52.9%	5.9%
50代	37.1%	53.9%	9.0%
60代	42.9%	39.5%	17.6%
70代以上	32.4%	26.5%	41.2%
男性 計	34.7%	49.9%	15.5%
18歳～19歳	33.3%	55.6%	11.1%
20代	34.6%	57.7%	7.7%
30代	28.8%	67.3%	3.8%
40代	42.9%	49.4%	7.8%
50代	37.7%	50.7%	11.6%
60代	29.8%	42.9%	27.4%
70代以上	30.8%	26.9%	42.3%

⑥ 職場での賃金の男女差

性別で見ると、「不平等を感じない」は女性が46.9%、男性が53.9%と男女ともに多く、男性が7.0ポイント高くなっています。次いで「不平等を感じる」は女性が42.3%、男性が32.4%と女性が9.9ポイント高くなっています。男女の賃金差に不平等を感じている方は、女性に多くみられます。

年齢別では、「不平等を感じない」の割合が高い方、男性の30～40代が約7割と多く見られます。

「不平等を感じる」の割合が高い方は、女性の40～60代で4割台、男性の50代、70代以上で4割台と、男女とも年代によって不平等を感じている方が多くみられます。

職場での賃金の男女差

	不平等を感じる	不平等は感じない	無回答
女性 計	42.3%	46.9%	10.9%
18歳～19歳	62.5%	37.5%	0.0%
20代	36.8%	60.5%	2.6%
30代	39.8%	55.9%	4.2%
40代	40.4%	52.9%	6.6%
50代	43.8%	47.2%	9.0%
60代	47.9%	34.5%	17.6%
70代以上	35.3%	20.6%	44.1%
男性 計	32.4%	53.9%	13.7%
18歳～19歳	55.6%	33.3%	11.1%
20代	34.6%	65.4%	0.0%
30代	23.1%	73.1%	3.8%
40代	23.4%	68.8%	7.8%
50代	43.5%	44.9%	11.6%
60代	31.0%	45.2%	23.8%
70代以上	42.3%	19.2%	38.5%

⑦ 職場で任される仕事の内容

性別で見ると、「不平等を感じない」は女性が58.1%、男性が51.0%と男女ともに半数を超え、女性が男性より7.1ポイント高くなっています。次いで「不平等を感じる」は女性が30.4%、男性が33.8%と男性が3.4ポイント高くなっています。仕事内容に不平等を感じている方は、男性に多くみられます。

年齢別では、「不平等を感じない」の割合が高い方は、女性の20～40代が6～7割、男性の20～40代が5割台となっており、男女とも比較的若い世代に多く見られます。

「不平等を感じる」の割合が高い方は、女性の60～70代以上が3割台と高齢の女性が多く、男性は20～30代に3～4割みられます。

職場で任される仕事の内容

	不平等を感じる	不平等は感じない	無回答
女性 計	30.4%	58.1%	11.4%
18歳～19歳	50.0%	50.0%	0.0%
20代	23.7%	73.7%	2.6%
30代	32.2%	64.4%	3.4%
40代	27.2%	65.4%	7.4%
50代	30.3%	58.4%	11.2%
60代	32.8%	47.9%	19.3%
70代以上	32.4%	26.5%	41.2%
男性 計	33.8%	51.0%	15.2%
18歳～19歳	44.4%	44.4%	11.1%
20代	42.3%	53.8%	3.8%
30代	36.5%	59.6%	3.8%
40代	33.8%	58.4%	7.8%
50代	40.6%	47.8%	11.6%
60代	27.4%	44.0%	28.6%
70代以上	19.2%	42.3%	38.5%

⑧ 職場での昇進・昇格や能力評価

性別で見ると、「不平等を感じない」は女性が46.9%、男性が48.1%と男女ともに多く、男性が1.2ポイント高くなっています。

次いで「不平等は感じる」は女性が41.9%、男性が36.7%と女性が5.2ポイント高くなっています。不平等を感じている方は、女性に多くみられます。

年齢別では、「不平等は感じる」の割合が高い方は、女性が20～40代で5割台、男性が20～40代で5～6割となっています。不平等を感じないは男女とも比較的若い世代に多くみられます。

「不平等を感じる」の割合が高い方は、男女とも中高年（50～60代）に多く見られます。

職場での昇進・昇格や能力評価

	不平等を感じる	不平等は感じない	無回答
女性 計	41.9%	46.9%	11.3%
18歳～19歳	62.5%	37.5%	0.0%
20代	39.5%	57.9%	2.6%
30代	43.2%	51.7%	5.1%
40代	39.0%	54.4%	6.6%
50代	41.6%	47.2%	11.2%
60代	46.2%	37.0%	16.8%
70代以上	32.4%	23.5%	44.1%
男性 計	36.7%	48.1%	15.2%
18歳～19歳	44.4%	44.4%	11.1%
20代	34.6%	61.5%	3.8%
30代	34.6%	61.5%	3.8%
40代	33.8%	58.4%	7.8%
50代	39.1%	47.8%	13.0%
60代	39.3%	33.3%	27.4%
70代以上	34.6%	26.9%	38.5%

⑨ 位牌（トートナー）の継承

性別で見ると、「不平等を感じる」は女性が47.4%、男性が42.9%と男女とも多く、女性が4.5ポイント高くなっています。不平等を感じるの女性に多くみられます。

次いで「不平等は感じない」は女性が40.8%、男性は42.0%と、男性が1.2ポイント高くなっています。

年齢別では、「不平等を感じる」の割合が高い方は、女性が40～60代で5割台、男性が30代、50代、60代の4割台となっています。

「不平等は感じない」の割合が高い方は、女性が20～30代で5割台、男性は20代、40代の5割台となっています。

女性の若い世代では不公平は感じていない方が多く、中高年層は不公平を感じているが多くなっています。

位牌（トートナー）の継承

	不平等を感じる	不平等は感じない	無回答
女性 計	47.4%	40.8%	11.8%
18歳～19歳	37.5%	50.0%	12.5%
20代	44.7%	50.0%	5.3%
30代	34.7%	56.8%	8.5%
40代	55.1%	36.0%	8.8%
50代	50.6%	41.6%	7.9%
60代	50.4%	33.6%	16.0%
70代以上	47.1%	14.7%	38.2%
男性 計	42.9%	42.0%	15.2%
18歳～19歳	55.6%	33.3%	11.1%
20代	42.3%	50.0%	7.7%
30代	48.1%	48.1%	3.8%
40代	37.7%	53.2%	9.1%
50代	44.9%	40.6%	14.5%
60代	42.9%	31.0%	26.2%
70代以上	38.5%	30.8%	30.8%

〈前回市調査との比較〉

家庭や職場、地域など不平等を感じる事柄については前回調査と比較すると、「職場での採用条件」と「職場での昇進・昇格や能力評価」を除く他の項目全てで不平等を感じる割合が減少しています。なかでも、「病人の看護や高齢者の介護の担い手」は14.8ポイントと大幅に減少しています。

一方で、「共働きでの家事や育児の担い手（62.3%）」、「病人の看護や高齢者の介護の担い手（59.4%）」、「旧盆、正月などの行事の準備（61.0%）」は依然として、5割以上の方が不公平を感じています。

問11 あなたが家庭・職場・地域・社会全般において、男女の不平等を感じるのは、どんなことですか。（それぞれ○を1つ）
不平等を感じる割合

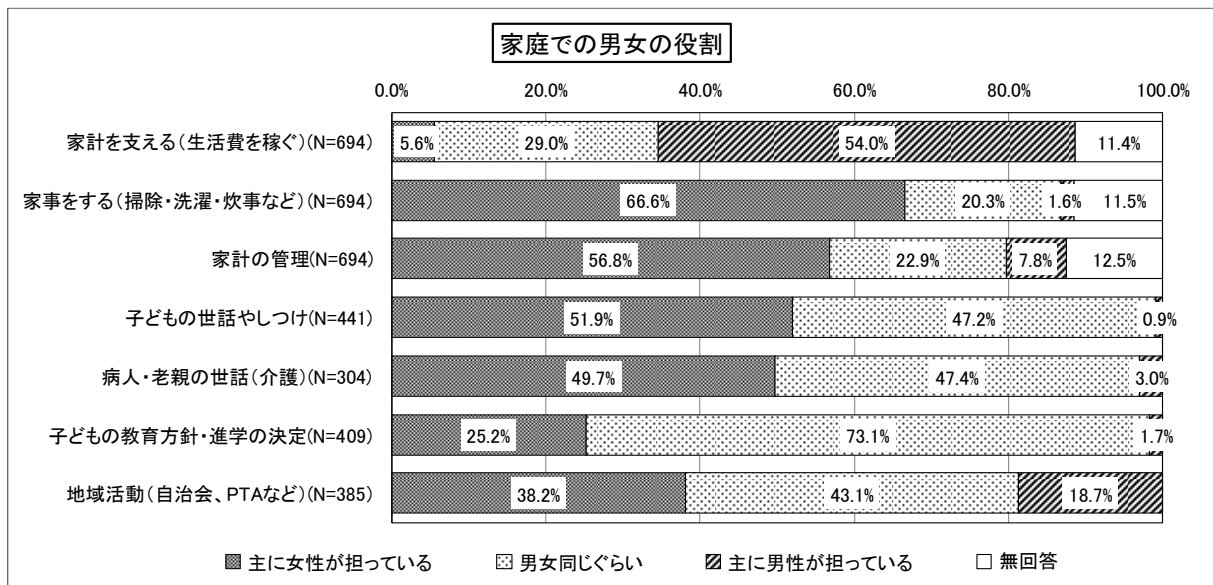
	市(H21)	市(H29)	H29-H21
共働きでの家事や育児の担い手	65.4%	62.3%	-3.1
病人の看護や高齢者の介護の担い手	74.2%	59.4%	-14.8
旧盆、正月などの行事の準備	65.8%	61.0%	-4.8
自治会長、子ども会会長、PTA会長等の担い手	34.2%	26.3%	-7.9
職場での採用条件	36.5%	37.9%	1.3
職場での賃金の男女差	39.4%	38.3%	-1.0
職場で任される仕事の内容	35.9%	31.7%	-4.3
職場での昇進・昇格や能力評価	38.3%	39.8%	1.5
位牌(トートナー)の継承	51.4%	45.5%	-5.9

問12 家庭での男女の役割（夫婦のみ、夫婦と子ども、3世代世帯が対象）

家庭での男女の役割について、主に女性が担っている役割は「家事をする（掃除・洗濯・炊事など）」が66.6%と多く、次いで「家計の管理」56.8%、「子どもの世話やしつけ」51.9%、「病人・老親の世話（介護）」49.7%となっています。

主に男性が担っている役割は、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」54.0%の1項目が、主に女性が担っているを上回っています。

男女同じくらいという回答が最も高くなるのは「子どもの教育方針・進学決定」73.1%、次いで「地域活動（自治会、PTAなど）」43.1%となっています。



① 家計を支える（生活費を稼ぐ）

性別で見ると、男女ともに「主に男性が担っている」が多く女性：55.0%、男性：52.7%と半数を超え、女性が男性より2.3ポイント高くなっています。家計は主に男性が担っていることが伺えます。

次いで「男女同じぐらい」は女性：28.7%、男性：29.5%と男性が0.8ポイント高くなっています。

年齢別では、「主に男性が担っている」の割合が高い方は、女性の40～60代で5～6割、男性は50代、70代以上で6割台と、男女とも中高年が多くなっています。

「男女同じぐらい」の割合が高い方は、女性の30～40代が約3割、男性の20代、40代が3～4割と、比較的若い年代が多くなっています。

家計を支える(生活費を稼ぐ)

	主に女性が担っている	男女同じぐらい	主に男性が担っている	無回答
女性 計	6.7%	28.7%	55.0%	9.6%
18歳～19歳	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%
20代	7.4%	25.9%	51.9%	14.8%
30代	6.1%	34.3%	53.5%	6.1%
40代	5.5%	29.4%	60.6%	4.6%
50代	7.8%	28.1%	59.4%	4.7%
60代	5.7%	25.3%	54.0%	14.9%
70代以上	14.8%	22.2%	29.6%	33.3%
男性 計	4.0%	29.5%	52.7%	13.8%
18歳～19歳	14.3%	42.9%	42.9%	0.0%
20代	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%
30代	5.1%	25.6%	56.4%	12.8%
40代	7.7%	35.4%	43.1%	13.8%
50代	0.0%	26.8%	62.5%	10.7%
60代	4.2%	28.2%	50.7%	16.9%
70代以上	0.0%	18.2%	68.2%	13.6%

② 家事をする（掃除・洗濯・炊事など）

性別で見ると、男女ともに「主に女性が担っている」が多く女性：69.6%、男性：62.2%と半数を超え、女性が男性より7.4ポイント高くなっています。家事は主に女性が担っていることが伺えます。

次いで「男女同じぐらい」が女性：18.7%、男性：22.9%と男性が4.2ポイント高くなっています。

年齢別では、「主に女性が担っている」の支持が高いのは女性で40～50代で7割台、男性の50～70代以上で6～7割と中高年に多く見られます。

「男女同じぐらい」の割合が高い方は、女性の20～30代で2割台、男性の20～30代で3割台と、若い世代に多くみられます。

家事をする(掃除・洗濯・炊事など)

	主に女性が担っている	男女同じぐらい	主に男性が担っている	無回答
女性 計	69.6%	18.7%	1.7%	10.0%
18歳～19歳	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
20代	63.0%	22.2%	0.0%	14.8%
30代	68.7%	23.2%	2.0%	6.1%
40代	74.3%	18.3%	2.8%	4.6%
50代	76.6%	17.2%	1.6%	4.7%
60代	64.4%	18.4%	0.0%	17.2%
70代以上	59.3%	3.7%	3.7%	33.3%
男性 計	62.2%	22.9%	1.5%	13.5%
18歳～19歳	85.7%	0.0%	14.3%	0.0%
20代	46.7%	33.3%	0.0%	20.0%
30代	53.8%	30.8%	2.6%	12.8%
40代	55.4%	29.2%	1.5%	13.8%
50代	64.3%	23.2%	1.8%	10.7%
60代	69.0%	14.1%	0.0%	16.9%
70代以上	72.7%	18.2%	0.0%	9.1%

③ 家計の管理

性別で見ると、男女ともに「主に女性が担っている」が多く女性：60.5%、男性：51.3%と半数を超え、女性が男性より9.2ポイント高くなっています。家計の管理は主に女性が担っていることが伺えます。

次いで「男女同じぐらい」は女性：22.7%、男性：23.3%と男性が0.6ポイント高くなっています。

年齢別では、「主に女性が担っている」の割合が高い方は、女性の40～60代で6割台、男性は40代、50代、70代以上で5割台と中高年が多くなっています。

「男女同じぐらい」の割合が高い方は、女性の30～50代で2～3割、男性は20代と70代以上で3～4割と、女性と男性で年齢の傾向が異なります。

家計の管理

	主に女性が担っている	男女同じぐらい	主に男性が担っている	無回答
女性計	60.5%	22.7%	6.0%	10.8%
18歳～19歳	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
20代	59.3%	18.5%	7.4%	14.8%
30代	54.5%	29.3%	10.1%	6.1%
40代	67.9%	23.9%	3.7%	4.6%
50代	57.8%	32.8%	4.7%	4.7%
60代	66.7%	9.2%	5.7%	18.4%
70代以上	40.7%	14.8%	3.7%	40.7%
男性計	51.3%	23.3%	10.5%	14.9%
18歳～19歳	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%
20代	33.3%	40.0%	6.7%	20.0%
30代	48.7%	23.1%	15.4%	12.8%
40代	53.8%	23.1%	7.7%	15.4%
50代	57.1%	21.4%	10.7%	10.7%
60代	49.3%	16.9%	14.1%	19.7%
70代以上	54.5%	31.8%	0.0%	13.6%

④ 子どもの世話やしつけ

性別で見ると、「主に女性が担っている」は女性：60.3%、男性：39.1%、「男女同じぐらい」は女性39.0%、男性：59.8%となっています。

年齢別では、「主に女性が担っている」の割合が高い方は、女性の60～70代以上7割以上、20代でも6割程度見られ、女性は若者と高齢者で多くなっています。また、男性の60代で5割程度、20代で4割程度が見られます。

「男女同じぐらい」の割合が高い方は、女性の30～50代で4割程度、男性は30～40代で6割台となっており、男性は比較的若い世代で支持が高くなっています。

子どもの世話やしつけ

	主に女性が担っている	男女同じぐらい	主に男性が担っている
女性計	60.3%	39.0%	0.7%
18歳～19歳	0.0%	100.0%	0.0%
20代	61.5%	38.5%	0.0%
30代	57.5%	41.1%	1.4%
40代	58.1%	40.9%	1.1%
50代	58.7%	41.3%	0.0%
60代	72.2%	27.8%	0.0%
70代以上	100.0%	0.0%	0.0%
男性計	39.1%	59.8%	1.1%
18歳～19歳	14.3%	85.7%	0.0%
20代	42.9%	57.1%	0.0%
30代	33.3%	66.7%	0.0%
40代	38.0%	62.0%	0.0%
50代	39.0%	58.5%	2.4%
60代	51.5%	48.5%	0.0%
70代以上	33.3%	50.0%	16.7%

⑤ 病人・老親の世話（介護）

性別で見ると、「主に女性が担っている」は女性：54.1%、男性：43.1%、「男女同じぐらい」は女性：44.8%、男性51.2%となっており、病人・老親の世話を主に誰が担っているかについて男女間で意識の差がみられます。

年齢別では、「主に女性が担っている」の割合が高い方は、女性の70代以上で8割、50代6割と中高年が多くなっています。男性は70代以上が10割、50～60代で4～5割となっています。

「男女同じぐらい」の割合が高い方は、女性の20代で6割台、30～40代4割台、男性は20代8割台、30～40代で6割台と比較的若い世代に多く見られます。

病人・老親の世話（介護）

	主に女性が担っている	男女同じぐらい	主に男性が担っている
女性 計	54.1%	44.8%	1.1%
18歳～19歳	100.0%	0.0%	0.0%
20代	33.3%	66.7%	0.0%
30代	50.0%	47.4%	2.6%
40代	50.9%	47.2%	1.9%
50代	60.5%	39.5%	0.0%
60代	54.3%	45.7%	0.0%
70代以上	80.0%	20.0%	0.0%
男性 計	43.1%	51.2%	5.7%
18歳～19歳	25.0%	75.0%	0.0%
20代	16.7%	83.3%	0.0%
30代	29.4%	64.7%	5.9%
40代	34.4%	62.5%	3.1%
50代	43.8%	56.3%	0.0%
60代	57.7%	23.1%	19.2%
70代以上	100.0%	0.0%	0.0%

⑥ 子どもの教育方針・進学決定

性別で見ると、男女ともに「男女同じぐらい」が多く、女性：68.7%、男性：80.0%と半数を超え、男性が女性より11.3ポイント高くなっています。

次いで「主に女性が担っている」は女性：29.7%、男性：18.1%と女性が11.6ポイント高くなっています。

年齢別では、「男女同じぐらい」の割合が高い方は、女性の70代以上で10割、40代と60代で7割台、男性は20代で10割、40代と60代で8割台となっています。女性は高齢者、男性は若者が多い特徴がみられます。

「主に女性が担っている」の割合が高い方は、女性で20～30代、50代で3割台、男性は70代以上3割台となっています。

子どもの教育方針・進学決定

	主に女性が担っている	男女同じぐらい	主に男性が担っている
女性 計	29.7%	68.7%	1.6%
18歳～19歳	0.0%	66.7%	33.3%
20代	33.3%	66.7%	0.0%
30代	30.9%	67.6%	1.5%
40代	28.9%	71.1%	0.0%
50代	37.8%	57.8%	4.4%
60代	20.7%	79.3%	0.0%
70代以上	0.0%	100.0%	0.0%
男性 計	18.1%	80.0%	1.9%
18歳～19歳	16.7%	66.7%	16.7%
20代	0.0%	100.0%	0.0%
30代	20.0%	80.0%	0.0%
40代	14.0%	86.0%	0.0%
50代	26.3%	71.1%	2.6%
60代	13.0%	82.6%	4.3%
70代以上	33.3%	66.7%	0.0%

⑦ 地域活動（自治会、PTA など）

性別で見ると、「主に女性が担っている」が女性：45.9%、男性：26.9%、「男女同じぐらい」女性：37.6%、男性：51.3%、「主に男性が担っている」は女性：16.6%、男性：21.8%となっており、地域活動を主に誰が担っているかについて男女間で意識の差がみられます。

年齢別では、「主に女性が担っている」の割合が高い方は、女性の30～40代で4～5割と女性は比較的若い世代が多くなっています。男性は30代、50代で3割程度となっています。

「男女同じぐらい」の割合が高い方は、女性の20代で7割程度、30代で4割台、男性の30～40代で6割台と、男性は若い世代が多くなっています。

地域活動(自治会、PTAなど)

	主に女性が担っている	男女同じぐらい	主に男性が担っている
女性 計	45.9%	37.6%	16.6%
18歳～19歳	50.0%	0.0%	50.0%
20代	14.3%	71.4%	14.3%
30代	44.2%	44.2%	11.5%
40代	52.4%	35.4%	12.2%
50代	44.7%	36.2%	19.1%
60代	42.4%	36.4%	21.2%
70代以上	33.3%	0.0%	66.7%
男性 計	26.9%	51.3%	21.8%
18歳～19歳	20.0%	40.0%	40.0%
20代	28.6%	57.1%	14.3%
30代	30.8%	61.5%	7.7%
40代	20.9%	65.1%	14.0%
50代	31.4%	40.0%	28.6%
60代	29.0%	41.9%	29.0%
70代以上	22.2%	33.3%	44.4%

〈県調査との比較〉

家庭での男女の役割分担で男女同じくらいと答えた方について、市調査と県調査の比較をすると、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」以外の全ての項目で市調査が県調査の割合を上回っており、市が県に比べ男女の役割分担が進んでいることが伺えます。

なかでも、「病人・老親の世話（介護）」は26.5ポイント、「子どもの教育方針・進学の設定」は21.6ポイント県を上回っています。

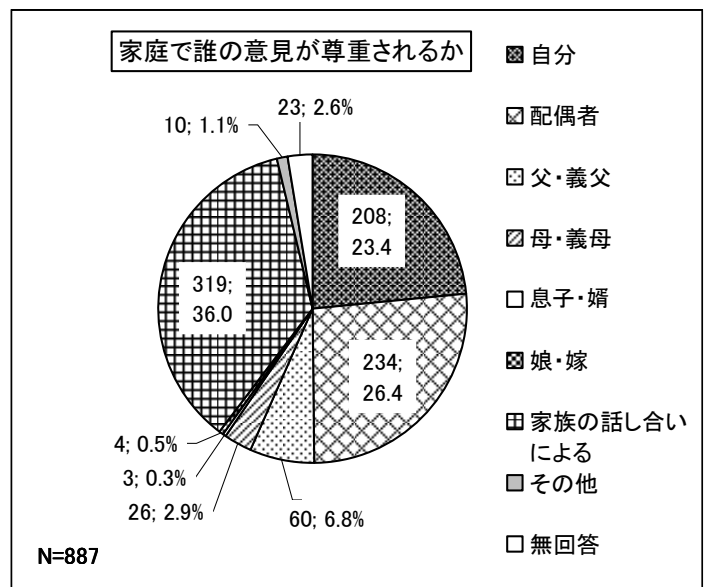
問12 問3で「2. 夫婦(パートナー)のみ」「3. 夫婦と子ども」「4. 3世代世帯」と答えた方のみにお聞きします。あなたのご家庭での男女の役割をお答えください。(それぞれ○を1つ)
男女同じぐらい

	市(H29)	県(H28)	市-県
家計を支える(生活費を稼ぐ)	29.0%	31.2%	-2.2
家事をする(掃除・洗濯・炊事など)	20.3%	16.0%	4.3
家計の管理	22.9%	15.0%	7.9
子どもの世話やしつけ	47.2%	34.1%	13.1
病人・老親の世話(介護)	47.4%	20.9%	26.5
子どもの教育方針・進学の設定	73.1%	51.5%	21.6
地域活動(自治会、PTAなど)	43.1%		

問 13 家全体の重要事項（財産の処分など）を決めるときに誰の意見が尊重されるか

家全体の重要なことから（財産の処分や購入の決定など）決める時誰の意見が尊重されるかについては、「家族の話し合いによる」が36.0%と多く、次いで「配偶者」26.4%、「自分」23.4%、「父・義父」6.8%、「母・義母」2.9%、「娘・嫁」0.5%、「息子・婿」0.3%となっています。

家族の話し合い（その他、無回答含む）以外で、誰かの意見が尊重されるが60.3%になります。



性別でみると女性は、「配偶者」「家族の話し合いによる」が同率の33.9%と多く、次いで「自分」18.3%と続いています。男性は、「家族の話し合いによる」が39.1%と多く、次いで「自分」31.8%、「配偶者」14.6%と続いています。

男女を比較すると、「配偶者」は女性が19.3ポイント高く、「家族の話し合いによる」は男性が5.2ポイント高く、「自分」は男性が13.5ポイント高くなっています。家庭の決定事項には男性の意見が尊重されることが多いことが伺えます。

年齢別では、「配偶者」の割合が高い方は、女性の60～70代以上で割合、男性は60代で2割程となっています。「家族の話し合いによる」の割合が高い方は、女性の30～40代、70代以上3割台、男性は20～40代で4～5割となっています。「自分」の割合が高い方は、女性の20～50代で2割程度、男性は50～70以上で4割程度となっています。

配偶者と答えた女性及び自分と答えた男性は高齢者が多く、家族の話し合いは男女とも比較的若い世代が多くなっています。

家庭で誰の意見が尊重されるか

	自分	配偶者	父・義父	母・義母	息子・婿	娘・嫁	家族の話し合いによる	その他	無回答
女性 計	18.3%	33.9%	6.6%	3.1%	0.6%	0.4%	33.9%	1.1%	2.0%
18歳～19歳	0.0%	0.0%	50.0%	12.5%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%
20代	18.4%	10.5%	23.7%	13.2%	0.0%	0.0%	34.2%	0.0%	0.0%
30代	19.5%	30.5%	11.9%	3.4%	0.0%	0.0%	33.9%	0.8%	0.0%
40代	19.1%	33.1%	2.9%	2.9%	0.7%	0.0%	38.2%	0.0%	2.9%
50代	23.6%	39.3%	2.2%	3.4%	0.0%	0.0%	27.0%	1.1%	3.4%
60代	16.0%	41.2%	2.5%	0.0%	0.0%	1.7%	32.8%	3.4%	2.5%
70代以上	8.8%	44.1%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	38.2%	0.0%	2.9%
男性 計	31.8%	14.6%	7.0%	2.6%	0.0%	0.6%	39.1%	1.2%	3.2%
18歳～19歳	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	77.8%	0.0%	0.0%
20代	11.5%	7.7%	11.5%	11.5%	0.0%	3.8%	50.0%	0.0%	3.8%
30代	21.2%	13.5%	15.4%	7.7%	0.0%	0.0%	40.4%	1.9%	0.0%
40代	28.6%	13.0%	9.1%	2.6%	0.0%	1.3%	42.9%	0.0%	2.6%
50代	40.6%	17.4%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	37.7%	0.0%	1.4%
60代	41.7%	19.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	1.2%	7.1%
70代以上	38.5%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	38.5%	7.7%	3.8%

〈前回市調査との比較〉

家庭内の意思決定者について前回調査と比較すると、「自分」は4.2ポイント増加し、「父・義父」は3.3ポイント減少しています。「家族の話し合いによる」は若干割合が低下しています。

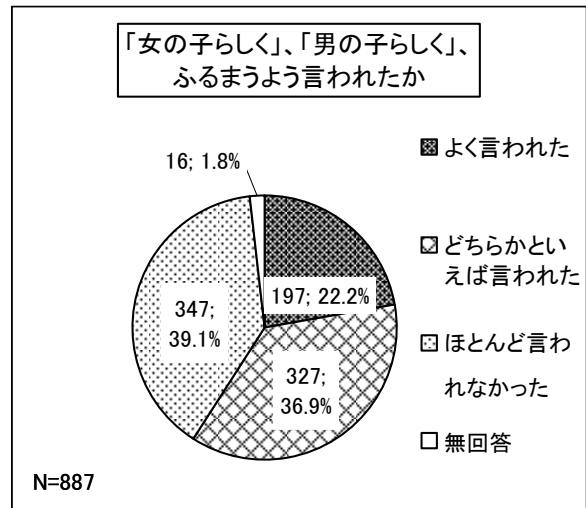
問13 あなたの家庭では、家全体の重要なことがら（財産の処分や購入の決定など）を決めるときに誰の意見が尊重されますか。（○は1つ）

	市(H21)	市(H29)	H29-H21
自分	19.3%	23.4%	4.2
配偶者	25.7%	26.4%	0.7
父・義父	10.1%	6.8%	-3.3
母・義母	2.7%	2.9%	0.2
息子・婿	0.8%	0.3%	-0.4
娘・嫁	0.7%	0.5%	-0.2
家族の話し合いによる	37.7%	36.0%	-1.7
その他	0.8%	1.1%	0.3
無回答	2.3%	2.6%	0.3
	100.0%	100.0%	

問14 子どもの時に親から「女の子（男の子）らしく」ふるまうよう言われたか

子どもの時に、女の子らしく、男の子らしくと言われたかについては、「ほとんど言われなかった」が39.1%と多く、次いで「どちらかといえば言われた」36.9%、「よく言われた」22.2%となっています。

言われた（「よく言われた」と「どちらかといえば言われた」）を合わせると59.1%となります。



性別でみると、「どちらかといえば言われた」は女性：41.0%、男性：30.6%と女性が10.4ポイント高く、「ほとんど言われなかった」は女性：33.2%、男性：48.4%と男性が15.2ポイント高くなっており、女性は「どちらかといえば言われた」が多く、男性は「ほとんど言われなかった」が多くなっています。

「よく言われた」は女性：24.9%、男性18.1%と女性が6.8ポイント高くなっています。

「女の子らしく」、「男の子らしく」ふるまうよう言われたか

	よく言われた	どちらかといえば言われた	ほとんど言われなかった	無回答
女性 計	24.9%	41.0%	33.2%	0.9%
18歳～19歳	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%
20代	26.3%	26.3%	44.7%	2.6%
30代	22.9%	39.0%	38.1%	0.0%
40代	25.7%	41.9%	31.6%	0.7%
50代	29.2%	44.9%	24.7%	1.1%
60代	24.4%	42.0%	31.9%	1.7%
70代以上	23.5%	38.2%	38.2%	0.0%
男性 計	18.1%	30.6%	48.4%	2.9%
18歳～19歳	33.3%	11.1%	55.6%	0.0%
20代	15.4%	15.4%	65.4%	3.8%
30代	17.3%	32.7%	48.1%	1.9%
40代	13.0%	33.8%	50.6%	2.6%
50代	24.6%	29.0%	44.9%	1.4%
60代	20.2%	33.3%	40.5%	6.0%
70代以上	7.7%	34.6%	57.7%	0.0%

年齢別では、「どちらかといえば言われた」の割合が高い方は、女性の40～60代で4割台、男性は40代及び60～70代以上で3割台となっており、女性は中高年、男性は高齢者に多くみられます。

「ほとんど言われなかった」の割合が高い方は、女性の20代で4割台、30代と70代以上で3割台、男性は20代で6割台、40代と70代以上が5割台と、男女とも各世代にみられます。

「よく言われた」の割合が高い方は、女性の20代及び40～50代で2割台、男性の50～60代で2割台となっています。

〈前回市調査との比較〉

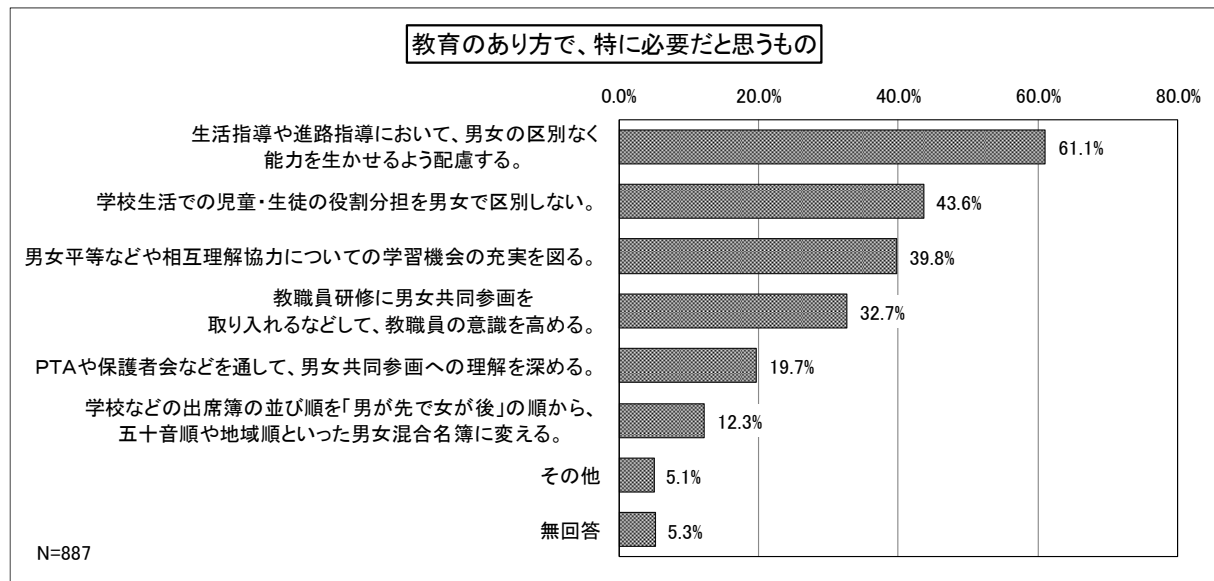
子どものとき“女の子らしく”または“男の子らしく”ふるまいなさいと言われたかについて、前回調査と比較すると「よく言われた」や「どちらかといえば言われた」の割合が減少しており、合わせて9.8ポイントの減となっています。一方、「ほとんど言われなかった」は8.6ポイントの増と、“女の子らしく”または“男の子らしく”と親から言われることは減ってきていることが伺えます。

問14 あなたは、子どもの時に、行儀作法や言葉遣いについて、親から「女性であれば“女の子らしく”、男性であれば“男の子らしく”ふるまうよう言われましたか。(○は1つ)

	市(H21)	市(H29)	H29-H21
よく言われた	27.8%	22.2%	-5.6
どちらかといえば言われた	41.0%	36.9%	-4.2
ほとんど言われなかった	30.6%	39.1%	8.6
無回答	0.6%	1.8%	1.2
	100.0%	100.0%	

問 15 教育のあり方で特に必要だと思うもの（複数回答）

教育で特に必要なものは、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」が61.1%と多く、次いで「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女で区別しない」43.6%、「男女平等などや相互理解協力についての学習機会の充実を図る」39.8%、「教職員研修に男女共同参画を取り入れるなどして、教職員の意識を高める」32.7%、「PTAや保護者会などを通して、男女共同参画への理解を深める」19.7%、「学校などの出席簿の並び順を「男が先で女が後」の順から、五十音順や地域順といった男女混合名簿に変える」12.3%となっています。



性別でみると、男女ともに「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」が多く女性：60.0%、男性：63.0%と男性が3.0ポイント高くなっています。

次いで「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女で区別しない」は女性：43.4%、男性：44.3%と男性が0.9ポイント高く、「男女平等などや相互理解協力についての学習機会の充実を図る」は女性：40.0%、男性：39.8%と女性が0.3ポイント高くなっており、1位～3位まで男女とも同じ順位となっています。

年齢別では、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が高い方は、女性の50代～70代以上で5～7割、男性は60～70代以上で7～8割、20代で6割と、男女とも高齢者が多いが、男性は若い世代も多くみられます。

「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女で区別しない」の割合が高い方は、女性の50代～70代以上で4～5割、男性は60～70代以上で4～5割、20～30代4割と、男女とも高齢者が多いが、男性は若い世代も多くみられます。

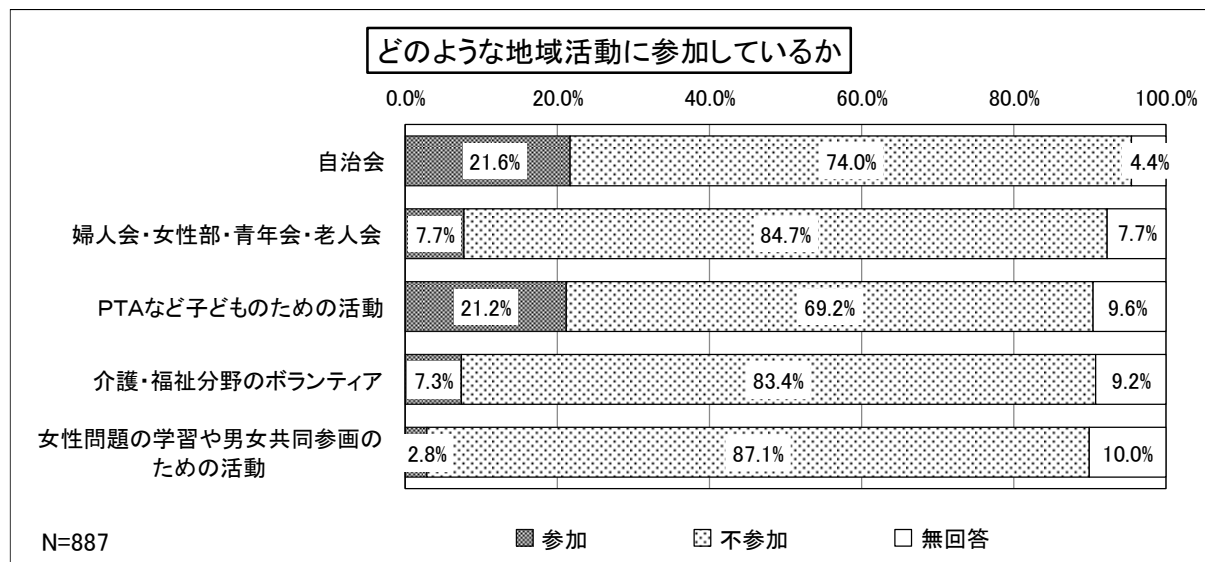
「男女平等などや相互理解協力についての学習機会の充実を図る」の支持が高いの方は、女性の30代～40代及び70代以上で4割台、男性の20～40代で4～5割となっています。

女性が仕事を辞めずに働き続けるために何が必要か(構成比)

	学校などの出席簿の並び順を「男が先で女が後」の順から、五十音順や地域順といった男女混合名簿に変える。	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する。	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女で区別しない。	教職員研修に男女共同参画を取り入れるなどして、教職員の意識を高める。	PTAや保護者会などを通して、男女共同参画への理解を深める。	男女平等などや相互理解協力についての学習機会の充実を図る。	その他	無回答
女性 計	12.0%	60.0%	43.4%	31.2%	18.1%	40.0%	5.4%	4.8%
18歳～19歳	37.5%	37.5%	12.5%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
20代	15.8%	55.3%	28.9%	28.9%	18.4%	39.5%	2.6%	5.3%
30代	11.0%	48.3%	36.4%	27.1%	18.6%	46.6%	5.9%	3.4%
40代	10.3%	58.8%	39.7%	30.9%	14.0%	41.9%	7.4%	4.4%
50代	9.0%	59.6%	44.9%	31.5%	23.6%	36.0%	6.7%	5.6%
60代	12.6%	73.9%	55.5%	35.3%	16.0%	33.6%	2.5%	6.7%
70代以上	17.6%	67.6%	58.8%	35.3%	23.5%	41.2%	5.9%	2.9%
男性 計	12.8%	63.0%	44.3%	35.0%	22.4%	39.7%	4.7%	5.8%
18歳～19歳	11.1%	33.3%	11.1%	22.2%	11.1%	44.4%	22.2%	0.0%
20代	11.5%	65.4%	46.2%	38.5%	23.1%	50.0%	0.0%	0.0%
30代	21.2%	46.2%	46.2%	25.0%	19.2%	42.3%	11.5%	5.8%
40代	7.8%	58.4%	40.3%	36.4%	23.4%	44.2%	3.9%	5.2%
50代	17.4%	63.8%	42.0%	39.1%	20.3%	42.0%	4.3%	2.9%
60代	8.3%	72.6%	47.6%	33.3%	26.2%	36.9%	2.4%	10.7%
70代以上	15.4%	84.6%	57.7%	46.2%	23.1%	11.5%	0.0%	7.7%

問 16 現在の地域活動の参加状況

地域活動の参加状況は、各活動とも「不参加」が7～8割と「参加」を大きく上回っています。「参加」で多い活動は、「自治会」21.6%、「PTAなど子どものための活動」21.2%が見られます。



① 自治会

性別でみると、男女ともに「不参加」が多く女性：76.8%、男性：69.7%と女性が7.1ポイント高く、「参加」は女性：18.8%、男性：26.2%と男性が7.4ポイント高くなっています。男女とも不参加が多く、特に女性の不参加の割合が高くなっています。

年齢別では、「不参加」の割合が高い方は、女性の20～40代で8～9割、男性の20～40代で8割台と、男女とも比較的若い世代が多くなっています。

「参加」の割合が高い方は、女性の70代以上で4割台、60代で3割台、男性の70代以上で5割、60代で4割台と、男女とも高齢の方が多くなっています。

自治会

	参加	不参加	無回答
女性 計	18.8%	76.8%	4.4%
18歳～19歳	0.0%	100.0%	0.0%
20代	0.0%	97.4%	2.6%
30代	7.6%	89.0%	3.4%
40代	14.0%	83.1%	2.9%
50代	22.5%	74.2%	3.4%
60代	32.8%	59.7%	7.6%
70代以上	44.1%	47.1%	8.8%
男性 計	26.2%	69.7%	4.1%
18歳～19歳	0.0%	88.9%	11.1%
20代	11.5%	84.6%	3.8%
30代	9.6%	86.5%	3.8%
40代	15.6%	81.8%	2.6%
50代	30.4%	68.1%	1.4%
60代	42.9%	48.8%	8.3%
70代以上	50.0%	50.0%	0.0%

② 婦人会・女性部・青年会・老人会

性別で見ると、男女ともに「不参加」が多く女性：86.9%、男性：81.3%と女性が5.6ポイント高く、「参加」は女性：7.2%、男性：8.5%と男性が1.3ポイント高くなっています。男女とも不参加が多く、特に女性の不参加の割合が高くなっています。

年齢別では、「不参加」の割合が高い方は、女性の20～40代で9割台、男性の20～40代で8～9割と、男女とも比較的若い世代が多くなっています。

「参加」の割合が高い方は、女性の70代以上で3割台、男性の70代以上で3割台と、男女とも高齢の方が多くなっています。

婦人会・女性部・青年会・老人会

	参加	不参加	無回答
女性 計	7.2%	86.9%	5.9%
18歳～19歳	0.0%	100.0%	0.0%
20代	2.6%	94.7%	2.6%
30代	0.8%	94.9%	4.2%
40代	0.7%	95.6%	3.7%
50代	9.0%	85.4%	5.6%
60代	13.4%	77.3%	9.2%
70代以上	35.3%	50.0%	14.7%
男性 計	8.5%	81.3%	10.2%
18歳～19歳	0.0%	88.9%	11.1%
20代	3.8%	92.3%	3.8%
30代	0.0%	96.2%	3.8%
40代	6.5%	89.6%	3.9%
50代	8.7%	87.0%	4.3%
60代	10.7%	65.5%	23.8%
70代以上	30.8%	50.0%	19.2%

③ PTAなど子どものための活動

性別で見ると、男女ともに「不参加」が多く女性：69.7%、男性：68.5%と女性が1.2ポイント高く、「参加」は女性：22.3%、男性：19.5%と女性が2.8ポイント高くなっています。男女とも不参加が多くなっています。

年齢別では、「不参加」の割合が高い方は、女性の20代で9割、30代と60代で7割、男性の20代で9割、30代と50代で7割と、男女ともに子育て世代が入っています。

「参加」の割合が高い方は、女性の40代で4割台、男性の40代で3割台と、男女ともに子育て世代が多くなっています。

PTAなど子どものための活動

	参加	不参加	無回答
女性 計	22.3%	69.7%	7.9%
18歳～19歳	12.5%	87.5%	0.0%
20代	5.3%	92.1%	2.6%
30代	21.2%	74.6%	4.2%
40代	44.9%	52.2%	2.9%
50代	22.5%	67.4%	10.1%
60代	5.9%	79.8%	14.3%
70代以上	14.7%	64.7%	20.6%
男性 計	19.5%	68.5%	12.0%
18歳～19歳	0.0%	88.9%	11.1%
20代	3.8%	92.3%	3.8%
30代	25.0%	73.1%	1.9%
40代	37.7%	59.7%	2.6%
50代	21.7%	75.4%	2.9%
60代	4.8%	63.1%	32.1%
70代以上	19.2%	53.8%	26.9%

④ 介護・福祉分野のボランティア

性別で見ると、男女ともに「不参加」が多く女性：85.6%、男性：80.2%と女性が5.4ポイント高く、「参加」は女性：7.4%、男子：7.3%と女性が0.1ポイント高くなっています。男女とも不参加が多く女性の割合が高くなっています。

年齢別では、「不参加」の割合が高い方は、女性の20～40代で9割台、男性は20～40代で8～9割と、男女とも比較的若い世代が多くみわれます。

「参加」の割合が高い方は、女性の50～70代以上で1割台、男性は20代と50代で1割台となっています。

介護・福祉分野のボランティア

	参加	不参加	無回答
女性 計	7.4%	85.6%	7.0%
18歳～19歳	25.0%	75.0%	0.0%
20代	2.6%	94.7%	2.6%
30代	1.7%	94.1%	4.2%
40代	3.7%	92.6%	3.7%
50代	11.2%	82.0%	6.7%
60代	11.8%	76.5%	11.8%
70代以上	17.6%	61.8%	20.6%
男性 計	7.3%	80.2%	12.5%
18歳～19歳	11.1%	77.8%	11.1%
20代	11.5%	84.6%	3.8%
30代	0.0%	96.2%	3.8%
40代	6.5%	88.3%	5.2%
50代	13.0%	82.6%	4.3%
60代	6.0%	64.3%	29.8%
70代以上	7.7%	65.4%	26.9%

⑤ 女性問題の学習や男女共同参画のための活動

性別で見ると、男女ともに「不参加」が多く女性：89.5%、男性：83.7%と女性が5.8ポイント高く、「参加」は女性：2.8%、男性：2.9%と男性が0.1ポイント高くなっています。男女とも不参加が多く女性の割合が高くなっています。

年齢別では、「不参加」の割合が高い方は、女性の20～40代で9割台、男性の20～30代及び50代で8～9割と、男女ともに比較的若い世代が多くなっています。

「参加」の割合が高い方は、女性の70代以上で1割、男性の70代以上で1割未満となっています。

女性問題の学習や男女共同参画のための活動

	参加	不参加	無回答
女性 計	2.8%	89.5%	7.7%
18歳～19歳	0.0%	100.0%	0.0%
20代	0.0%	97.4%	2.6%
30代	0.8%	94.9%	4.2%
40代	2.9%	94.1%	2.9%
50代	3.4%	88.8%	7.9%
60代	2.5%	83.2%	14.3%
70代以上	11.8%	64.7%	23.5%
男性 計	2.9%	83.7%	13.4%
18歳～19歳	0.0%	88.9%	11.1%
20代	3.8%	92.3%	3.8%
30代	1.9%	94.2%	3.8%
40代	5.2%	89.6%	5.2%
50代	2.9%	89.9%	7.2%
60代	0.0%	69.0%	31.0%
70代以上	7.7%	65.4%	26.9%

〈県調査との比較〉

地域活動に参加していると答えた方について、市調査と県調査の比較をすると、「婦人会・女性部・青年会・老人会」の活動を除く他の全ての活動で、市調査が県調査の割合を上回っており、市が県に比べ地域活動への参加が多いことが伺えます。

なかでも、「PTAなど子どものための活動」は7.9ポイント、「自治会」は6.2ポイント県を上回っています。

問16 あなたは現在、どのような地域活動に参加していますか。(それぞれ該当する箇所に○を付け、不参加の場合は該当する不参加理由の番号を記入ください。)

参加している

	市(H29)	県(H28)	市-県
自治会	21.6%	15.4%	6.2
婦人会・女性部・青年会・老人会	7.7%	10.3%	-2.6
PTAなど子どものための活動	21.2%	13.3%	7.9
介護・福祉分野のボランティア	7.3%	3.0%	4.3
女性問題の学習や男女共同参画のための活動	2.8%	0.7%	2.1

問 17 地域活動に参加しない理由（「該当しない」や「その他」を除く）

① 自治会

自治会活動は、「仕事が忙しく時間がない」が30.0%と多く、次いで「地域活動に関する情報が少ない」17.4%、「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」10.4%、「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」9.8%、「人間関係がわずらわしい」9.8%と続いています。

自治会 不参加の理由(N=656)

	件数	割合
仕事が忙しく時間がない	197	30.0%
地域活動に関する情報が少ない	114	17.4%
家事・子育て・介護が忙しくて時間がない	68	10.4%
地域で興味や関心の持てる活動が行われていない	64	9.8%
人間関係がわずらわしい	64	9.8%
該当しない	64	9.8%
社会活動に関心がない	48	7.3%
その他	46	7.0%
自分の体調がすぐれない	31	4.7%
経済的な負担が大きい	21	3.2%
活動するための施設が近くにない	18	2.7%
同性の参加者が少ないため	4	0.6%
家族の理解や協力が得られない	0	0.0%
無回答	14	2.1%

性別でみると、男女ともに1位は「仕事が忙しく時間がない」で女性：25.2%、男性：38.1%、2位は「地域活動に関する情報が少ない」で女性：19.2%、男性：14.2%となっています。3位は男女で異なり、女性は「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」13.2%、男性は「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」11.7%となっています。

男女を比較すると、「仕事が忙しく時間がない」は男性が12.9ポイント高く、「地域活動に関する情報が少ない」は女性が5.0ポイント高く、「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」は女性が7.7ポイント高く、「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」は男性が3.0ポイント高くなっています。

年齢別では、「仕事が忙しく時間がない」の割合が高い方は、女性の20代及び40～50代で3割程度、男性の20～30代及び50代で4割台と、男女ともに若い世代や中年に多くみられます。

「地域活動に関する情報が少ない」の割合が高い方は、女性の20～30代及び60代で2割程度、男性は30～40代及び70代以上で1割台と、男女ともに若い世代や高齢者で多くみられます。

自治会不参加理由(構成比)

	社会活動に関心がない	地域で興味や関心の持てる活動が行われていない	仕事が忙しく時間がない	家事・子育て・介護が忙しくて時間がない	自分の体調がすぐれない	家族の理解や協力が得られない	経済的な負担が大きい	地域活動に関する情報が少ない	活動するための施設が近くにない	人間関係がわずらわしい	同性の参加者が少ないため	該当しない	その他	無回答
女性 計	5.8%	8.7%	25.2%	13.2%	4.3%	0.0%	3.4%	19.2%	2.2%	9.9%	1.0%	10.3%	8.4%	1.4%
18歳～19歳	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%
20代	8.1%	13.5%	29.7%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%	21.6%	5.4%	8.1%	0.0%	16.2%	2.7%	0.0%
30代	6.7%	9.5%	19.0%	22.9%	1.0%	0.0%	2.9%	22.9%	1.0%	4.8%	0.0%	10.5%	7.6%	1.0%
40代	3.5%	5.3%	31.9%	15.0%	4.4%	0.0%	2.7%	16.8%	2.7%	10.6%	1.8%	10.6%	7.1%	0.9%
50代	6.1%	10.6%	28.8%	6.1%	3.0%	0.0%	1.5%	19.7%	1.5%	13.6%	1.5%	13.6%	7.6%	3.0%
60代	5.6%	5.6%	21.1%	9.9%	8.5%	0.0%	8.5%	21.1%	2.8%	12.7%	1.4%	5.6%	12.7%	2.8%
70代以上	0.0%	18.8%	18.8%	6.3%	25.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	18.8%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%
男性 計	10.0%	11.7%	38.1%	5.4%	5.4%	0.0%	2.9%	14.2%	3.8%	9.6%	0.0%	8.8%	4.6%	3.3%
18歳～19歳	12.5%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%
20代	18.2%	9.1%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.6%	4.5%	4.5%	0.0%	4.5%	4.5%	0.0%
30代	11.1%	20.0%	46.7%	11.1%	0.0%	0.0%	6.7%	17.8%	4.4%	11.1%	0.0%	2.2%	0.0%	2.2%
40代	12.7%	6.3%	34.9%	7.9%	4.8%	0.0%	1.6%	19.0%	1.6%	3.2%	0.0%	7.9%	4.8%	6.3%
50代	2.1%	8.5%	44.7%	2.1%	8.5%	0.0%	0.0%	10.6%	6.4%	10.6%	0.0%	10.6%	8.5%	4.3%
60代	9.8%	7.3%	31.7%	2.4%	12.2%	0.0%	2.4%	9.8%	0.0%	14.6%	0.0%	12.2%	4.9%	2.4%
70代以上	7.7%	30.8%	23.1%	7.7%	7.7%	0.0%	15.4%	15.4%	15.4%	23.1%	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%

② 婦人会・女性部・青年会・老人会

婦人会・女性部・青年会・老人会活動は、「仕事が忙しく時間がない」が28.2%と多く、次いで「地域活動に関する情報が少ない」16.6%、「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」11.2%、「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」10.8%、「人間関係がわずらわしい」10.3%と続いています。

婦人会・女性部・青年会・老人会 不参加の理由(N=751)

	件数	割合
仕事が忙しく時間がない	212	28.2%
地域活動に関する情報が少ない	125	16.6%
該当しない	101	13.4%
家事・子育て・介護が忙しくて時間がない	84	11.2%
地域で興味や関心の持てる活動が行われていない	81	10.8%
人間関係がわずらわしい	77	10.3%
社会活動に関心がない	47	6.3%
その他	44	5.9%
自分の体調がすぐれない	40	5.3%
活動するための施設が近くにない	28	3.7%
経済的な負担が大きい	13	1.7%
同性の参加者が少ないため	4	0.5%
家族の理解や協力が得られない	0	0.0%
無回答	12	1.6%

性別で見ると、男女ともに1位は「仕事が忙しく時間がない」で女性：26.1%、男性：31.5%、2位は「地域活動に関する情報が少ない」で女性：18.7%、男性：13.3%となっています。3位は男女で異なり、女性は「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」15.3%、男性は「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」11.5%となっています。

男女を比較すると、「仕事が忙しく時間がない」は男性が5.4ポイント高く、「地域活動に関する情報が少ない」は女性が5.4ポイント高く、「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」は女性が11.0ポイント高く、「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」は男性が1.1ポイント高くなっています。

年齢別では、「仕事が忙しく時間がない」の割合が高い方は、女性の20代及び40～50代で3割台、男性の30代で4割台、20代と50代で3割台と、男女ともに若い世代や中年に多くみられます。

「地域活動に関する情報が少ない」の割合が高い方は、女性の30代で2割台、男性の70代以上で2割台と、女性は若い世代、男性は高齢者で多くなっています。

婦人会・女性部・青年会・老人会不参加理由(構成比)

	社会活動に関心がない	地域で興味や関心の持てる活動が行われていない	仕事が忙しく時間がない	家事・子育て・介護が忙しくて時間がない	自分の体調がすぐれない	家族の理解や協力が得られない	経済的な負担が大きい	地域活動に関する情報が少ない	活動するための施設が近くにない	人間関係がわずらわしい	同性の参加者が少ないため	該当しない	その他	無回答
女性 計	5.5%	10.4%	26.1%	15.3%	5.1%	0.0%	1.9%	18.7%	3.6%	11.5%	0.6%	10.2%	5.9%	1.1%
18歳～19歳	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%
20代	13.9%	11.1%	30.6%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	19.4%	8.3%	5.6%	0.0%	11.1%	2.8%	0.0%
30代	5.4%	8.9%	18.8%	25.0%	0.9%	0.0%	0.9%	25.0%	1.8%	6.3%	0.0%	11.6%	6.3%	0.0%
40代	2.3%	6.9%	33.8%	19.2%	3.8%	0.0%	0.8%	15.4%	3.8%	10.0%	0.8%	12.3%	3.8%	0.8%
50代	3.9%	11.8%	32.9%	5.3%	6.6%	0.0%	1.3%	18.4%	3.9%	17.1%	1.3%	13.2%	5.3%	1.3%
60代	7.6%	15.2%	19.6%	12.0%	9.8%	0.0%	4.3%	18.5%	4.3%	14.1%	1.1%	3.3%	8.7%	3.3%
70代以上	0.0%	11.8%	17.6%	5.9%	23.5%	0.0%	11.8%	5.9%	0.0%	35.3%	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%
男性 計	7.5%	11.5%	31.5%	4.3%	5.7%	0.0%	1.4%	13.3%	3.9%	8.2%	0.4%	19.0%	5.7%	2.5%
18歳～19歳	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	12.5%	0.0%
20代	12.5%	20.8%	37.5%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	4.2%	4.2%	0.0%	8.3%	4.2%	0.0%
30代	10.0%	12.0%	44.0%	10.0%	0.0%	0.0%	4.0%	16.0%	4.0%	14.0%	0.0%	12.0%	2.0%	2.0%
40代	13.0%	7.2%	30.4%	5.8%	2.9%	0.0%	0.0%	13.0%	2.9%	2.9%	0.0%	18.8%	4.3%	2.9%
50代	0.0%	8.3%	33.3%	1.7%	8.3%	0.0%	0.0%	13.3%	5.0%	3.3%	1.7%	25.0%	10.0%	3.3%
60代	3.6%	10.9%	21.8%	1.8%	10.9%	0.0%	1.8%	12.7%	3.6%	14.5%	0.0%	21.8%	5.5%	3.6%
70代以上	7.7%	30.8%	23.1%	0.0%	23.1%	0.0%	7.7%	23.1%	7.7%	23.1%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%

③ PTAなど子どものための活動

PTAなど子どものための活動は、「仕事が忙しく時間がない」が23.1%と多く、次いで「地域活動に関する情報が少ない」7.8%、「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」7.5%、「人間関係がわずらわしい」5.5%、「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」4.6%と続いています。

PTAなど子どものための活動 不参加の理由(N=614)

	件数	割合
該当しない	267	43.5%
仕事が忙しく時間がない	142	23.1%
地域活動に関する情報が少ない	48	7.8%
家事・子育て・介護が忙しくて時間がない	46	7.5%
その他	40	6.5%
人間関係がわずらわしい	34	5.5%
地域で興味や関心の持てる活動が行われていない	28	4.6%
社会活動に関心がない	26	4.2%
自分の体調がすぐれない	23	3.7%
活動するための施設が近くにない	11	1.8%
経済的な負担が大きい	6	1.0%
家族の理解や協力が得られない	1	0.2%
同性の参加者が少ないため	1	0.2%
無回答	13	2.1%

性別でみると、男女ともに1位は「仕事が忙しく時間がない」で女性：20.4%、男性：27.2%、2位は女性が「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」10.8%、男性が「地域活動に関する情報が少ない」7.2%、3位は女性が「地域活動に関する情報が少ない」8.2%、男性が「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」6.0%と男女で2位と3位が異なります。

男女を比較すると、「仕事が忙しく時間がない」は男性が6.8ポイント高く、「地域活動に関する情報が少ない」は女性が1.0ポイント高く、「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」は女性が8.7ポイント高く、「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」は男性が2.3ポイント高くなっています。

年齢別では、「仕事が忙しく時間がない」の割合が高い方は、女性の20代及び40～50代で2割台、男性は30～40代で3～4割と男女とも子育て世代が多くなっています。

「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」の割合が高い方は、女性の30～40代で1割台と子育て層が多くみられます。

「地域活動に関する情報が少ない」の割合が高い方は、女性の30代で1割程度、男性は70代以上で2割程度と、女性は若い世代、男性は高齢者が多くなっています。

PTAなど子どものための活動不参加理由(構成比)

	社会活動に関心がない	地域で興味や関心の持てる活動が行われていない	仕事が忙しく時間がない	家事・子育て・介護が忙しくて時間がない	自分の体調がすぐれない	家族の理解や協力が得られない	経済的な負担が大きい	地域活動に関する情報が少ない	活動するための施設が近くにない	人間関係がわずらわしい	同性の参加者が少ないため	該当しない	その他	無回答
女性 計	4.0%	3.7%	20.4%	10.8%	4.0%	0.3%	0.8%	8.2%	1.6%	5.8%	0.3%	43.4%	7.1%	1.9%
18歳～19歳	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%
20代	5.7%	5.7%	28.6%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%	8.6%	2.9%	2.9%	0.0%	45.7%	2.9%	0.0%
30代	3.4%	3.4%	21.6%	17.0%	1.1%	0.0%	0.0%	11.4%	1.1%	2.3%	0.0%	40.9%	5.7%	1.1%
40代	2.8%	1.4%	26.8%	18.3%	2.8%	0.0%	0.0%	9.9%	0.0%	8.5%	0.0%	28.2%	9.9%	0.0%
50代	3.3%	5.0%	23.3%	1.7%	5.0%	0.0%	0.0%	6.7%	3.3%	10.0%	0.0%	55.0%	5.0%	0.0%
60代	4.2%	3.2%	11.6%	8.4%	5.3%	1.1%	2.1%	5.3%	2.1%	5.3%	1.1%	52.6%	7.4%	5.3%
70代以上	0.0%	4.5%	13.6%	4.5%	18.2%	0.0%	4.5%	4.5%	0.0%	9.1%	0.0%	40.9%	9.1%	4.5%
男性 計	4.7%	6.0%	27.2%	2.1%	3.4%	0.0%	1.3%	7.2%	2.1%	5.1%	0.0%	43.8%	5.5%	2.8%
18歳～19歳	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	62.5%	0.0%	0.0%
20代	4.2%	8.3%	29.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	4.2%	0.0%	0.0%	41.7%	8.3%	0.0%
30代	7.9%	13.2%	36.8%	10.5%	0.0%	0.0%	2.6%	10.5%	2.6%	10.5%	0.0%	28.9%	0.0%	2.6%
40代	6.5%	2.2%	43.5%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	2.2%	0.0%	30.4%	4.3%	6.5%
50代	0.0%	3.8%	25.0%	0.0%	7.7%	0.0%	1.9%	7.7%	3.8%	3.8%	0.0%	46.2%	9.6%	1.9%
60代	3.8%	3.8%	11.3%	0.0%	5.7%	0.0%	1.9%	3.8%	1.9%	7.5%	0.0%	58.5%	5.7%	1.9%
70代以上	7.1%	7.1%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%	0.0%	7.1%	0.0%	57.1%	7.1%	0.0%

④ 介護・福祉分野のボランティア活動

介護・福祉分野のボランティア活動は、「仕事が忙しく時間がない」が32.7%と多く、次いで「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」15.5%、「地域活動に関する情報が少ない」15.1%、「社会活動に関心がない」7.2%、「人間関係がわずらわしい」6.5%と続いています。

介護・福祉分野のボランティア 不参加の理由 (N=740)

	件数	割合
仕事が忙しく時間がない	242	32.7%
家事・子育て・介護が忙しくて時間がない	115	15.5%
地域活動に関する情報が少ない	112	15.1%
該当しない	93	12.6%
社会活動に関心がない	53	7.2%
人間関係がわずらわしい	48	6.5%
自分の体調がすぐれない	42	5.7%
地域で興味や関心の持てる活動が行われていない	41	5.5%
その他	34	4.6%
活動するための施設が近くにない	30	4.1%
経済的な負担が大きい	10	1.4%
同性の参加者が少ないため	2	0.3%
家族の理解や協力が得られない	1	0.1%
無回答	19	2.6%

性別で見ると、男女ともに1位は「仕事が忙しく時間がない」で女性：30.6%、男性：36.0%、2位は女性が「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」で20.7%、男性は「地域活動に関する情報が少ない」12.7%、3位は女性が「地域活動に関する情報が少ない」で16.6%、男性は「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」9.8%と、2位、3位は男女で異なります。

男女を比較すると、「仕事が忙しく時間がない」は男性が5.4ポイント高く、「地域活動に関する情報が少ない」は女性が3.9ポイント高く、「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」は女性が13.8ポイント高く、「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」は男性が4.2ポイント高くなっています。

年齢別では、「仕事が忙しく時間がない」の割合が高い方は、女性の20代及び40～50代で3割台、男性は30代で5割、40～50代で3割台と、男女ともに若い世代や中年に多くなっています。

「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」の割合が高い方は、女性の30～40代で2～3割となっています。

「地域活動に関する情報が少ない」の支持が高いのは女性で、20代程度、男性は70代以上で2割台と女性は若い世代、男性は高齢者が多くなっています。

介護・福祉分野のボランティア不参加理由(構成比)

	社会活動に関心がない	地域で興味や関心の持てる活動が行われていない	仕事が忙しく時間がない	家事・子育て・介護が忙しくて時間がない	自分の体調がすぐれない	家族の理解や協力が得られない	経済的な負担が大きい	地域活動に関する情報が少ない	活動するための施設が近くにない	人間関係がわずらわしい	同性の参加者が少ないため	該当しない	その他	無回答
女性 計	5.6%	4.7%	30.6%	20.7%	6.0%	0.2%	1.3%	16.6%	3.4%	6.0%	0.4%	11.0%	4.7%	2.8%
18歳～19歳	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
20代	11.1%	8.3%	36.1%	13.9%	0.0%	0.0%	0.0%	19.4%	5.6%	2.8%	0.0%	11.1%	2.8%	0.0%
30代	7.2%	1.8%	27.0%	30.6%	0.9%	0.0%	0.9%	15.3%	1.8%	0.9%	0.0%	14.4%	4.5%	2.7%
40代	3.2%	2.4%	33.3%	24.6%	3.2%	0.0%	0.8%	15.9%	4.0%	7.1%	0.8%	11.1%	4.0%	1.6%
50代	6.8%	9.6%	35.6%	11.0%	8.2%	0.0%	0.0%	17.8%	5.5%	8.2%	0.0%	13.7%	1.4%	2.7%
60代	4.4%	4.4%	27.5%	16.5%	14.3%	1.1%	2.2%	18.7%	3.3%	8.8%	1.1%	7.7%	7.7%	4.4%
70代以上	0.0%	9.5%	23.8%	14.3%	19.0%	0.0%	9.5%	9.5%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	4.8%	9.5%
男性 計	9.8%	6.9%	36.0%	6.9%	5.1%	0.0%	1.5%	12.7%	5.1%	7.3%	0.0%	15.3%	4.4%	2.2%
18歳～19歳	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	0.0%	0.0%
20代	13.6%	22.7%	36.4%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	4.5%	0.0%	0.0%	9.1%	4.5%	0.0%
30代	12.0%	6.0%	50.0%	12.0%	0.0%	0.0%	2.0%	10.0%	4.0%	10.0%	0.0%	12.0%	2.0%	2.0%
40代	16.2%	1.5%	38.2%	10.3%	2.9%	0.0%	0.0%	13.2%	1.5%	2.9%	0.0%	11.8%	2.9%	2.9%
50代	3.5%	5.3%	38.6%	1.8%	7.0%	0.0%	0.0%	15.8%	7.0%	5.3%	0.0%	15.8%	10.5%	3.5%
60代	5.6%	7.4%	24.1%	7.4%	11.1%	0.0%	1.9%	9.3%	5.6%	13.0%	0.0%	16.7%	1.9%	1.9%
70代以上	5.9%	17.6%	23.5%	0.0%	11.8%	0.0%	11.8%	23.5%	17.6%	17.6%	0.0%	23.5%	5.9%	0.0%

⑤ 女や男女共同参画のための活動性問題の学習

女性問題の学習や男女共同参画のための活動は、「仕事が忙しく時間がない」が27.4%と多く、次いで「地域活動に関する情報が少ない」19.7%、「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」11.4%、「社会活動に関心がない」10.2%、「地域で興味や関心の持てる活動が行われていない」7.9%と続いています。

	件数	割合
仕事が忙しく時間がない	212	27.4%
地域活動に関する情報が少ない	152	19.7%
該当しない	89	11.5%
家事・子育て・介護が忙しくて時間がない	88	11.4%
社会活動に関心がない	79	10.2%
地域で興味や関心の持てる活動が行われていない	61	7.9%
その他	46	6.0%
人間関係がわずらわしい	45	5.8%
自分の体調がすぐれない	37	4.8%
活動するための施設が近くにない	36	4.7%
経済的な負担が大きい	10	1.3%
同性の参加者が少ないため	6	0.8%
家族の理解や協力が得られない	2	0.3%
無回答	23	3.0%

性別で見ると、男女ともに1位は「仕事が忙しく時間がない」で女性：25.6%、男性：30.3% 2位は「地域活動に関する情報が少ない」で女性：21.2%、男性：17.1%、3位は男女で異なり女性が「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」15.5%、男性が「社会活動に関心がない」13.6%となっています。

男女を比較すると、「仕事が忙しく時間がない」は男性が4.7ポイント高く、「地域活動に関する情報が少ない」は女性が4.1ポイント高く、「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」は女性が11.0ポイント高く、「社会活動に関心がない」は男性が5.4ポイント高くなっています。

年齢別では、「仕事が忙しく時間がない」の割合が高い方は、女性の40～50代で3割程度、男性の30代で4割台、50代で3割台と、女性は中年、男性は若い世代や中年が多くなっています。

「地域活動に関する情報が少ない」の割合が高い方は、女性の20代で2割台、男性の70代以上で2割台と女性が若い世代、男性が高齢者に多くなっています。

「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」の割合が高い方は、女性の30代で2割台と会っています。

「社会活動に関心がない」の割合が高い方は、男性の20代と40代で2割程度となっています。

女性問題の学習や男女共同参画のための活動不参加理由(構成比)

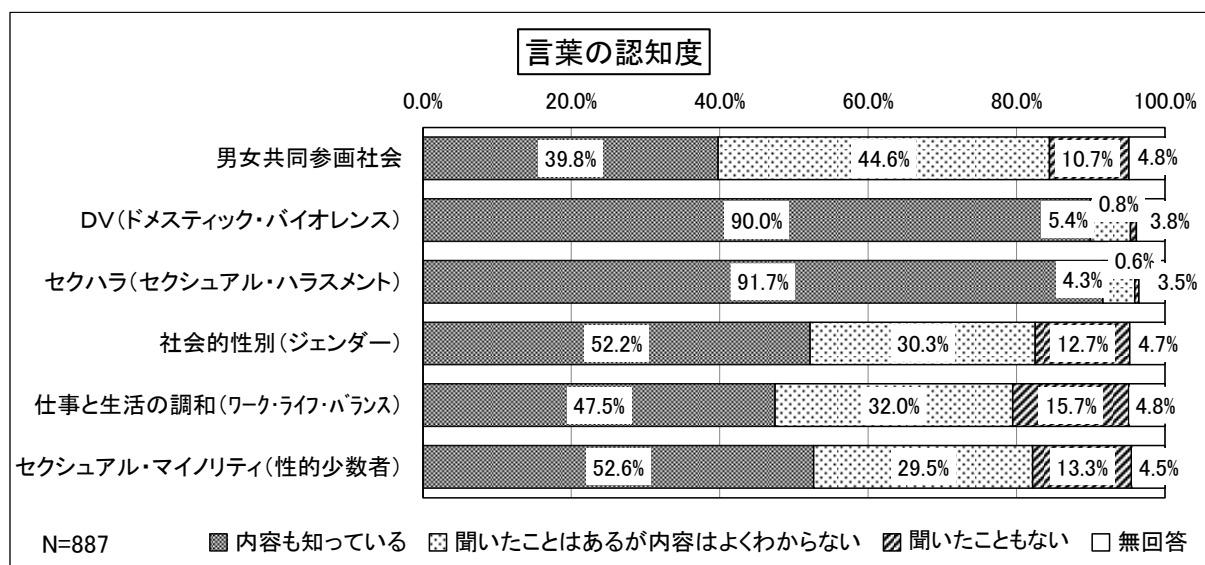
	社会活動に関心がない	地域で興味や関心の持てる活動が行われていない	仕事が忙しくて時間がない	家事・子育て・介護が忙しくて時間がない	自分の体調がすぐれない	家族の理解や協力が得られない	経済的な負担が大きい	地域活動に関する情報が少ない	活動するための施設が近くにない	人間関係がわずらわしい	同性の参加者が少ないため	該当しない	その他	無回答
女性 計	8.2%	7.2%	25.6%	15.5%	5.2%	0.2%	1.2%	21.2%	4.5%	5.6%	0.8%	9.7%	6.2%	3.1%
18歳～19歳	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	37.5%	0.0%
20代	13.5%	5.4%	27.0%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%	24.3%	8.1%	2.7%	0.0%	18.9%	2.7%	0.0%
30代	9.8%	3.6%	22.3%	26.8%	0.9%	0.0%	0.9%	21.4%	4.5%	0.9%	0.9%	10.7%	6.3%	1.8%
40代	5.5%	2.3%	29.7%	18.0%	3.9%	0.0%	0.0%	21.9%	5.5%	7.0%	0.8%	8.6%	6.3%	1.6%
50代	8.9%	15.2%	30.4%	6.3%	5.1%	0.0%	0.0%	19.0%	3.8%	7.6%	0.0%	12.7%	3.8%	6.3%
60代	9.1%	11.1%	24.2%	12.1%	11.1%	1.0%	4.0%	21.2%	3.0%	8.1%	1.0%	5.1%	7.1%	4.0%
70代以上	0.0%	9.1%	9.1%	9.1%	18.2%	0.0%	4.5%	22.7%	4.5%	9.1%	4.5%	4.5%	4.5%	9.1%
男性 計	13.6%	9.1%	30.3%	4.5%	4.2%	0.3%	1.4%	17.1%	4.9%	6.3%	0.7%	14.6%	5.6%	2.8%
18歳～19歳	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
20代	20.8%	12.5%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.8%	8.3%	0.0%	0.0%	4.2%	4.2%	0.0%
30代	16.3%	6.1%	46.9%	12.2%	0.0%	0.0%	4.1%	16.3%	4.1%	10.2%	0.0%	8.2%	4.1%	2.0%
40代	21.7%	4.3%	29.0%	4.3%	2.9%	0.0%	0.0%	20.3%	1.4%	1.4%	0.0%	11.6%	4.3%	2.9%
50代	4.8%	9.7%	37.1%	0.0%	6.5%	1.6%	0.0%	21.0%	4.8%	4.8%	1.6%	16.1%	6.5%	3.2%
60代	8.6%	12.1%	15.5%	5.2%	6.9%	0.0%	1.7%	8.6%	6.9%	10.3%	1.7%	17.2%	8.6%	3.4%
70代以上	5.9%	23.5%	17.6%	5.9%	11.8%	0.0%	5.9%	23.5%	5.9%	17.6%	0.0%	29.4%	5.9%	5.9%

問 18 言葉の認知度

以下の言葉について、最も理解されているものがDVとセクハラで、「内容も知っている」と答えた方が「DV(ドメスティック・バイオレンス)」90.0%、「セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)」91.7%となっています。

「内容も知っている」や「聞いたことはあるが内容はよくわからない」を合わせると全ての項目が約8割以上となります。

「聞いたこともない」では、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」15.7%、「セクシュアル・マイノリティ(性的少数派)」13.3%、「社会的性別(ジェンダー)」12.7%、「男女共同参画社会」10.7%となっています。



① 男女共同参画社会

性別でみると、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は女性：48.2%、男性：39.4%と女性が8.8ポイント高く、「内容も知っている」は女性：35.1%、男性：47.2%と男性が12.1ポイント高く、「聞いたこともない」は女性：12.4%、男性：8.2%と女性が4.2ポイント高くなっています。

女性は「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が多く、男性は「内容も知っている」が多くなっています。

年齢別では、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」の割合が高い方は、女性の40～50代で5割台、男性は20～30代で4割台と、女性は中年、男性は若い世代が多くなっています。

「内容も知っている」の割合が高い方は、女性の20代と70代以上で4割台、男性は40代と70代以上で5～6割、女性は若い世代と高齢者、男性は中高年が多くなっています。

男女共同参画社会

	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない	無回答
女性 計	35.1%	48.2%	12.4%	4.4%
18歳～19歳	62.5%	25.0%	12.5%	0.0%
20代	42.1%	47.4%	10.5%	0.0%
30代	31.4%	49.2%	19.5%	0.0%
40代	29.4%	55.9%	12.5%	2.2%
50代	36.0%	52.8%	9.0%	2.2%
60代	38.7%	42.0%	10.1%	9.2%
70代以上	41.2%	29.4%	5.9%	23.5%
男性 計	47.2%	39.4%	8.2%	5.2%
18歳～19歳	66.7%	11.1%	11.1%	11.1%
20代	50.0%	46.2%	3.8%	0.0%
30代	38.5%	48.1%	11.5%	1.9%
40代	53.2%	37.7%	9.1%	0.0%
50代	47.8%	42.0%	8.7%	1.4%
60代	39.3%	39.3%	6.0%	15.5%
70代以上	61.5%	23.1%	7.7%	7.7%

② DV（ドメスティック・バイオレンス）

性別で見ると、男女ともに「内容も知っている」が多く女性：91.9%、男性：87.2%と女性が4.7ポイント高く、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は女性：4.2%、男性：7.3%と男性が3.1ポイント高く、「聞いたこともない」は女性：0.7%、男性：0.9%となっています。

男女ともに「内容も知っている」が大半を占めています。

年齢別では、「内容も知っている」は、男女とも60代以上で割合が低下します。

DV(ドメスティック・バイオレンス)

	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない	無回答
女性 計	91.9%	4.2%	0.7%	3.1%
18歳～19歳	87.5%	0.0%	12.5%	0.0%
20代	89.5%	7.9%	2.6%	0.0%
30代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40代	96.3%	2.9%	0.0%	0.7%
50代	96.6%	2.2%	0.0%	1.1%
60代	82.4%	10.9%	0.0%	6.7%
70代以上	70.6%	2.9%	5.9%	20.6%
男性 計	87.2%	7.3%	0.9%	4.7%
18歳～19歳	88.9%	0.0%	0.0%	11.1%
20代	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%
30代	92.3%	5.8%	0.0%	1.9%
40代	97.4%	1.3%	1.3%	0.0%
50代	91.3%	7.2%	0.0%	1.4%
60代	73.8%	10.7%	1.2%	14.3%
70代以上	73.1%	19.2%	3.8%	3.8%

③ セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）

性別で見ると、男女ともに「内容も知っている」が多く女性：93.0%、男性：90.1%と女性が2.9ポイント高く、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は女性：3.3%、男性：5.8%と男性が2.5ポイント高く、「聞いたこともない」は女性：0.7%、男性：0.3%となっています。

男女ともに「内容も知っている」が大半を占めています。

年齢別では、「内容も知っている」は、男女とも60代以上で割合が低下します。

セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)

	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない	無回答
女性 計	93.0%	3.3%	0.7%	3.0%
18歳～19歳	87.5%	0.0%	12.5%	0.0%
20代	92.1%	5.3%	2.6%	0.0%
30代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40代	97.1%	2.2%	0.0%	0.7%
50代	96.6%	2.2%	1.1%	0.0%
60代	84.9%	7.6%	0.0%	7.6%
70代以上	73.5%	5.9%	2.9%	17.6%
男性 計	90.1%	5.8%	0.3%	3.8%
18歳～19歳	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%
30代	92.3%	5.8%	0.0%	1.9%
40代	97.4%	2.6%	0.0%	0.0%
50代	91.3%	7.2%	0.0%	1.4%
60代	82.1%	6.0%	0.0%	11.9%
70代以上	80.8%	11.5%	3.8%	3.8%

④ 社会的性別（ジェンダー）

性別でみると、男女ともに「内容も知っている」が多く女性：54.6%、男性：48.4%と女性が6.2ポイント高く、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は女性：30.1%、男性：30.9%と男性が0.8ポイント高く、「聞いたこともない」は女性：11.3%、男性：15.2%と男性が3.9ポイント高くなっています。

男女とも「内容も知っている」が多く、女性の割合が高くなっています。

年齢別では、「内容も知っている」の割合が高い方は、女性の20～40代で6割台、男性は20～40代で5割台と、男女ともに比較的若い世代が高くなっています。

社会的性別（ジェンダー）

	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない	無回答
女性 計	54.6%	30.1%	11.3%	4.1%
18歳～19歳	62.5%	25.0%	12.5%	0.0%
20代	60.5%	34.2%	5.3%	0.0%
30代	67.8%	28.0%	4.2%	0.0%
40代	61.0%	27.2%	10.3%	1.5%
50代	50.6%	29.2%	18.0%	2.2%
60代	37.8%	37.8%	16.8%	7.6%
70代以上	44.1%	20.6%	8.8%	26.5%
男性 計	48.4%	30.9%	15.2%	5.5%
18歳～19歳	66.7%	22.2%	0.0%	11.1%
20代	57.7%	26.9%	15.4%	0.0%
30代	53.8%	36.5%	5.8%	3.8%
40代	57.1%	33.8%	9.1%	0.0%
50代	50.7%	24.6%	23.2%	1.4%
60代	33.3%	28.6%	22.6%	15.5%
70代以上	38.5%	42.3%	11.5%	7.7%

⑤ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

性別でみると、男女ともに「内容も知っている」が多く女性：49.1%、男性：45.2%と女性が3.9ポイント高く、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は女性：31.0%、男性：33.8%と男性が2.8ポイント高く、「聞いたこともない」は女性：15.7%、男性：15.5%と女性が0.2ポイント高くなっています。

男女ともに「内容も知っている」が多く、女性の割合が高くなっています。

年齢別では、「内容も知っている」の割合が高い方は、女性の30代と50代で6割程、男性は20代で6割程度、50代で5割台と、男女ともに若い世代と中年が多くなっています。

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない	無回答
女性 計	49.1%	31.0%	15.7%	4.2%
18歳～19歳	37.5%	25.0%	25.0%	12.5%
20代	42.1%	31.6%	26.3%	0.0%
30代	61.9%	26.3%	11.9%	0.0%
40代	50.7%	28.7%	19.1%	1.5%
50代	58.4%	25.8%	12.4%	3.4%
60代	35.3%	42.9%	15.1%	6.7%
70代以上	32.4%	29.4%	11.8%	26.5%
男性 計	45.2%	33.8%	15.5%	5.5%
18歳～19歳	44.4%	33.3%	11.1%	11.1%
20代	61.5%	19.2%	19.2%	0.0%
30代	51.9%	30.8%	15.4%	1.9%
40代	49.4%	31.2%	19.5%	0.0%
50代	55.1%	37.7%	5.8%	1.4%
60代	29.8%	32.1%	22.6%	15.5%
70代以上	26.9%	57.7%	3.8%	11.5%

⑥ セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）

性別で見ると、男女ともに「内容も知っている」が多く女性：56.3%、男性：46.9%と女性が9.4ポイント高く、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は女性：26.9%、男性：33.8%と男性が6.9ポイント高く、「聞いたこともない」は女性：12.5%、男性：14.6%と男性が2.1ポイント高くなっています。

男女ともに「内容も知っている」が多く、女性の割合が高くなっています。

年齢別では、「内容も知っている」の割合が高い方は、女性の30～50代で6割台、男性の30代で6割台、40～50代で5割台と、男女とも若い世代から中年が高くなっています。

セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)

	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない	無回答
女性 計	56.3%	26.9%	12.5%	4.2%
18歳～19歳	37.5%	25.0%	37.5%	0.0%
20代	55.3%	28.9%	15.8%	0.0%
30代	63.6%	24.6%	11.9%	0.0%
40代	62.5%	24.3%	11.8%	1.5%
50代	66.3%	20.2%	11.2%	2.2%
60代	39.5%	38.7%	13.4%	8.4%
70代以上	44.1%	20.6%	8.8%	26.5%
男性 計	46.9%	33.8%	14.6%	4.7%
18歳～19歳	44.4%	22.2%	22.2%	11.1%
20代	30.8%	53.8%	15.4%	0.0%
30代	63.5%	26.9%	7.7%	1.9%
40代	55.8%	32.5%	11.7%	0.0%
50代	53.6%	33.3%	11.6%	1.4%
60代	31.0%	34.5%	20.2%	14.3%
70代以上	38.5%	34.6%	23.1%	3.8%

〈前回市調査との比較〉

以下の言葉の内容も知っていると答えた方について、前回調査と比較すると全体的に理解が進んでいるものと思われます。

なかでも「社会的性別（ジェンダー）」は前回は20.1ポイント上回るなど急増していますが、割合は5割程度と他の9割に比べまだ低い状況にあります。

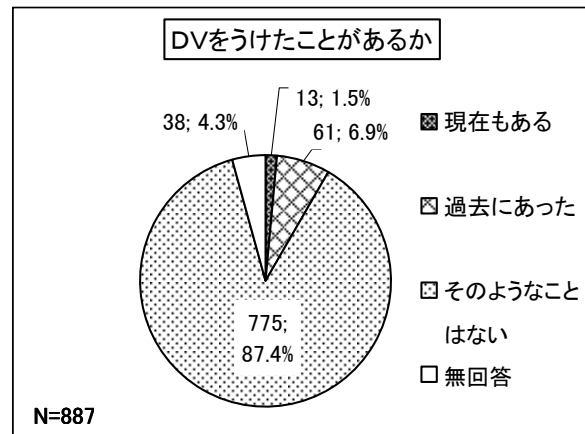
問18 次の言葉を知っていますか。(それぞれ○を1つ)

内容も知っている

	市(H21)	市(H29)	H29-H21
男女共同参画社会		39.8%	
DV(ドメスティック・バイオレンス)	87.2%	90.0%	2.8
セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)	92.4%	91.7%	-0.7
社会的性別(ジェンダー)	32.1%	52.2%	20.1
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)		47.5%	
セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)		52.6%	

問 19 親しい関係にある人から DV をうけたことがあるか

配偶者や恋人などからのDVについては、「そのようなことはない」が87.4%と大半を占めますが、「過去にあった」6.9%、「現在もある」1.5%を合わせると8.4%と方がDVを経験しています。



性別でみる、男女ともに「そのようなことはない」が多く女性：82.8%、男性：94.8%と男性が12.0ポイント高く、次いで「過去にあった」は女性：10.9%、男性：0.6%と女性が10.3ポイント高く、「現在もある」は女性：2.4%、男性：0%となっています。

男女ともに「そのようなことはない」が大半を占めますが、女性は「過去にあった」や「現在もある」を合すると13.3%と、男性（0.6%）の約22倍となっています。

年齢別では、「過去にあった」の割合が高い方は、女性の40代～60代となっています。「現在もある」の割合が高い方は、女性の20代、50代となっています。

DVを受けたことがあるか

	現在もある	過去にあった	そのようなことはない	無回答
女性 計	2.4%	10.9%	82.8%	3.9%
18歳～19歳	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
20代	5.3%	5.3%	89.5%	0.0%
30代	2.5%	9.3%	85.6%	2.5%
40代	2.2%	15.4%	80.1%	2.2%
50代	3.4%	10.1%	83.1%	3.4%
60代	1.7%	11.8%	78.2%	8.4%
70代以上	0.0%	5.9%	88.2%	5.9%
男性 計	0.0%	0.6%	94.8%	4.7%
18歳～19歳	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
20代	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
30代	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
40代	0.0%	0.0%	98.7%	1.3%
50代	0.0%	2.9%	94.2%	2.9%
60代	0.0%	0.0%	84.5%	15.5%
70代以上	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

〈前回市調査との比較〉

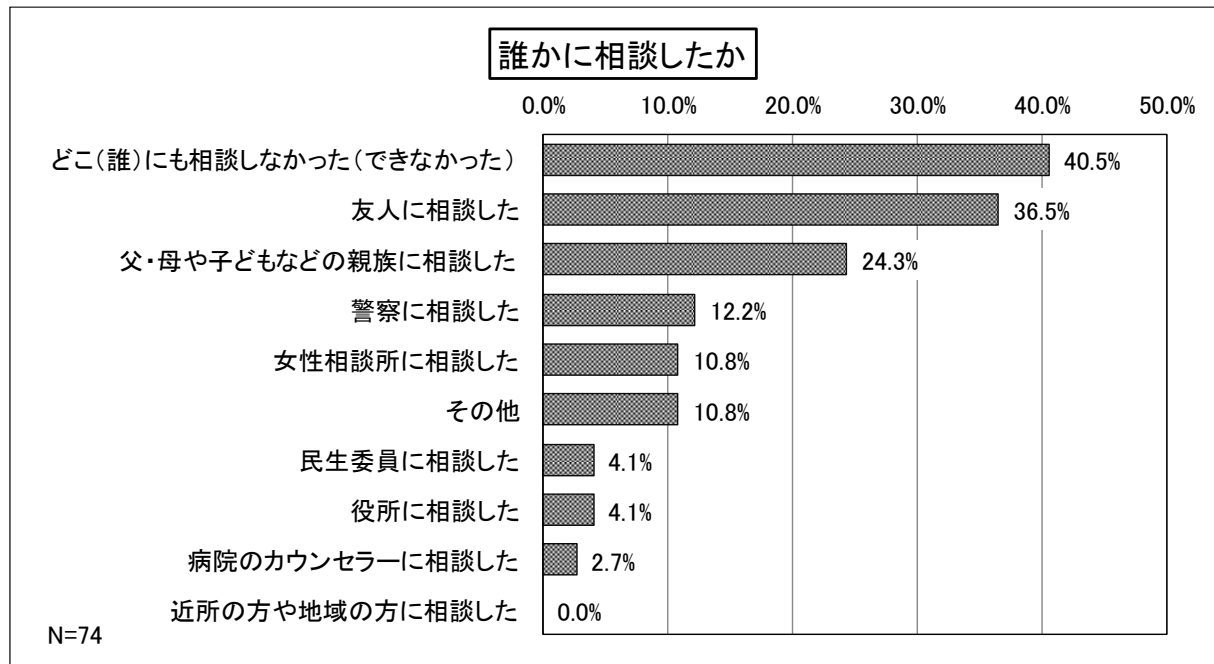
親しい人からDVを受けたことがあるかについて、前回調査と比較すると「現在もある」や「過去にあった」が減少しており、合わせて1.4ポイントの減となっています。

問19 あなたは、配偶者や恋人など親しい関係にある人から、DV(殴る蹴るなどの身体的暴力、どなる、脅すなどの精神的暴力、性的行為の強要などの性的暴力、お金を取り上げるなどの経済的暴力)を受けたことがありますか。(○は1つ)

	市(H21)	市(H29)	H29-H21
現在もある	1.8%	1.5%	-0.3
過去にあった	7.9%	6.9%	-1.1
そのようなことはない	84.8%	87.4%	2.6
無回答	5.5%	4.3%	-1.2
	100.0%	100.0%	

問 20 DVを受けたことを誰かに相談したか（複数回答）

配偶者や恋人などからのDVについて誰かに相談したかについては、「どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）」が40.5%と多く、次いで「友人に相談した」36.5%、「父・母や子どもなどの親族に相談した」24.3%、「警察に相談した」12.2%、「女性相談所に相談した」10.8%、「民生委員に相談した」4.1%、「役所に相談した」4.1%、「病院のカウンセラーに相談した」2.7%となっています。



性別でみると女性は、「どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）」が41.7%と多く、次いで「友人に相談した」37.5%、「父・母や子どもなどの親族に相談した」23.6%、「警察に相談した」12.5%、「女性相談所に相談した」11.1%と続いています。

年齢別では、「どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）」の割合が高い方は、女性の60代（68.8%）、70代以上（50.0%）と高齢者が多くなっています。

「友人に相談した」の割合が高い方は、女性の20代（100.0%）、40代（45.8%）、30代（42.9%）と、比較的若い世代が多くなっています。

「父・母や子どもなどの親族に相談した」の割合が高い方は、女性の30代（42.9%）と若い世代が多くなっています。

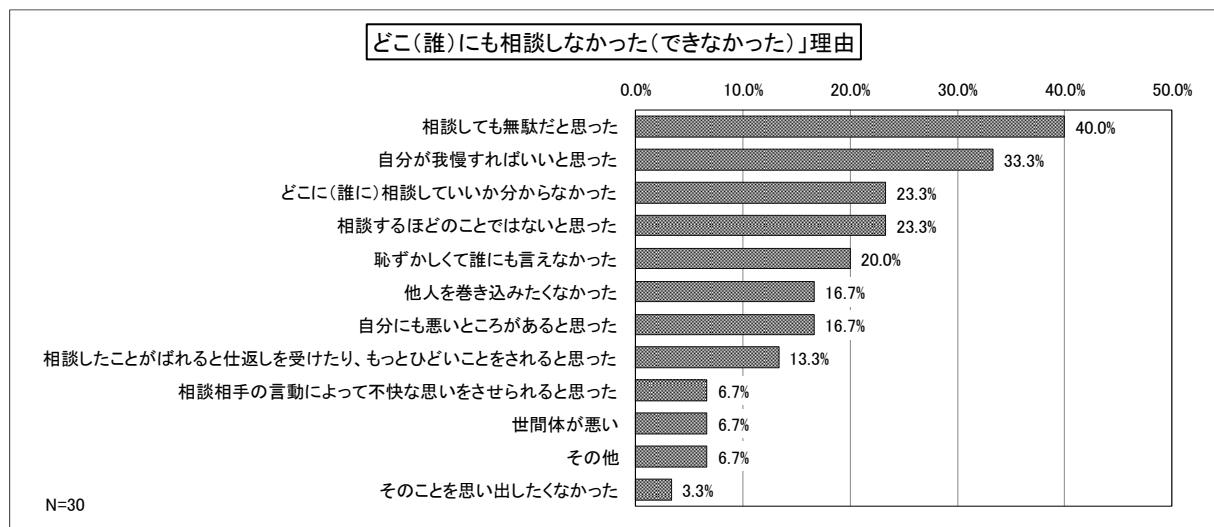
※男性は標本数が少ないため分析を行わなかった。

誰かに相談したか（構成比）

	警察に相談した	女性相談所に相談した	民生委員に相談した	父・母や子どもなどの親族に相談した	友人に相談した	役所に相談した	近所の方や地域の方に相談した	病院のカウンセラーに相談した	どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）	その他
女性 計	12.5%	11.1%	4.2%	23.6%	37.5%	2.8%	0.0%	2.8%	41.7%	11.1%
18歳～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20代	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	28.6%	14.3%	14.3%	42.9%	42.9%	7.1%	0.0%	7.1%	28.6%	14.3%
40代	12.5%	8.3%	4.2%	16.7%	45.8%	4.2%	0.0%	0.0%	37.5%	12.5%
50代	8.3%	8.3%	0.0%	25.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	41.7%	16.7%
60代	6.3%	12.5%	0.0%	18.8%	12.5%	0.0%	0.0%	6.3%	68.8%	6.3%
70代以上	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
男性 計	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18歳～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50代	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
60代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70代以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問 21 DV を相談できなかった理由（複数回答）

配偶者や恋人などからのDVについてどこにも相談しなかった理由は、「相談しても無駄だと思った」が40.0%と多く、次いで「自分が我慢すればいいと思った」33.3%、「どこに（誰に）相談していいか分からなかった」23.3%、「相談するほどのことではないと思った」23.3%、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」20.0%、「他人を巻き込みたくなかった」16.7%、「自分にも悪いところがあると思った」16.7%、「相談したことがばれると仕返しを受けたり、もっとひどいことをされると思った」13.3%、「相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った」6.7%、「世間体が悪い」6.7%となっています。



性別でみると女性は、「相談しても無駄だと思った」が40.0%と多く、次いで「自分が我慢すればいいと思った」33.3%、「どこに（誰に）相談していいか分からなかった」と「相談するほどのことではないと思った」が同率の23.3%、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」20.0%と続いています。

※年齢別は標本数が少ないため分析を行わなかった。

どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）理由（構成比）

	どこに（誰に）相談していいか分からなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談しても無駄だと思った	相談したことがばれると仕返しを受けたり、もっとひどいことをされると思った	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	自分が我慢すればいいと思った	世間体が悪い	他人を巻き込みたくなかった	そのことを思い出したくなかった	自分にも悪いところがあると思った	相談するほどのことではないと思った	その他
女性 計	23.3%	20.0%	40.0%	13.3%	6.7%	33.3%	6.7%	16.7%	3.3%	16.7%	23.3%	6.7%
18歳～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30代	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%
40代	33.3%	22.2%	33.3%	0.0%	11.1%	55.6%	11.1%	11.1%	11.1%	22.2%	11.1%	11.1%
50代	20.0%	40.0%	60.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%
60代	18.2%	18.2%	27.3%	18.2%	0.0%	27.3%	0.0%	27.3%	0.0%	18.2%	27.3%	0.0%
70代以上	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男性 計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18歳～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70代以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

どこ(誰)にも相談しなかった(できなかった)理由(件数)

	どこに(誰に)相談していいか分からなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談しても無駄だと思った	相談したことがばれると仕返しを受けたり、もっとひどいことをされると思った	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	自分が我慢すればいいと思った	世間体が悪い	他人を巻き込みたくなかった	そのことを思い出したくなかった	自分にも悪いところがあると思った	相談するほどのことではないと思った	その他
女性 計	7	6	12	4	2	10	2	5	1	5	7	2
18歳～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30代	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0
40代	3	2	3	0	1	5	1	1	1	2	1	1
50代	1	2	3	1	1	1	0	1	0	0	2	1
60代	2	2	3	2	0	3	0	3	0	2	3	0
70代以上	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0
男性 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18歳～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70代以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

〈県調査との比較〉

DVを受けた方が相談できなかった理由について県調査と比較すると、市調査1位の「相談しても無駄だと思った(40.0%)」が、県調査では5位(14.8%)、県調査2位の「自分にも悪いところがあると思った(30.1%)」が、市調査の6位(16.7%)、また県調査の1位「相談するほどのことではないと思った(県:57.2%)」は市調査でも3位(23.3%)となっています。

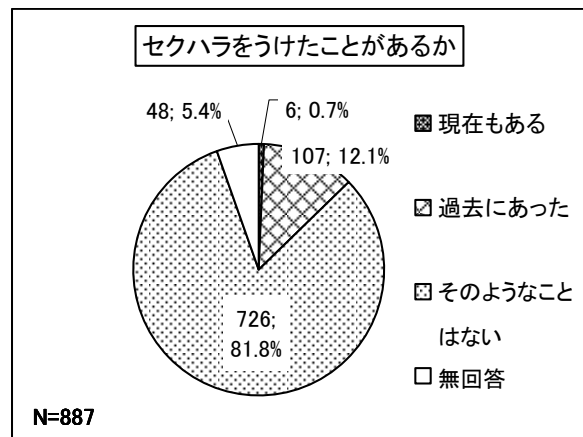
このように市と県では相談しない理由が異なり、市調査は“相談しても無駄や自分が我慢すればいい”、県調査は“相談するほどでもないや自分にも悪いとはある”となっています。

問21 問20で「9. どこ(誰)にも相談しなかった(できなかった)」と答えた方にお聞きます。それはなぜですか。(〇はいくつでも)

	市(H29)	県(H28)	市-県
どこに(誰に)相談していいか分からなかった	23.3%	8.9%	14.4
恥ずかしくて誰にも言えなかった	20.0%	18.2%	1.8
相談しても無駄だと思った	40.0%	14.8%	25.2
相談したことがばれると仕返しを受けたり、もっとひどいことをされると思った	13.3%	1.8%	11.5
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	6.7%	3.2%	3.5
自分が我慢すればいいと思った	33.3%	25.5%	7.8
世間体が悪い	6.7%	6.4%	0.3
他人を巻き込みたくなかった	16.7%	11.4%	5.3
そのことを思い出したくなかった	3.3%	5.5%	-2.2
自分にも悪いところがあると思った	16.7%	30.1%	-13.4
相談するほどのことではないと思った	23.3%	57.2%	-33.9
その他	6.7%	5.2%	1.5

問 22 セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）を受けたことがあるか

セクハラを受けたことがあるかについては、「そのようなことはない」が81.8%と大半を占めますが、「過去にあった」12.1%、「現在もある」0.7%と12.8%の方がセクハラを経験しています。



性別でみると、男女ともに「そのようなことはない」が多く女性：74.7%、男性93.6%と男性が18.9ポイント高く、次いで「過去にあった」は女性：18.8%、男性：1.5%と女性が17.3ポイント高く、「現在もある」は女性1.1%、男性：0.0%となっています。

男女ともに「そのようなことはない」が大半を占めますが、女性は「過去にあった」や「現在もある」を合すると19.9%と、男性（1.5%）の13.2倍となっています。

年齢別では、「過去にあった」の割合が高い方は、女性の30代（33.9%）、40代（23.5%）で、「現在もある」の割合が高い方は、女性の20代（2.6%）、50代（2.2%）となっています。

セクハラを受けたことがあるか

	現在もある	過去にあった	そのようなことはない	無回答
女性 計	1.1%	18.8%	74.7%	5.4%
18歳～19歳	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
20代	2.6%	13.2%	81.6%	2.6%
30代	0.8%	33.9%	62.7%	2.5%
40代	1.5%	23.5%	72.1%	2.9%
50代	2.2%	18.0%	76.4%	3.4%
60代	0.0%	6.7%	81.5%	11.8%
70代以上	0.0%	2.9%	85.3%	11.8%
男性 計	0.0%	1.5%	93.6%	5.0%
18歳～19歳	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
20代	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
30代	0.0%	5.8%	92.3%	1.9%
40代	0.0%	0.0%	98.7%	1.3%
50代	0.0%	1.4%	94.2%	4.3%
60代	0.0%	1.2%	84.5%	14.3%
70代以上	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

〈前回市調査との比較〉

セクハラを受けたことがあるかについて、前回調査と比較すると女性は「現在もある」や「過去にあった」が増加しており、合わせて5.3ポイントの増と女性のセクハラは僅かながら増加しています。

男性は「現在もある」は0.2ポイント減、「過去にあった」は0.2ポイント増、「そのようなことはない」は3.1ポイント増と、男性のセクハラは割合も少なく前回とあまり変わりません。

問22 セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)を受けたことがありますか。(○は1つ)

女性

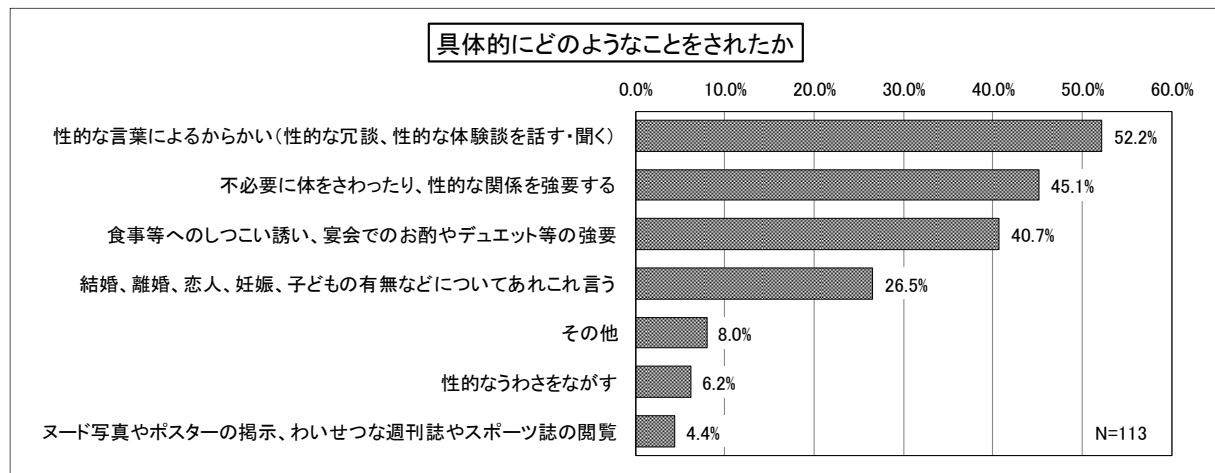
	市(H21)	市(H29)	H29-H21
現在もある	0.7%	1.1%	0.5
過去にあった	14.0%	18.8%	4.8
そのようなことはない	78.0%	74.7%	-3.3
無回答	7.3%	5.4%	-2.0
	100.0%	100.0%	

男性

	市(H21)	市(H29)	H29-H21
現在もある	0.2%	0.0%	-0.2
過去にあった	1.2%	1.5%	0.2
そのようなことはない	90.5%	93.6%	3.1
無回答	8.0%	5.0%	-3.0
	100.0%	100.0%	

問 23 どのようなセクハラを経験したか（複数回答）

セクハラの内容は、「性的な言葉によるからかい（性的な冗談、性的な体験談を話す・聞く）」が 52.2%と多く、次いで「不必要に体をさわったり、性的な関係を強要する」45.1%、「食事等へのしつこい誘い、宴会でのお酌やデュエット等の強要」40.7%、「結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無などについてあれこれ言う」26.5%、「性的なうわさをながす」6.2%、「ヌード写真やポスターの掲示、わいせつな週刊誌やスポーツ誌の閲覧」4.4%となっています。



性別でみると女性は、「性的な言葉によるからかい（性的な冗談、性的な体験談を話す・聞く）」が 51.9%と多く、次いで「不必要に体をさわったり、性的な関係を強要する」46.3%、「食事等へのしつこい誘い、宴会でのお酌やデュエット等の強要」41.7%と続いています。

年齢別では、「性的な言葉によるからかい（性的な冗談、性的な体験談を話す・聞く）」の割合が高い方は、女性の 20代と 60代で同じ 66.7%と若い世代と高齢者に多くなっています。

「不必要に体をさわったり、性的な関係を強要する」の割合が高い方は、女性の 50代 (61.1%)、40代 (52.9%) と中年に多くなっています。

「食事等へのしつこい誘い、宴会でのお酌やデュエット等の強要」の割合が高い方は、女性の 20代 (50.0%) と若い世代に多くなっています。

※男性は標本数が少ないため分析を行わなかった。

具体的にどのようなことをされたか(構成比)

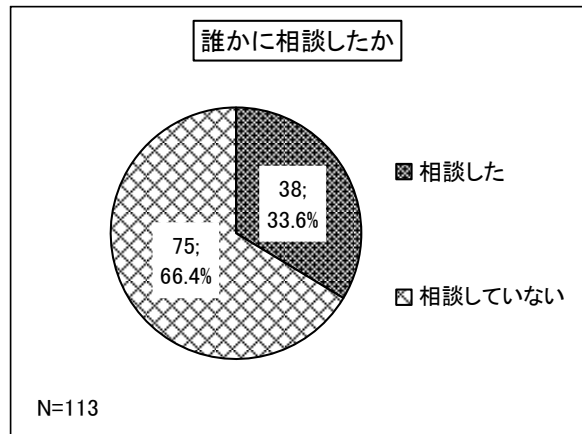
	性的な言葉によるからかい(性的な冗談、性的な体験談を話す・聞く)	食事等へのしつこい誘い、宴会でのお酌やデュエット等の強要	ヌード写真やポスターの掲示、わいせつな週刊誌やスポーツ誌の閲覧	不必要に体をさわったり、性的な関係を強要する	性的なうわさをながす	結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無などについてあれこれ言う	その他
女性 計	51.9%	41.7%	4.6%	46.3%	5.6%	27.8%	7.4%
18歳～19歳	-	-	-	-	-	-	-
20代	66.7%	50.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	16.7%
30代	34.1%	41.5%	0.0%	43.9%	2.4%	26.8%	7.3%
40代	61.8%	41.2%	2.9%	52.9%	2.9%	35.3%	5.9%
50代	66.7%	44.4%	16.7%	61.1%	16.7%	27.8%	5.6%
60代	50.0%	37.5%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%
70代以上	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男性 計	60.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%
18歳～19歳	-	-	-	-	-	-	-
20代	-	-	-	-	-	-	-
30代	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
40代	-	-	-	-	-	-	-
50代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
60代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
70代以上	-	-	-	-	-	-	-

具体的にどのようなことをされたか(件数)

	性的な言葉によるからかい(性的な冗談、性的な体験談を話す・聞く)	食事等へのしつこい誘い、宴会でのお酌やデュエット等の強要	ヌード写真やポスターの掲示、わいせつな週刊誌やスポーツ誌の閲覧	不必要に体をさわったり、性的な関係を強要する	性的なうわさをながす	結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無などについてあれこれ言う	その他
女性 計	56	45	5	50	6	30	8
18歳～19歳	0	0	0	0	0	0	0
20代	4	3	0	2	0	2	1
30代	14	17	0	18	1	11	3
40代	21	14	1	18	1	12	2
50代	12	8	3	11	3	5	1
60代	4	3	1	1	1	0	1
70代以上	1	0	0	0	0	0	0
男性 計	3	1	0	1	1	0	1
18歳～19歳	0	0	0	0	0	0	0
20代	0	0	0	0	0	0	0
30代	2	1	0	1	1	0	0
40代	0	0	0	0	0	0	0
50代	1	0	0	0	0	0	0
60代	0	0	0	0	0	0	1
70代以上	0	0	0	0	0	0	0

問 24 セクハラを誰かに相談したか

セクハラ相談については、「相談していない」が66.4%、「相談した」が33.6%と相談をしていない方が多くみられます。



性別でみると女性は、「相談していない」が64.8、「相談した」35.2%となっています。

年齢別では、「相談していない」の割合が高い方は、女性の70代以上（100.0%）、60代（87.5%）、30代（75.6%）と若い世代と高齢者が多くなっています。

「相談した」の割合が高い方は、女性の20代（66.7%）、40代（52.9%）、50代（27.8%）と若世代と中年が多くなっています。

※男性は標本数が少ないため分析を行わなかった。

誰かに相談したか

	相談した	相談していない
女性 計	35.2%	64.8%
18歳～19歳	-	-
20代	66.7%	33.3%
30代	24.4%	75.6%
40代	52.9%	47.1%
50代	27.8%	72.2%
60代	12.5%	87.5%
70代以上	0.0%	100.0%
男性 計	0.0%	100.0%
18歳～19歳	-	-
20代	-	-
30代	0.0%	100.0%
40代	-	-
50代	0.0%	100.0%
60代	0.0%	100.0%
70代以上	-	-

〈県調査との比較〉

セクハラ被害について相談したかについて県調査と比較をすると、市は県より「相談した」方の割合が多いことが分かります。

※男性はセクハラ被害を受けた方が少なく県調査との比較を行っていません。

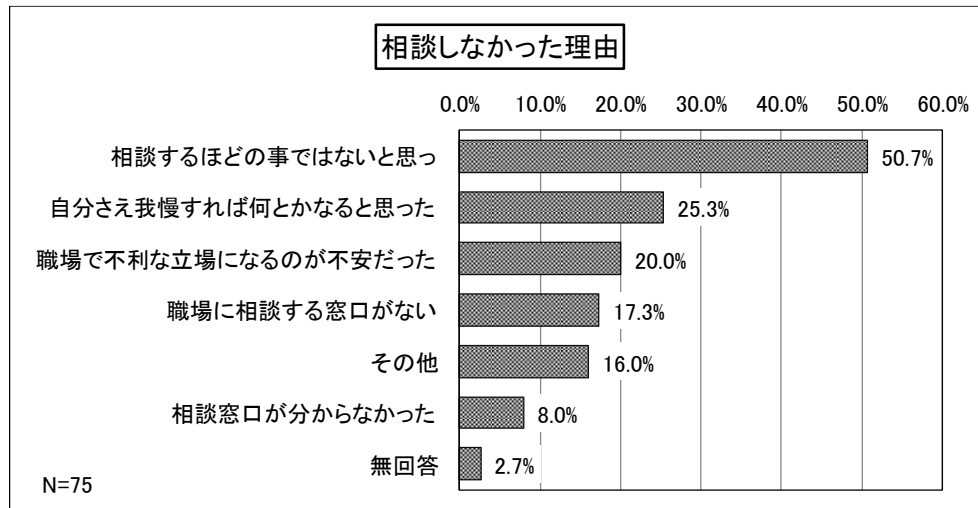
問24 問22で「1.現在もある」又は「2.過去にあった」と答えた方にお聞きします。そのことを誰かに相談しましたか。(○は1つ)

女性

	市(H29)	県(H28)	市-県
相談した	35.2%	21.1%	14.1
相談していない	64.8%	68.5%	-3.7
無回答		10.4%	-10.4
	100.0%	100.0%	

問 25 セクハラを相談しなかった理由

セクハラについて相談していない理由は、「相談するほどの事ではないと思った」が50.7%と突出して多く、次いで「自分さえ我慢すれば何とかかなと思った」25.3%、「職場で不利な立場になるのが不安だった」20.0%、「職場に相談する窓口がない」17.3%、「相談窓口が分からなかった」8.0%となっています。



性別でみると女性は、「相談するほどの事ではないと思った」が48.6%と多く、次いで「自分さえ我慢すれば何とかかなと思った」25.7%、「職場に相談する窓口がない」と「職場で不利な立場になるのが不安だった」が同率の18.6%と続いています。

※年齢別は標本数が少ないため分析を行わなかった。

相談しなかった理由(構成比)

	職場に相談する窓口がない	相談窓口が分からなかった	職場で不利な立場になるのが不安だった	自分さえ我慢すれば何とかかなと思った	相談するほどの事ではないと思った	その他	無回答
女性 計	18.6%	7.1%	18.6%	25.7%	48.6%	14.3%	2.9%
18歳～19歳	-	-	-	-	-	-	-
20代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
30代	12.9%	6.5%	19.4%	32.3%	54.8%	12.9%	0.0%
40代	12.5%	6.3%	18.8%	25.0%	43.8%	6.3%	12.5%
50代	46.2%	7.7%	30.8%	15.4%	23.1%	30.8%	0.0%
60代	0.0%	14.3%	0.0%	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%
70代以上	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
男性 計	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	80.0%	40.0%	0.0%
18歳～19歳	-	-	-	-	-	-	-
20代	-	-	-	-	-	-	-
30代	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%	33.3%	0.0%
40代	-	-	-	-	-	-	-
50代	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
60代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
70代以上	-	-	-	-	-	-	-

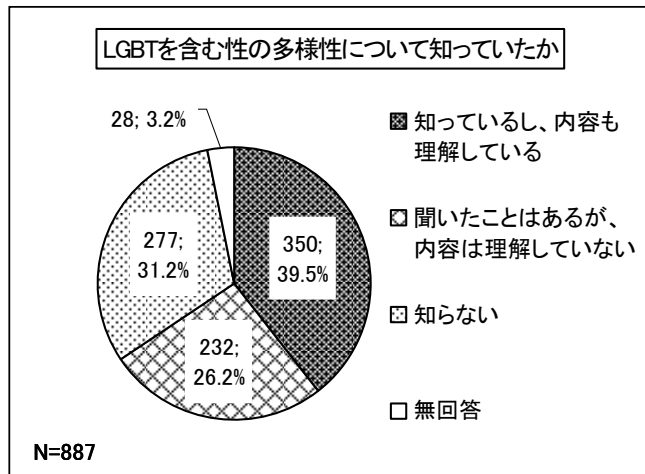
相談しなかった理由(件数)

	職場に相談する窓口がない	相談窓口が分からなかった	職場で不利な立場になるのが不安だった	自分さえ我慢すれば何とかなると思った	相談するほどの事ではないと思った	その他	無回答
女性 計	13	5	13	18	34	10	2
18歳～19歳	0	0	0	0	0	0	0
20代	0	0	0	0	2	0	0
30代	4	2	6	10	17	4	0
40代	2	1	3	4	7	1	2
50代	6	1	4	2	3	4	0
60代	0	1	0	2	4	1	0
70代以上	1	0	0	0	1	0	0
男性 計	0	0	1	1	4	2	0
18歳～19歳	0	0	0	0	0	0	0
20代	0	0	0	0	0	0	0
30代	0	0	0	1	3	1	0
40代	0	0	0	0	0	0	0
50代	0	0	1	0	1	0	0
60代	0	0	0	0	0	1	0
70代以上	0	0	0	0	0	0	0

問 26 LGBT を含む性の多様性について知っていたか

LGBTの認知度は、「知っているし、内容も理解している」が39.5%と多く、次いで「知らない」31.2%、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」26.2%となっています。

「知っているし、内容も理解している」と「聞いたことはあるが、内容は理解していない」を合わせると65.7%となります。



性別でみると、男女とも「知っているし、内容も理解している」が多く女性：41.9%、男性：35.6%と女性が6.3ポイント高く、次いで「知らない」は女性：30.6%、男性：32.4%と男性が1.8ポイント高く、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」は女性：24.7%、男性：28.6%と男性が3.9ポイント高くなっています。

男女ともに「知っているし、内容も理解している」が多く、女性の割合が高くなっています。

年齢別では、「知っているし、内容も理解している」の割合が高い方は、女性の30～50代で4～5割、男性の30～50代で4～5割と、男女とも若世代から中年が多くなっています。

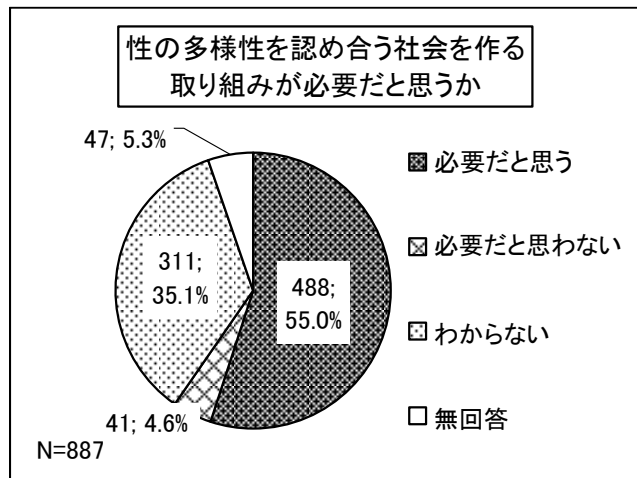
LGBTを含む性の多様性について知っていたか

	知っているし、内容も理解している	聞いたことはあるが、内容は理解していない	知らない	無回答
女性 計	41.9%	24.7%	30.6%	2.8%
18歳～19歳	75.0%	12.5%	12.5%	0.0%
20代	39.5%	15.8%	44.7%	0.0%
30代	51.7%	21.2%	27.1%	0.0%
40代	44.9%	26.5%	26.5%	2.2%
50代	48.3%	22.5%	28.1%	1.1%
60代	27.7%	30.3%	36.1%	5.9%
70代以上	23.5%	29.4%	35.3%	11.8%
男性 計	35.6%	28.6%	32.4%	3.5%
18歳～19歳	66.7%	11.1%	22.2%	0.0%
20代	30.8%	30.8%	38.5%	0.0%
30代	50.0%	32.7%	17.3%	0.0%
40代	41.6%	26.0%	31.2%	1.3%
50代	44.9%	17.4%	36.2%	1.4%
60代	14.3%	38.1%	35.7%	11.9%
70代以上	26.9%	30.8%	42.3%	0.0%

問 27 LGBT 等の当事者への偏見や差別をなくすための取り組みが必要だと思うか

LGBTへの偏見や差別をなくす取り組みについては、「必要だと思う」が55.0%と多く、「必要だと思わない」の4.6%を大きく上まわっています。

一方で、「わからない」と答えた方も35.1%も見られ、問26の認知度（「知らない」）と関係があるものと思われます。



性別でみると、男女ともに「必要だと思う」が多く女性：58.9%、男性49.0%と女性が9.9ポイント高く、次いで「わからない」は女性：33.6%、男性：37.6%と男性が4.0ポイント高く、「必要だと思わない」は女性：3.5%、男性：6.4%となっています。

男女とも「必要だと思う」が多く、女性の割合が高くなっています。

年齢別では、「必要だと思う」の割合が高い方は、女性の20～30代及び50代で6割台、男性の20～30代及び50代で5割台と、男女とも若い世代と中年に多くなっています。

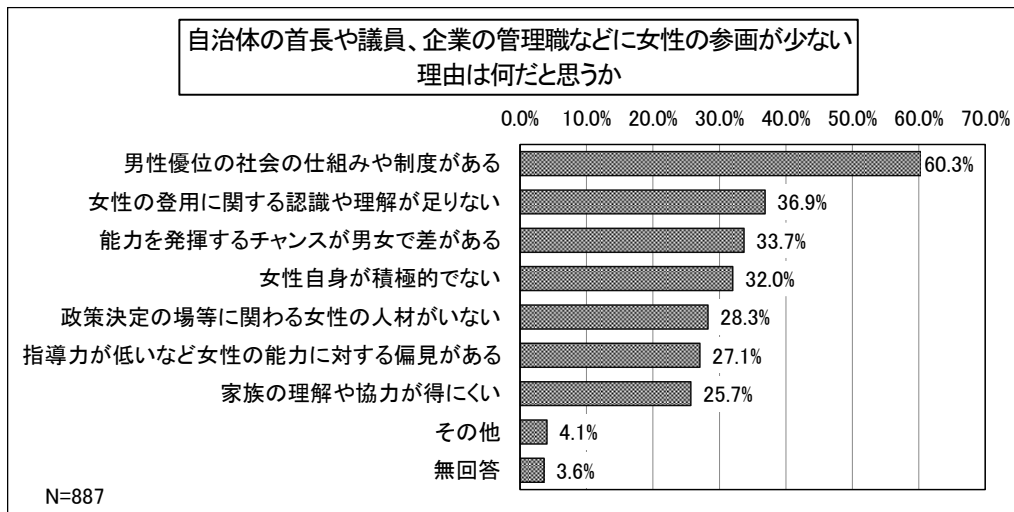
「わからない」の割合が高い方は、女性の60代で4割程度、男性の60～70代以上で4～5割と、男女とも高齢者が多くなっています。

性の多様性を認め合う社会を作る取り組みが必要だと思うか

	必要だと思う	必要だと思わない	わからない	無回答
女性 計	58.9%	3.5%	33.6%	4.1%
18歳～19歳	87.5%	0.0%	12.5%	0.0%
20代	68.4%	2.6%	28.9%	0.0%
30代	63.6%	3.4%	33.1%	0.0%
40代	61.0%	2.9%	31.6%	4.4%
50代	62.9%	1.1%	33.7%	2.2%
60代	46.2%	5.9%	40.3%	7.6%
70代以上	50.0%	5.9%	29.4%	14.7%
男性 計	49.0%	6.4%	37.6%	7.0%
18歳～19歳	77.8%	0.0%	22.2%	0.0%
20代	53.8%	7.7%	38.5%	0.0%
30代	57.7%	7.7%	30.8%	3.8%
40代	46.8%	10.4%	37.7%	5.2%
50代	58.0%	2.9%	33.3%	5.8%
60代	36.9%	6.0%	40.5%	16.7%
70代以上	38.5%	3.8%	57.7%	0.0%

問 28 自治体の首長や議員、管理職などに女性が少ない理由（複数回答）

首長や議員及び企業の女性の管理職が少ない理由は、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が60.3%と多く、次いで「女性の登用に関する認識や理解が足りない」36.9%、「能力を発揮するチャンスが男女で差がある」33.7%、「女性自身が積極的でない」32.0%、「政策決定の場等に関わる女性の人材がいない」28.3%、「指導力が低いなど女性の能力に対する偏見がある」27.1%、「家族の理解や協力が得にくい」25.7%となっています。



性別でみると、男女ともに1位は「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が女性：60.0%、男性：60.9、2位は「女性の登用に関する認識や理解が足りない」で女性：36.3%、男性：37.9%、3位は男女で異なり女性が「能力を発揮するチャンスが男女で差がある」で33.8%、男性が「女性自身が積極的でない」34.1%となっています。

男女を比較すると、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」は男性が0.9ポイント高く、「女性の登用に関する認識や理解が足りない」は男性が1.6ポイント高く、「能力を発揮するチャンスが男女で差がある」は女性が0.3ポイント高く、「女性自身が積極的でない」は男性が3.3ポイント高くなっています。

年齢別では、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」の割合が高い方は、女性の30代と50代で6割台、男性の20～30代及び60代で6割台と、女性は若い世代と中年、男性は若い世代と高齢者が多くなっています。

「女性の登用に関する認識や理解が足りない」の割合が高い方は、女性の40代及び60～70代以上で3～4割、男性は30～40代及び70代以上で4割台と、女性は中高年、男性は各世代で多くなっています。

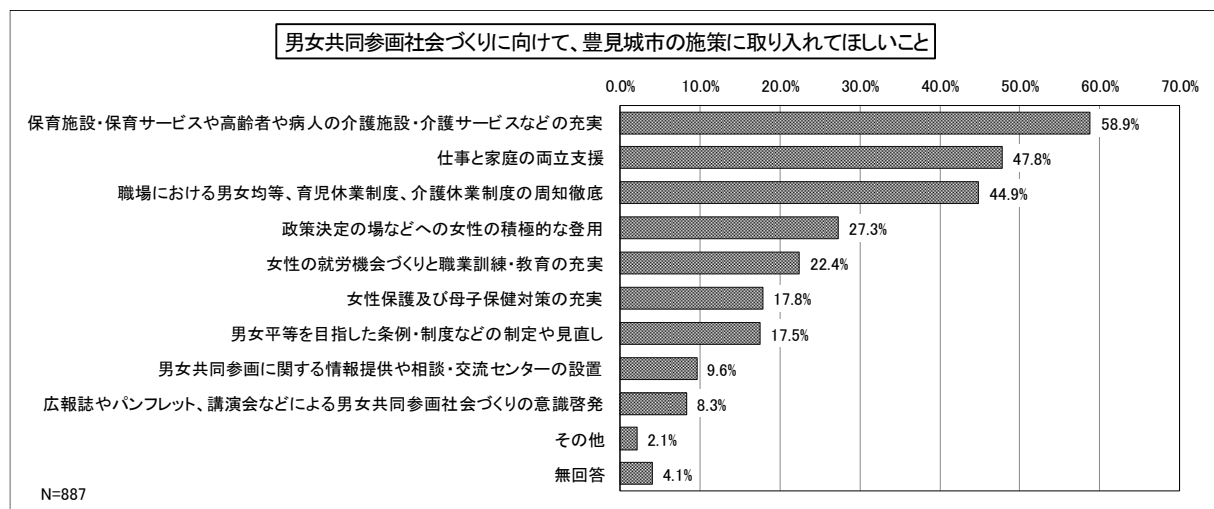
「能力を発揮するチャンスが男女で差がある」の割合が高い方は、女性の20代と70代以上で3～4割となっています。「女性自身が積極的でない」の割合が高い方は、男性の20代と40代で3～4割となっています。

自治体の首長や議員、企業の管理職などに女性の参画が少ない理由は何だと思うか(構成比)

	男性優位の社会の仕組みや制度がある	指導力が低いなど女性の能力に対する偏見がある	能力を発揮するチャンスが男女で差がある	女性の登用に関する認識や理解が足りない	政策決定の場等に関わる女性の人材がいない	女性自身が積極的でない	家族の理解や協力が得にくい	その他	無回答
女性 計	60.0%	28.0%	33.8%	36.3%	28.0%	30.8%	27.1%	3.5%	3.5%
18歳～19歳	50.0%	62.5%	25.0%	12.5%	25.0%	37.5%	25.0%	25.0%	0.0%
20代	55.3%	23.7%	36.8%	28.9%	23.7%	36.8%	18.4%	5.3%	2.6%
30代	67.8%	31.4%	33.9%	29.7%	29.7%	28.0%	17.8%	3.4%	1.7%
40代	61.0%	28.7%	33.8%	39.7%	26.5%	22.1%	36.8%	2.2%	2.2%
50代	67.4%	29.2%	31.5%	34.8%	30.3%	32.6%	30.3%	4.5%	1.1%
60代	49.6%	21.0%	31.9%	43.7%	27.7%	36.1%	28.6%	3.4%	8.4%
70代以上	52.9%	32.4%	44.1%	38.2%	29.4%	44.1%	17.6%	0.0%	5.9%
男性 計	60.9%	25.4%	33.5%	37.9%	28.9%	34.1%	23.6%	5.0%	3.5%
18歳～19歳	55.6%	22.2%	33.3%	33.3%	55.6%	33.3%	22.2%	0.0%	0.0%
20代	65.4%	23.1%	30.8%	23.1%	34.6%	38.5%	23.1%	11.5%	0.0%
30代	67.3%	25.0%	28.8%	44.2%	21.2%	26.9%	34.6%	9.6%	0.0%
40代	53.2%	22.1%	33.8%	40.3%	24.7%	45.5%	20.8%	5.2%	5.2%
50代	59.4%	27.5%	33.3%	34.8%	34.8%	31.9%	30.4%	1.4%	1.4%
60代	64.3%	22.6%	36.9%	38.1%	26.2%	28.6%	16.7%	3.6%	8.3%
70代以上	61.5%	42.3%	34.6%	42.3%	34.6%	34.6%	15.4%	3.8%	0.0%

問 29 男女共同参画社会づくりに向けて、取り入れるべき施策とは（複数回答）

男女共同参画社会づくりの施策として取り入れてほしいものは、「保育施設・保育サービスや高齢者や病人の介護施設・介護サービスなどの充実」が 58.9%と多く、次いで「仕事と家庭の両立支援」47.8%、「職場における男女均等、育児休業制度、介護休業制度の周知徹底」44.9%、「政策決定の場などへの女性の積極的な登用」27.3%、「女性の就労機会づくりと職業訓練・教育の充実」22.4%、「女性保護及び母子保健対策の充実」17.8%、「男女平等を目指した条例・制度などの制定や見直し」17.5%、「男女共同参画に関する情報提供や相談・交流センターの設置」9.6%、「広報誌やパンフレット、講演会などによる男女共同参画社会づくりの意識啓発」8.3%となっています。



性別でみると、男女ともに1位は「保育施設・保育サービスや高齢者や病人の介護施設・介護サービスなどの充実」で女性：60.7%、男性：56.0%、2位は「仕事と家庭の両立支援」で女性：48.9%、男性：46.4%、3位は「職場における男女均等、育児休業制度、介護休業制度の周知徹底」で女性：44.6%、男性：45.2%と続いています。

男女を比較すると、「保育施設・保育サービスや高齢者や病人の介護施設・介護サービスなどの充実」は女性が4.7ポイント高く、「仕事と家庭の両立支援」は女性が2.5ポイント高く、「職場における男女均等、育児休業制度、介護休業制度の周知徹底」は男性が0.6ポイント高くなっています。

年齢別では、「保育施設・保育サービスや高齢者や病人の介護施設・介護サービスなどの充実」の割合が高い方は、女性の20～30代で6～7割、男性の30～40代で5～6割と、女性は若い世代、男性は比較的若い世代が多くなっています。

「仕事と家庭の両立支援」の割合が高い方は、女性の30～40代で5～6割、男性の20～40代で5～6割と男女とも比較的若い世代が多くなっています。

「職場における男女均等、育児休業制度、介護休業制度の周知徹底」の割合が高い方は、女性の20代と60代で4～5割、男性は30代と70代以上で5割台と、男女ともに若い世代と高齢者が多くなっています。

男女共同参画社会づくりに向けて、豊見城市の施策に取り入れてほしいこと(構成比)

	男女平等を 目指した条 例・制度な どの制定や見 直し	政策決定の 場などへの 女性の積極 的な登用	女性保護及 び母子保健 対策の充実	職場におけ る男女均等、 育児休業制 度、介護休 業制度の周 知徹底	女性の就労 機会づくり と職業訓練・ 教育の充実	保育施設・保 育サービス や高齢者や 病人の介護 施設・介護 サービスなど の充実	男女共同参 画に関する 情報提供や 相談・交流セ ンターの設置	仕事と家庭 の両立支援	広報誌やパ ンフレット、講 演会などによ る男女共同 参画社会づ くりの意識 啓発	その他	無回答
女性 計	15.5%	24.4%	19.2%	44.6%	25.3%	60.7%	9.4%	48.9%	7.7%	1.3%	3.7%
18歳～19歳	25.0%	37.5%	25.0%	37.5%	12.5%	37.5%	0.0%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	10.5%	2.6%	36.8%	47.4%	15.8%	78.9%	13.2%	47.4%	2.6%	0.0%	0.0%
30代	9.3%	16.1%	19.5%	43.2%	29.7%	66.9%	2.5%	65.3%	3.4%	2.5%	2.5%
40代	16.2%	20.6%	24.3%	44.1%	22.8%	61.0%	8.8%	57.4%	5.9%	1.5%	2.2%
50代	21.3%	28.1%	18.0%	36.0%	34.8%	56.2%	12.4%	38.2%	12.4%	2.2%	4.5%
60代	16.8%	31.9%	12.6%	54.6%	21.8%	54.6%	10.1%	38.7%	11.8%	0.0%	6.7%
70代以上	17.6%	52.9%	2.9%	38.2%	20.6%	55.9%	23.5%	20.6%	11.8%	0.0%	5.9%
男性 計	20.7%	31.8%	15.7%	45.2%	18.1%	56.0%	9.9%	46.4%	9.3%	3.5%	4.4%
18歳～19歳	44.4%	22.2%	11.1%	66.7%	0.0%	66.7%	11.1%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	23.1%	19.2%	30.8%	46.2%	30.8%	42.3%	7.7%	50.0%	11.5%	3.8%	0.0%
30代	15.4%	19.2%	19.2%	50.0%	13.5%	61.5%	7.7%	63.5%	9.6%	9.6%	1.9%
40代	14.3%	33.8%	15.6%	46.8%	19.5%	59.7%	9.1%	50.6%	10.4%	3.9%	2.6%
50代	17.4%	36.2%	14.5%	36.2%	24.6%	55.1%	10.1%	44.9%	8.7%	2.9%	2.9%
60代	27.4%	33.3%	10.7%	42.9%	14.3%	53.6%	11.9%	41.7%	7.1%	1.2%	10.7%
70代以上	26.9%	50.0%	15.4%	53.8%	11.5%	53.8%	11.5%	19.2%	15.4%	0.0%	3.8%

〈前回市調査との比較〉

男女共同参画の施策として取り入れて欲しいことについて前回調査と比較すると、前回は今回も上位5位の施策は1位から5位まで同じになっています。

割合の変動をみると「職場における男女均等、育児休業制度、介護休業制度の周知徹底」が5.1ポイント増、「保育施設・保育サービスや高齢者や病人の介護施設・介護サービスなどの充実」が4.6ポイント増など多くの施策が増加となっています。

一方、ポイントが減少しているものは「女性保護及び母子保健対策の充実」で2.3ポイントの減となっています。

問29 男女共同参画社会づくりに向けて、豊見城市の施策に取り入れてほしいことはどんなことですか。
(○は3つまで)

	市(H21)	市(H29)	H29-H21
男女平等を目指した条例・制度などの制定や見直し	15.2%	17.5%	2.3
政策決定の場などへの女性の積極的な登用	23.4%	27.3%	3.9
女性保護及び母子保健対策の充実	20.1%	17.8%	-2.3
職場における男女均等、育児休業制度、介護休業制度の周知徹底	39.8%	44.9%	5.1
女性の就労機会づくりと職業訓練・教育の充実	21.9%	22.4%	0.5
保育施設・保育サービスや高齢者や病人の介護施設・介護サービスなどの	54.3%	58.9%	4.6
男女共同参画に関する情報提供や相談・交流センターの設置	9.2%	9.6%	0.4
仕事と家庭の両立支援	47.4%	47.8%	0.4
広報誌やパンフレット、講演会などによる男女共同参画社会づくりの意識啓	7.4%	8.3%	0.9
その他	0.8%	2.1%	1.4
無回答	4.7%	4.1%	-0.6

問 30 男女共同参画への自由意見

<p>女性の子育て＝当たり前、男性の子育て＝イクメン}←そもそもスタート地点が違う事がおかしい。・女性の就労有無に限らず保育園に入れるようにしたり、父親が子育てするのは当たり前だと、市議や市の関係機関の管理職者が見本を示すべきではないでしょうか。「市の為に仕事に専念してます。」というのは「家庭は妻にまかせっきりで、妻に働く機会を与えてません。」と言っているも同じ。先が思いやられる。</p>
<p>子どもが小さい時は実際に男性が育児を担ってくれる事は助かるが、女性が正社員であり、役職を持つことで残業や、研修も多くなることで逆に、育児にゆとりがなくなってしまう、子どもの成長とともに細かい躰ができていない事を感じ、後悔している。躰等はやはり、女性の方がむいていると思うので、男女共同参画の以前に男性が、一家の大黒柱として高収入、尊敬される社会づくりが必要。</p>
<p>保育施設を増やし、保育料ももう少し安くして欲しい。その方が女性も働きやすくなると思う。</p>
<p>・男女共同参画を阻害する原因の1つとして、長時間労働や休日返上の出勤形態があると思います。残業や休日出勤をしなくても、人並みの生活ができる賃金を雇用主が支給できる社会になってほしいです。・LGBT 当事者への人格的な差別、偏見は改善する、「基本的人権の尊重」は必要だと思います。しかし、婚姻は男女間のみの権利です。同性婚を認める、那覇市のような自治体にはなってほしくないです。</p>
<p>「男女共同参画…」の内容がわからないので、まず、この内容の意味が知りたい。</p>
<p>女性が働きやすい職場をつくる前に、育児の面で、保育施設や託児所の充実化の方が先なのではないかと思います。育児や子供がいるから、女性が働きたくても働けなくなっているし、現に保育所も少なく保育所に入れる子供も少ないため、子供をみてる人がいない＝女性が働けなくなっていると思います。保育士も少ないですし、給料も低いので、辞める人も多くいると思います。そういう面で税金を活用して欲しいです。</p>
<p>設問の仕方が、分かりにくいので、解答に困る。</p>
<p>・男、女は生まれながらにして体のしくみが違うからその事をまず理解しなければならない ・人間として心の豊かさこそ平等の第一である ・男、女一人一人が万人に優しく、差別心がなく、偏見もなく誰とでも手を取って楽しく笑顔で暮せる社会を作っていく精神をもつべきである。</p>
<p>自治会などでの、保育やあずかりにもっと支援金をふやして、小さな地域の無認可保育を活性化させてほしい。</p>
<p>前にも似た様なアンケート届いて返信しましたがちゃんと反映されているのか、正直信用性がありません。</p>
<p>男女共同参画社会の市政策の取り組み。(育児休業制度、介護休業制度が徹底されていない状況と、保育施設の充実化)が具体的に支援されている。現状の声を聴き、近い将来に望まれると期待をしています。</p>
<p>家庭や職場では特に女性だからと格差を感じる事はあまりありません。(まだ子がいない事もあるからでしょうが…)男性も格差を感じている方も多いのかと思います。「男でしょ。」「男がやって当たり前」女性も知らず知らずそんな言葉を発してる事も多いと思います。潜在意識にあると思います。大切なのはこれからの世代にどう教育していくかだと考えています。</p>
<p>税金の無駄遣い!!</p>
<p>女性・子どものシェルターの設置。</p>
<p>育児、介護支援が充実してはじめて男女平等が成り立つと思います。育児、介護の負担を軽くして頂ければ、男女共同参画も向上していくと女性は考えます。</p>

<p>この調査をして、豊見城市がどうゆう共同参画社会づくりをするのか、誰がどのようにしてとり決めるのか、わからない、見えない部分があります。本当に、やる気があるのか疑問です。</p>
<p>・子育て中の人でも参加できる環境(託児所又は参加している間子供を預かってくれる場所)が充実すればよいのでは。・特に、沖縄の男性は酒を飲む機会(模合、飲み会等)が多く、(休みの日は寝ている事が多いので家事に参加できない)行政、職場で飲む機会を減らす運動をする。(福利厚生を増やし家族で参加できる施設を作る)・男性でも家事をするのは当たり前と、家庭や学校で教育する仕組みを作る。・古い考えの政治家を辞めさせる。</p>
<p>この調査対象者は、本当に無作為に選んでいますか?このような機会が多すぎます。</p>
<p>男女共同参画のためには政治へ民意を反映させることが必要だと思います。(本題からそれてしまいますが)政治参加しやすいよう、那覇市のように事前投票がショッピングセンター(→那覇市は那覇ジャスコで事前投票可能)のできるよう検討してほしいです。豊見城だとウイングシティやとみとんなどが便利?店側は集客、行政側も投票率上昇でWIN-WINだと思いますが。</p>
<p>私は、豊見城市に育てられ、33歳になりました。当時、村からの市昇格に街の皆さんが大いに盛りあがったのを記憶しています。それから市政になり、町もすっかり都会になったように感じます。しかしながら、男女参画における政策は未だ発展していません。時代、世代改革のスピードがおそいように思います。豊見城市はこれから益々の発展を遂げるポテンシャルがあり、これからが正念場ではないでしょうか!特に、男女参画というワードの中に、LGBTを取りあげて頂いた事は、市政を変えようという意気込みを感じます。私はLGBTの当事者、当事者であり、本状では取りあげられていない、素晴らしい世界だ、という事を身をもって体験しています。今後、恩返しの意味でも豊見城市へ、その体験経験を語っていきたく思います。</p>
<p>保育園(認可)に通う子が、「赤・ピンクは女の子の色、青・緑は男の子の色」という発言をしていた。(保育園で教わったとのこと)「私は女だけど青が好きだよ」と、「女の子でも青が好きな人もいれば、男の子でもピンクが好きな人もいる。」と伝えた。幼少期からの意識づけを変えるだけでも、子ども達が大きくなる頃の世間の認識に期待したい。教える立場の方々の意識を変えていただけたらと願います。</p>
<p>アンケートを取り、どのように変化してゆくのか、豊見城市にも、日本にも、何も期待が持てない。仕事と、家事育児の両立にしる、結局女性の負担が多いように思う。豊見城市は、とても子育てしづらい市だと思う</p>
<p>男とか女ではなく、やりたい人にチャンスが与えられる社会の仕組みが必要だと思う。</p>
<p>豊見城市の市長を有能な女性に変えて下さい。豊見城市議の女性数を増やす。北九州市役所に見習う。</p>
<p>男、女、皆同じ人です。平等に。</p>
<p>まず家庭から男女共同参画の意識が無いと家の家事、育児が女性に全部かかって来るので女性は他の事をする時間もエネルギーも残って無いのでまず家庭の仕事を減らしてからでないと何もできない。</p>
<p>「男女共同参画」ということばを日頃耳にしない。もっと情報・発信してほしい。</p>
<p>男女関係なく、人間として考えてほしい。豊見城市が男女関係なく人間として理解や協力できる豊見城市をつくってほしい</p>
<p>女性の仕事の能力を引き出しながら、家庭や職場の両立、男女ともに、育児、看護など男性も女性と同じように父子家庭の手当なども必要だと思う</p>

<p>まず、このアンケートの作り方・配布の方法に問題がありそう。問 10、11、問 13～18、問 22、問 26 以降に回答すべきかどうか明確ではない。こういうアンケートは結論ありきで作成される場合に、よくあることだが、今回のアンケートも同じなのではないか？</p>
<p>女性の社会進出の機運は高まっており、市民もある程度社会全般に理解が広がっているものと思います。しかし、議会議員立候補も女性は少ない。(豊見城市議員は5人か?)又、市役所職員の管理職も少ない。この状況は、女性自身の積極的なチャレンジ精神にかけていると思います。(消極的である)このことは議員候補や、管理職を引き受けた場合のリスク(家庭における理解とか、自宅での役割分担に支障があり、トラブル)があるかと思います。又、上記のリスクはなくとも「よし、私は挑戦しよう女性の声を議会に…」という思いがないのでは…女性自身の考えが弱いのではないかと思います。(県民性かもしれない)結論としては、行政が先頭になりさらなる女性の意識改革や社会環境の更なる改善等計画的に忍耐強く推進すべきものと思います。</p>
<p>そもそも、「女性」「女性」って何で特別な？男性のもっている能力、女性のもっている能力、個体ももっている能力を活かせない場所も悪い!!認めない人もおかしい。女性の特別・男性の特別はあるものでしょ!!「女だから」と甘えてるのは女の方でもある。主張ばかりしていてもいい!!</p>
<p>待機児童の解消をしてほしい！そうしないと仕事に復帰できなくて、辞めざる得ない状況になってしまう事もある。仕事をしたくてもできない女性の改善をして欲しい。</p>
<p>那覇市西にある「ている」や宜野湾市の「ふくふく」「めぶき」のように、男女共同参画の社会と環境づくり。差別なき意識啓発、講演会(女性で社会的に尽力して活躍している人達による講演会や勉強会を是非、開催することに取り組むことが必要なので「男女共同参画支援センター」を設立して下さい!!私は、「ている」と宜野湾市の「ふくふく」「めぶき」まで、わざわざ時間とお金をかけてまで勉強しに行っているのだから、豊見城市も男女共同参画支援センターを設立して意識啓発、向上になることに取組んでもらいたい。</p>
<p>今のままで良い。</p>
<p>「男女共同参画」というフレーズを理解させたいのでご意見等を集めるといった手法がいいのでは？「男女共同参画」ご意見のまゝに伝えていきますか？</p>
<p>市民の意見を聞いて頂くのは、ありがたいですが、市として実現可能と思われる取り組みのイメージがわからず、具体的な提案ができません。現状やっていること、先駆けて行っている市町村(他県を含む)の例を挙げるなどすると、意見がしやすいです。(広報誌等で発信をされているかもしれませんが…)何よりも、最近ニュースになった、「保育園の切り捨て」あつてはならないと思います。働く意欲、出産への意欲なくなります。保育士確保も難しいと思いますが、フルタイムで働いていると、土曜の保育園受け入れありがたいです。「休みなので、家庭保育を」となると、休むヒマがありません(私自身はとても助かってます)。</p>
<p>私達女性は、家庭があるとどうしても生活の為の労働になります。特に子供の送迎のため残業もできず、男性のように仕事に時間を優先することができず管理職などの両立を諦めている人もいます。現在、中学校に通う娘(伊良波中学校)がいますが、不審者が多く、非常に心配なため送迎しており、とても男女共同参画が難しい状態です。下にも女の子がいますので、ぜひ豊崎中学校の建設を強く希望致します。周りにも送迎で仕事をセーブしているお母さんがたくさんいますので、ぜひとも豊崎中学校の建設をお願いします。</p>
<p>男女平等といっても今まで男性優位の考え方で育てられている為すぐに変える事はむずかしいと思うがこれからの子供たちから意識を変えていけるように教育していかなければおいていかれる。</p>

<p>“男女共同参画”と言っていること自体意識の中で“別”となっていると感じる。しかし、体のつくり等から男女・差があり、生を受ける。1人ひとりができること、能力を生かせる社会づくりが大切。LGBT では、なく、今は、LGBTQ←Q の人もいる。多様性の中(・社会)で生きれば、多様性は、自然に理解できる、シンプルに。</p>
<p>何が問題なのか、その必要性や現状についてもっと知る機会の創出が必要だと思う。知る機会のつくり方も深く議論した方が良い。現在男女共同参画が市政の中で優先すべき事項なのか？この調査に費用をかけるよりも待機児童の問題や子供の貧困の問題の実態調査、対策に費用をかける事を望む。</p>
<p>男女共同参画への取組みよりもハコモノ行政をやめるべき(時代遅れのハコモノ行政が目立ち、税金の無駄使いを今時やっているのは豊見城市だけ)</p>
<p>離婚率が高く、貧困家庭が多すぎる世の中、社会保障での予算が高く、真面目に税金を払っている人がバカをみている。子育てする人たちの意識を変えなければ世の中良くならない。男女共同参画の前に改善が必要。</p>
<p>男女共同参画を強く意識する必要はない。女性の経済自立を改善することで、格差が解消されると思慮する。</p>
<p>男女平等は残念ながら難しいと思う。男性の役割、女性の役割がそれぞれあると思う。個々を尊重する事、他人を大切に思う事の教育を目標にして欲しい</p>
<p>他市で男女共同参画会議の委員として数年関わって来たので、今回、このアンケート抽出に当たり嬉しく思うと共に本市の取組みを意気込みと政策のすばらしさを感じました。是非、本アンケート第2次のプランに活かして「男女共同参画社会」の先頭に行く豊見城市に大きく期待をして居ります。※アンケートの結果が「まちづくり政策—住みやすい豊見城市」につながりますように願っています。</p>
<p>各家庭、会社等への啓発を積極的に実施してほしい。一昔前だと気づかなかった事が今では当たり前となってきている…がまだまだ意識の低い方(男女共に)がいるので残念に思う。改善するためには今後とも、意識改革できる(やる)ような活動が大事だと思います。豊見城市が発展するためには、大事なことだと思います。頑張りましょう!!</p>
<p>問9, 10, 11, 12のアンケートの答えの通りだと思います。</p>
<p>職場に早く復帰したいので、保育士の質の向上を求む。感染の知識もなく、対策もできない保育園で、インフルエンザ、ノロやロタ感染は、起きるし、発熱したら、迎えに来て下さいでは、仕事ができない。</p>
<p>「男女平等」の本当の意味を広めてもらいたいと思いました。体のつくり上、向き不向きもありますし、「～らしく」は、そんなに悪い事だとは思いません。体力を使わない職業での賃金差は、今はもう男女平等だと思います。今の子供達はかえって、男の子の強さがなく心配です。今後、平等ばかりの追求より、バランスを見て、役割分担をしたいと思いました。</p>
<p>男女共同参画社会づくりにはまだまだたくさん問題や、改善、解決していかなければならない事があると思います。現在の沖縄には、移住してきた人も増え、色々な意見をもった人達がいる中で、良い方向へ進むことを願っています。</p>
<p>目指すべきは男女の平等であり、女性の優遇ではない。このアンケート自体がそれをき違えた内容であるため、再考されたい。</p>
<p>子育てのしやすい町づくりを推進してほしい。南風原町や八重町など、隣市町村の政策も参考にしてほしい。体制が整わない中では子育てに不安があり少子化は加速すると思う。昔ながらの風習も、「今」の生活者の生活スタイルに合わせて変化させていくべきではないか？(盆、旧正月など)</p>

<p>男と女はそもそも質が違うので、何にもかも平等、共同とはいかないと思う。お互いに自立(自律)心を持つ方が大事だと思う。</p>
<p>このアンケートで同一世帯にアンケートを求めるのはいかがなものか再考をお願いしたい。夫と妻にアンケートが届いていますが良好なアンケートとは思いませんが？</p>
<p>男女を無理に平等にするのは違うと思う。女性は家庭の事(家事や家族の受診等)もあり、仕事も FULL で100%行くと身も心ももたない。仕事は少し80%の力で行えるので良いのではないか。その分男性には100%以上で行なってほしい。また、職で休みの時は全て家庭の用事なのに土曜で休みだと保育園も預かってもらえない。また、祝日、日曜仕事の際は子供の面倒を夫や両家どちらかにお願いするだけでも労力をつかう。男女共同にするなら、子供の検診、受診等で市の職員、市議、市長男性が妻を連れずに子供と父親で行えるようになると成功かと思う。</p>
<p>PR 活動が必要！</p>
<p>男女ともに意識啓発が必要だと思います。消極的な女性、都合のいい時だけ女性優位をいう女性、いまだに男尊女卑する男性、様々です。正しい、男女共同参画社会を知りたいです。</p>
<p>公的人生はすべてに於いて笑顔で解り易い説明態度が大切である。他人を疑うような顔をする方は案外多いのでそれは良くないですから相手から笑顔で質問するような態度で接して下さい。</p>
<p>男女共同参画できる豊見城をつくってください。お願いします。アンケートに協力できて光栄です。ありがとうございました。</p>
<p>何のための男女平等でしょうか？女性が働きたい理由を精査し、分析するのを感じます。お金・やりがい・プライド・社会的地位など、女性の希望を知りたいです。</p>
<p>認可保育園に入れず就労できない母親がたくさんいます。保育施設の拡充、見直しをお願いします。パート就労者の育児休業制度</p>
<p>女性の方が働くにはまず安心して子どもを預かってくれる保育所がある事が大切だと思います。しかし現在はそのような保育所が少なく若いお母さん方は働きたくても働けない方がいっぱいいらっしゃいます。出来れば職場に保育所を造ってくださればお母さんも、お子さんも安心して働けると思います。今の社会は共働きしないと生活も厳しいのではないのでしょうか？</p>
<p>産後、父親が産休取ったり、父親の育児をもっと進めて欲しい。沖縄は、男性があんまり育児しないでお酒飲んだりしている家庭が多いと思う。</p>
<p>男女共同参画の議論で女性への支援が中心に議論されることは当然歴史的な経緯などから理解できるが、男性への視点が欠落しているように思う。男らしさや、男が家を守る、男が稼いでくる、男のくせに…というような男性としての役割を無意識に幼少からすりこまれて、現実とのギャップに苦しむことが多くなっている。肉体的な性差と社会的な性差について、女性と男性について同じまなざしで考えていかなければ、女性の社会進出は成功せず、男性の社会参加も進まない。根底にある我々のメンタルモデルを構成する仕組みに視点をあてて、私達の性役割を強化するメンタルモデルと構造の変革こそが最も大事で、そのために、どういう改革や施策を行うか？という考え方も必要ではないか？なぜ、男女平等や共同参画が進まないのか？もっと掘り下げた議論が必要だと思う。</p>
<p>性別差別のない社会 他の市町村の見本になる豊見城市になってほしい できる豊見城市だと思います</p>

<p>私には、あまりピンと来ない内容のアンケートでした。ですが、なるべく深く、良く、考えをめぐらせ、答えたつもりです。</p>
<p>①役所自ら男女共同参画の現場になるよう先頭になって取り組む事！ ②市内の有力企業や各職場に男女各1名参加してもらい全国一の男女共同参画市を目標に、プロジェクト組織を設置し、市民や市内企業を巻き込むこと！ ③特に女性が働きやすい豊見城市を目指すこと！ 子供を生み育てやすい環境を作り、生きがい、住みやすい市にする事！</p>
<p>妊娠・出産育児の際に離職でなく休業で済むように市は行政責任として、必要とする世帯への保育施設サービスを提供できるように迅速に対策するべきだと思う。現在の待機児童(保育園、あずかり保育等)の課題に1日もはやく待機児童ゼロを実現すべく行動してほしい。この時の離職が、女性の社会参画を不利にしたり、後の離職休職を妻の方がする方が世帯にとってダメージが少ないと選択したりする要因となっているのではないだろうか。保育や介護の資格等を持ち担い手となれる人材を離職させていることの原因の小さくないひとつに市の行政責任がはたされていないことがあるという認識をもって、本市に動いてほしい。</p>
<p>企業のトップ(管理者)の方に、(育児や介護などのために)一度は離職した女性の方を、短時間の勤務や、フレックス制度などによる、(成果)・仕事の雇用を取り入れて、ほしいと思います。そうした意識が今後、広がっていくように、望みます。また、職場内で資格を取得できるような:(例えば、「日商簿記3級」など)働きながら、そうした資格・能力を高める制度もあれば良いと思います。</p>
<p>ぜひ女性の首長を!!</p>
<p>会社で働く上で中間管理職は女性が多いですが、各セクショントップは男性が多いです。それに対して特に不満はありません。「夫が家で何もしない事」が不満です。確かに、夫の方が私より稼ぎは多いのですが…。</p>
<p>性による不平等、差別は現実に大きな問題があり根深いものがある。人は「自由」を得るために自分に責任を持ち、果たし、他の人に迷惑や無関心な行動をせず、まわりの人々に出来る限り関心を持ち、節度をもって助け合い認め合って豊かに生きてほしいと願う。自己中心な権利ばかりにこだわらず大人が豊かな人間関係を示す中で私たちはともより未来にむかう子ども達の幸福につながると信じる。</p>
<p>保育士の給料が安いといわれるのは、女性が多いから「男女平等」に今まで差が出たからと思う。</p>
<p>・育児や介護に関する女性の負担は大きい為、仕事と家庭が両立できるような政策づくりをして欲しい ・女性目線の意見も取り入れ、住みやすい豊見城市にして欲しい</p>
<p>・市役所(市職員)が役所内でまず模範を示して欲しい。 ・スローガンではなく実際の施策を実施して欲しい。 ・市職員が地域活動の中心となれ！ 高い給与をもらっているのだから。 ・市外に住む市職員を市内に住むように働きかけるべきだ。市職員でありながら市を愛する気持が無い。</p>
<p>女性いきがい講習やスポーツ教室(夜間)を、積極的に推進して欲しい</p>
<p>まず、男女参画というように社会を変えたいというのであれば、成人を対称することも必要ですが、若い人々によりよい教育をして、男女共同という意識をもたす事が望ましく、その活動を押しつけでなく、一人一人の問題としてとらえる必要があると思います。行政指導の前に住民の思いがあれば、その事が大事だと思います。</p>
<p>市になって15年、できる女性は、どんどん市長、議長、部長職等、登用してほしい。</p>
<p>男性≠女性 性差があるのでそれぞれの特性、役割で活躍できるようになればいいのでは。</p>
<p>・女性の専門的な能力を高める研修会があれば良い</p>

<p>現在の多くの男女平等は「平等な結果」を意識し過ぎて、本来の目的である「平等な機会」を与える事を軽視しているのではと思います。過度な少数者への保護は多数の者の不満を招くのではないかと思いますので、「男女が全てを平等にする」よりも男でなければできない、女でなければできない各々の事項を明確にし、それ以外をできるだけ平等に取り組める様にする様な考え方も必要なのではないかと思います。</p>
<p>少し勉強させていただきましてありがとうございました。時代差も感ずる文章というか間もありましたが、世の中、色々ですが、楽しい人生を送りたい、と思うと笑顔になれるかも。</p>
<p>出産後に確実に、保育所に入れる保障。多少の残業があっても対応してくれる保育体制、病児保育の多様な時間対応。可能であれば企業内保育所の整備などあればいいと思います。子育てをふりかえると、保育所に通う時期の負担が大きかった様に思います。その時期を乗り越えられると、中堅の人材確保につながると思います。</p>
<p>とにかく保育園がなさすぎて困っている。個人の園でも満員。。。</p>
<p>仕事と家庭の両立支援をやる必要があると思う。</p>
<p>男女共同参画の言葉が、一人歩きして、意図を理解せずに、主張をすることで、トラブルがおきないか懸念している。特に、テレビのマスメディアの影響が大きいので、そこで、しっかり、意図や努力事項等を周知してほしい。</p>
<p>有能な女性をどんどん登用し市民の為に汗をかいて欲しい。</p>
<p>男女共同参画というのがどういうものなのかよくわからないので情報提供などの交流センターの設置などをお願いしたいです。</p>
<p>小さいアンケートを重ねて、意識の改善だとかに取り組んで、本当に何か変えようとしてるんだと感動しました。男女で得意、不得意があるので、そこを上手くフォローできる政策ができれば、私達高校生も大人になる事に希望が持ちやすくなると思います。がんばって下さい。</p>
<p>自称フェミニストの男性さえも、男尊女卑の社会に胡坐をかいている節があると思う。諸制度や慣例に対し、批判の目を持ちながら本質的な男女平等を目指してほしい。頑張ってください。</p>
<p>男女共同参画については、男女雇用機会均等に向けた動きであれば大いに賛同したい。ただ、それ以前に沖縄県の低所得賃金に問題を感じている。共働きをしなければ経済的に苦しい環境の中で充実した子育てが出来るのかと言う事。待機児童の問題も共働きしなければならぬと言う事から発生していると思う。男女共同参画により、夫か妻どちらかが働けば生活ができる社会作りに繋がってほしいと思う。夫が働くのか妻が働くのかは、家族の問題で、子育ての基本は家庭であってほしい。</p>
<p>出産を機に仕事を辞め、今は子育てに専念しています。子どもは4カ月になりますが、今もまだ家事ができない(子育てにおわれて)状況です。私の収入がなくなったことや外出するヒマがあるなら家事をするべきでは？という自分の思いがあり、公的なサービスやお金のかかるサービスを使う気もおきません。保育や介護の仕事などは女性の方が人材として求められやすいという気もしますが、給与が低い(対価にあわない)のも問題だと思います。そもそも男性でも沖縄では仕事がない(家族を養えるだけの給与がもらえないという意味)と周りの友人も言って内地に働きに出ている人は多いので、男女共同参画もちろんですが、給与面の問題も沖縄は考えてほしいです!!</p>
<p>日本一子育てしやすい街づくりを目指してほしい。</p>
<p>・女性が仕事をする時の協力者(夫や職場など)が少ない。</p>
<p>市の多くの女性に共同参加を呼びかける。</p>

共働きが当たり前になっている現在においても、家事や育児看護等は女性がやるべきという男性の考えが変らない限り女性が社会で活躍出来るのは不可能ではないかと思ひます。男女平等の観点からも男性が女性を手伝うのではなく、役割分担だとの意識を持たなければ、男女共同参画社会の実現がむつかしいのではないのでしょうか。
今回のアンケートが十分役に立つ事を願ひます。
”男女共同参画”という言葉を使うことが男女差別を生んでいるのではないのでしょうか。
・子供の体調不良などで早退や休み ・台風など振替(行事)休日で学校が休み ←この時、事業主の対応策等
女性にも男女平等という意識をもつていただきたい。まだまだ男性に頼る社会風習が残っていると考へます。
女性の働きやすい環境を作つてほしい。
1. 男女共同参画に向けての専門部署の設置 2. 専門職員の採用 3. モデル企業の育成事業 ※豊見城市が男女共同参画とはどういふものか明確化した上で賛同し取り組む企業の拡大を図つていく。
男女の賃金差は昔も今も変わらない。男100とすれば女は52である。米国は女85だ。男女の働き方、報酬、役割をきちんと与えろとよい。根本的な考へ方を変える必要がある。男と女、両性が存在するからこの社会があるわけですからネ！
女性をもっとガツガツ積極的にかかないとだめだと思ひます。
子供が認可保育園に入らず、困つています。女性が働きやすい環境…今のままでは、無理だと思ひます。早いところ保育環境の改善を図つて下さい。
母子家庭でなくても、多子世帯は生活苦です。塾や習い事も行けず我慢するしかなく、少子化に貢献しているのに何の対策も救済もないと母は悩んでいます。私自身、バイトしながら学校生活で、卒業まで出来るか不安心配です。国の施策、県、市で、教育の充実化、育成をもっと真剣に考へてほしいです。明るい未来の施策を！
これこそ、税金のムダ使いの気がしてならない。アンケート回答する時間、集計する時間勿体ない。経済の安定、夫の給与UPすれば生活水準も上がり経済が豊かになる。収入が上がれば支出も増える。大黒柱の主人が、低収入なら、家庭も不安定不仲、離婚とつながり、子供の貧困と負の連鎖となる。
(少し意味は違ひますが…)市や社会への要求だけでなく、若い人達も、もっと自分を磨く、学び高める努力もして欲しいと思ひます。努力なしに棚ぼたで、仕事も収入もついては来ないことを自覚し、自身で前に進んで欲しいと思ひます。そのような人には、きっと社会全体で協力しようという動きが生まれるはず。頑張っている人は、後押ししてあげたいと思ひます。それには、男性も女性もないはずですから…。
男女共同参画社会づくりに向けて、情報提供がどこで得られるのか？よくわからない。もっと、広く市民にわかりやすく発信してほしい。
豊見城市がどのように男女共同参画に取り組んでいるのか、それがまずわかりません。それに、日本が男女平等になるのはむずかしいと思ひます。何年も前から男女平等と国は言っていると思ひますが、昔とさほど状況は変わってないと思ひます。
一時保育実施しているとされている保育園に問い合わせてもどこもしていないという返答であった。面接さえも行けないので、働きたくても働けない。

<p>農業している方や、農家の嫁さんの意見も調査してほしい。女性のグループ活動を市が積極的に応援し、継続的に支援する講師の派遣など予算措置など考えた方が良い。1回きりの調査ではなく積み上げて行く調査から見えてくる事は何か</p>
<p>・「男女共同参画」という言葉自体が、まず抽象的です。「女性でも会社で働きやすい」「男性でも『主夫』ができる」などは例としてあげられますが、私は違うと思います。女性と男性は肉体的にも考え方にも違いがあると言えます。そのような人達を「同じ役割を(無理にでも)させる」ということの方が、そもそも無理があると思います。私は「女性も働きやすい」「男性も子育てに協力しやすい」ではなく、「女性も男性も自分の能力に合わせて、地域に関わっている」ことが、目指すべき方向と考えます。ただ、これが具体的にどういふものかは、よく私自身、まとめきれっていません。それでも「地域に関わった方が、よりおもしろそう」という考えが伝わる地域づくりを、豊見城市が目指していただければ幸いです。</p>
<p>年齢制限がいくつまでは、参画とかできる範囲によって意見もはっきりできると思う。せまい考え方になって申し訳ない。必要だとは思いますが。その参画は、正しい知識に人々を導くことが平和に継げるものであってほしいと思います。知識も学ぶことで、幸福も拡大できると信じます。学習は人として行わなければ歓喜もわかない。</p>
<p>全国的(豊見城市含む)に改善されつつある。</p>
<p>格差社会と言われているが、その差を拡げる要因に、契約、派遣社員、パートといった非正規社員の増加があるのでは？と思う。正社員と非正規社員の賃金の格差が、男性よりも女性のほうが開きが大きいような気がします。非正規社員の比率を減らし待遇改善を進めてゆく必要があると思います。豊見城市に置いても契約社員を多数雇用しているようですが、他の都市から手本となるように男女平等に正社員の雇用を進めて、格差を無くすようにしてもらいたい。1人親をもっとフォローして貧困をなくすよう努力して欲しいです。</p>
<p>豊見城は行政が自治会や門中という地縁、血縁に依存しすぎ。(←行政からの広報なども自治会や門中を通して)しかしながら、それらは昔からの組織であり、外から、市へ入ってきた人は、“寄留民”とよばれ排斥される。外から嫁いできた嫁も同じ扱い。この構造があるかぎり、この市において、男女共同参画の実現はありえない!!協働のまち推進課のみなさん、本当に、本気で男女共同参画を考えていますか? 昨年アンケートを受けましたが、その結果はどうなった? 行政にどう反映されましたか? 無駄だと思えます。男女共同参画は昔から豊見城に住んでいる人達の古い体質、意識改革なくしてはどうい無理!!</p>
<p>現役を卒業して10年ほどになる為、現在の社会の構成の情報が生小のころには入ってこないで、何とも言えないが、あえて申し上げるなら、問29の8の項目は「男女共同参画」の充実を促すためには必要以上に支援体制を確立して欲しいと思うのは生小だけでしょうか! いずれにしてもこれからの社会は、男性より女性の力がおおいに必要だと思います。</p>
<p>問29の2の実現よろしくおねがいします。</p>
<p>箱ものづくりの前に市民の意識改革が必要だと思います。</p>
<p>他の自治体でうまくいっている制度や取り組みは、いろいろな情報を入手し、豊見城市の実状を照らし合わせながら積極的に取り入れてほしい。住み良い豊見城市に期待しています。</p>
<p>豊見城市がこれからもいろんな活動し住みよい市になりますように…。</p>
<p>女性が仕事もち、子育て、介護をして行くには、男性の協力が必要だと思います。家事、育児、介護を女性の仕事だと思う、男性の意識改革が、まず一番ではないでしょうか。残業を減らし、性別に関係なくお互い協力できる、社会が理想です。</p>

<p>・女性が働きやすい環境(保育園・夜間保育)を充実してほしい。賃金アップ</p>
<p>女性が結婚、出産の為退職しても、社会復帰できるようこれからの若い人たちへの環境づくりが必要と思います。</p>
<p>私は、男女平等という言葉が、必ずしも、様々な分野で、適応するとは思いません。まず、体の作りから違うので、そこを踏まえて、適材適所という場で具体的に、様々な、ポジションや、役割を企業が理解し、特に、育児・保育に関する、分野で、国が政治的に、制定した事を、まず、企業側が、実践していかなければいけないと思います。それを、豊見城市が、具体的に手掛けてはいいのではないかと思います。</p>
<p>男女共同参画社会が進むことは自立した社会づくりにつながると思います。是非、いつでも何度でもチャレンジできる、社会制度の充実を実現していただきたいと思います。又、女性と子どもが生き活きと暮らせる社会こそ輝く未来があると思います。</p>
<p>【その他の意見】</p>
<p>子供の医療費を18才までにしてほしい。・児童手当が3人目から、減るのは、少子化としてどうなんですか？3人目から、産めなくなる。</p>
<p>保育園が、たくさんできると、うれしい。・子どもが増える事が望ましい。・高齢者。楽しみが、多いとうれしい。</p>
<p>県外に比べて賃金が安いので、上げてほしい。</p>
<p>とくにありません。役所の人も親切に窓口で対応してくれるので、わるく思ったことはありません。これからも、がんばって下さい！ その他の意見としてまとめること</p>
<p>高齢者や病人の介護施設・介護サービスの充実に、もっと力を入れて欲しいです。</p>
<p>・生活保護支給等はほんとに必要な方に配布が必要だと思います。</p>
<p>ついでにお願い。これから高齢者が多くなりますが70才～80才～90才と元気な人が働ける場所があればいきいきと病気も少ないと思います。又、望んでいる人も多いです</p>
<p>小学校、中学校、高等学校の周辺道路に街灯が少な過ぎる。道路が暗い事で交通事故や事件に巻き込まれる可能性が高くなります。</p>
<p>・交差点の信号をスクランブル交差点に改善してほしい。子ども、年寄りなど横断する際に、信号が変わるのが早くて、なかなか渡り切れない事や、車の多い所では、スピード出して突っ込んで来るので、キケン!!渡橋名団地前や、ドルチェの交差点とか特にキケン・夜は暗い道が多いので学校周辺に街灯がたくさん必要!!</p>
<p>まったく関係ありませんが金良地区の「あの道、早く工事を進めてくれー！！子どもがあぶない！</p>
<p>日本一、低い賃金の沖縄の現状を考えるべきだ。世の中、お金だと思ふ。30代で年収240万円。男女共同参画よりも問題です。何とかしてほしい。</p>

「平成 29 年度男女共同参画に関するアンケート」

【豊見城市の中学 2 年生のみなさんへ】

「男女共同参画社会」とは、性別にかかわらず、お互いを尊敬し合い、支え合いながら、一人ひとりがいろいろな場面で活やくできる社会のことをいいます。

このアンケートは、性別にかかわらず、一人ひとりが得意なことや能力を発揮できるまちをつくっていくため、みなさんの気持ちや考えを参考にするために行います。

テストではありませんので、自分の気持ち、いつも感じていることや考えていることを、そのまま書いてください。

平成 29 年 1 2 月 豊見城市長 宜保晴毅
(公印省略)

《アンケートに答えるときのお願い》

1. 名前は書かないでください。
2. 周囲の友人や先生に言葉の意味などを質問せず、自分の考えでお答えください。
3. 自分の答えにあてはまるものが無い場合は、自分の考えに近い番号に○をつけてください。
4. その他に○をつけたときには、() にあなたの考えを書いてください。

豊見城市 市民健康部 協働のまち推進課

問 10 LGBTをはじめとするセクシュアル・マイノリティ（性的少数者）への偏見や差別をなくすための取り組みが必要だと思いますか。（あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。）

1. 必要だと思う

2. 必要だと思わない

3. わからない

※このアンケートに関して、ご意見があれば自由にお書きください。

アンケート調査へのご協力ありがとうございました！

豊見城市男女共同参画都市宣言

平成 26 年 2 月 9 日

私たちは、市と市民が協働し、「自分らしく」「その人らしく」お互いの違いを認めあい、支えあい、高めあう、個性が輝くまち とみぐすくをめざしてここに「男女共同参画都市」を宣言します。

- 一、私たちは、一人ひとりの個性が尊重され、能力が生きる・活かせるまち とみぐすくをめざします。
- 一、私たちは、男女が共に家事、育児、介護を分かちあい、責任を担いあえるまち とみぐすくをめざします。
- 一、私たちは、性別に左右されず男女が共に職場、学校、地域等あらゆる場で平等に参画できるまち とみぐすくをめざします。
- 一、私たちは、人としての尊厳、人格、生き方を尊重する人権尊重のまち とみぐすくをめざします。
- 一、私たちは、相手を思いやる心で、平和を発信し、交流の輪をひろげるまち とみぐすくをめざします。



「平成 29 年度豊見城市男女共同参画社会づくりのための調査」

調査票

【アンケート協力に対するお願い】

豊見城市では、男女が互いに人権を尊重し、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮し、かつ、ともにあらゆる領域において利益と責任を分かち合える、男女共同参画社会づくりにむけ取り組んでいます。そこで、男女共同参画に関する市民意識を把握し、「第2次豊見城市男女共同参画プラン」の見直しに活かしたいと思い、アンケート調査を実施することになりました。

調査の結果につきましては、統計的な処理にのみ使用し、その他の目的に利用することはございませんので、趣旨をご理解のうえ皆様の貴重な意見を反映させるためご協力をお願いいたします。

平成29年12月 豊見城市長 宜保晴毅
(公印省略)

《ご記入にあたってのお願い》

1. 回答には、ご自身の考えでお答えください。
 2. 用意した答えの中に、完全に当てはまるものが無い場合でも、ご自身の考え方に最も近い番号等に○をつけてお答えください。
 3. 1月12日（金）までに、同封の返信用封筒にて、ご返信くださいますようお願いいたします。
- ※ 対象者は、豊見城市にお住いの18歳以上の方から4,000名を無作為に抽出しております。
- ※ なお、本調査は、豊見城市市民健康部協働のまち推進課が実施主体となりますが、調査の実施については、（株）沖縄計画機構に委託しています。
- ※ この調査についてのお問い合わせは下記をお願いいたします。

【問い合わせ】

豊見城市 市民健康部 協働のまち推進課 担当：神山修一 TEL850-0159
株式会社 沖縄計画機構 担当：野原純 TEL867-7471

問1 あなたの性別をお答えください。 (〇は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年代をお答えください。 (〇は1つ)

- | | | | | | | |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|
| 1. 18歳～19歳 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 | 5. 50代 | 6. 60代 | 7. 70代以上 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|

問3 あなたのご家族の構成についてお答えください。 (〇は1つ)

- | | | |
|-------------|----------------|-------------|
| 1. 単独（一人）世帯 | 2. 夫婦（パートナー）のみ | 3. 夫婦と子ども |
| 4. 3世代世帯 | 5. 母子・父子家庭 | 6. 兄弟・姉妹の世帯 |
| 7. その他（具体的に | | ） |

問4 あなたは、ご結婚されていますか。 (〇は1つ)

- | | | | |
|-------|-------|-------------------------|----------|
| 1. 未婚 | 2. 既婚 | 3. 結婚していないがパートナーと暮らしている | 4. 離別・死別 |
|-------|-------|-------------------------|----------|

問5 あなたの職業は、次のどれに該当しますか。（出産、育児等で休業中の方も働いているとみなします。） (〇は1つ)

- | | | |
|-------------------------------|--------------|-----------------|
| 1. 正社員（一般職） | 2. 正社員（技術職） | 3. 会社役員（管理職を含む） |
| 4. 公務員 | 5. 契約社員、派遣社員 | 6. 常勤パートタイマー |
| 7. 臨時・アルバイト | 8. 内職 | 9. 農業・林業・漁業 |
| 10. 商工業・サービス業（卸・小売店、飲食店等サービス） | | |
| 11. 自由業（開業医師、弁護士、芸術家など） | | |
| 12. 主夫・主婦 | 13. 学生 | 14. 無職 |

問6 問4で「2. 既婚」「3. 結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方に伺います。あなたの配偶者（パートナー）の職業（出産、育児等で休業中の方も働いているとみなします。）は次のどれに該当しますか。 (〇は1つ)

- | | | |
|-------------------------------|--------------|-----------------|
| 1. 正社員（一般職） | 2. 正社員（技術職） | 3. 会社役員（管理職を含む） |
| 4. 公務員 | 5. 契約社員、派遣社員 | 6. 常勤パートタイマー |
| 7. 臨時・アルバイト | 8. 内職 | 9. 農業・林業・漁業 |
| 10. 商工業・サービス業（卸・小売店、飲食店等サービス） | | |
| 11. 自由業（開業医師、弁護士、芸術家など） | | |
| 12. 主夫・主婦 | 13. 学生 | 14. 無職 |

問 13 あなたの家庭では、家全体の重要なことから（財産の処分や購入の決定など）を決めるときに誰の意見が尊重されますか。 （〇は1つ）

1. 自分	2. 配偶者	3. 父・義父	4. 母・義母
5. 息子・婿	6. 娘・嫁	7. 家族の話し合いによる	
8. その他（具体的に			）

問 14 あなたは、子どもの時に、行儀作法や言葉遣いについて、親から「女性であれば“女の子らしく”、男性であれば“男の子らしく”」ふるまうよう言われましたか。 （〇は1つ）

1. よく言われた	2. どちらかといえば言われた	3. ほとんど言われなかった
-----------	-----------------	----------------

問 15 次にあげる教育のあり方で、あなたが特に必要だと思うものを選んでください。 （〇は3つまで）

1. 学校などの出席簿の並び順を「男が先で女が後」の順から、五十音順や地域順といった男女混合名簿に変える。
2. 生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する。
3. 学校生活での児童・生徒の役割分担を男女で区別しない。
4. 教職員研修に男女共同参画を取り入れるなどして、教職員の意識を高める。
5. P T Aや保護者会などを通して、男女共同参画への理解を深める。
6. 男女平等などや相互理解協力についての学習機会の充実を図る。
7. その他（

問 16 あなたは現在、どのような地域活動に参加していますか。 （それぞれ該当する箇所〇を付け、不参加の場合は該当する不参加理由の番号を記入ください。）

活動内容	参加	不参加	不参加の理由
自治会			
婦人会・女性部・青年会・老人会			
P T Aなど子どものための活動			
介護・福祉分野のボランティア			
女性問題の学習や男女共同参画のための活動			



〈不参加の理由〉	
1. 社会活動に関心がない	2. 地域で興味や関心の持てる活動が行われていない
3. 仕事が忙しく時間がない	4. 家事・子育て・介護が忙しくて時間がない
5. 自分の体調がすぐれない	6. 家族の理解や協力が得られない
7. 経済的な負担が大きい	8. 地域活動に関する情報が少ない
9. 活動するための施設が近くにない	10. 人間関係がわずらわしい
11. 同性の参加者が少ないため	12. 該当しない
13. その他（	）

問 18 次の言葉を知っていますか。(それぞれ〇を1つ)

項目	認知度		
	内容も知っている	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたこともない
男女共同参画社会	1	2	3
DV (ドメスティック・バイオレンス)	1	2	3
セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)	1	2	3
社会的性別 (ジェンダー)	1	2	3
仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)	1	2	3
セクシュアル・マイノリティ (性的少数者)	1	2	3

問 19 あなたは、配偶者や恋人など親しい関係にある人から、DV (殴る蹴るなどの身体的暴力、どなる、脅すなどの精神的暴力、性的行為の強要などの性的暴力、お金を取り上げるなどの経済的暴力) をうけたことがありますか。(〇は1つ)

1. 現在もある	_____	→	問 20 へお進みください
2. 過去にあった	_____		
3. そのようなことはない	_____	→	問 22 へお進みください

問 20 問 19 で「1.現在もある」又は「2.過去にあった」と答えた方にお聞きします。あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(〇はいくつでも)

1. 警察に相談した	2. 女性相談所に相談した
3. 民生委員に相談した	4. 父・母や子どもなどの親族に相談した
5. 友人に相談した	6. 役所に相談した
7. 近所の方や地域の方に相談した	8. 病院のカウンセラーに相談した
9. どこ(誰)にも相談しなかった(できなかった)	10. その他()

問 21 問 20 で「9. どこ(誰)にも相談しなかった(できなかった)」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。(〇はいくつでも)

1. どこに(誰に)相談していいか分からなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがばれると仕返しを受けたり、もっとひどいことをされると思った
5. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った
6. 自分が我慢すればいいと思った
7. 世間体が悪い
8. 他人を巻き込みたくなかった
9. そのことを思い出したくなかった
10. 自分にも悪いところがあると思った
11. 相談するほどのことではないと思った
12. その他()

問 22 セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）を受けたことがありますか。 （○は1つ）

1. 現在もある	_____	→	問 23 へお進みください
2. 過去にあった	_____		
3. そのようなことはない	_____	→	問 26 へお進みください

問 23 問 22 で「1.現在もある」又は「2.過去にあった」と答えた方にお聞きします。具体的にどのようなことをされましたか。 （○はいくつでも）

1. 性的な言葉によるからかい（性的な冗談、性的な体験談を話す・聞く）
2. 食事等へのしつこい誘い、宴会でのお酌やデュエット等の強要
3. ノード写真やポスターの掲示、わいせつな週刊誌やスポーツ誌の閲覧
4. 不必要に体をさわったり、性的な関係を強要する
5. 性的なうわさをながす
6. 結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無などについてあれこれ言う
7. その他（ _____ ）

問 24 問 22 で「1.現在もある」又は「2.過去にあった」と答えた方にお聞きします。そのことを誰かに相談しましたか。 （○は1つ）

1. 相談した	2. 相談していない
---------	------------

問 25 問 24 で「2.相談していない」と答えた方にお聞きします。相談しなかった理由は何ですか。 （○はいくつでも）

1. 職場に相談する窓口がない	2. 相談窓口が分からなかった
3. 職場で不利な立場になるのが不安だった	4. 自分さえ我慢すれば何とかなると思った
5. 相談するほどの事ではないと思った	6. その他（ _____ ）

問 26 あなたは LGBT を含む性の多様性について知っていましたか。 （○は1つ）

1. 知っているし、内容も理解している
2. 聞いたことはあるが、内容は理解していない
3. 知らない

問 27 LGBT 等の当事者への偏見や差別をなくし、性の多様性を認め合う社会を作るための取り組みが必要だと思いませんか。 （○は1つ）

1. 必要だと思う	2. 必要だと思わない	3. わからない
-----------	-------------	----------

豊見城市男女共同参画に関するアンケート調査結果報告書

平成 30 年 3 月

【編集・発行】

豊見城市 市民健康部 協働のまち推進課

〒901-0292 沖縄県豊見城市字翁長 854 番地 1

TEL(098)850-0159 FAX(098)850-6323